

各種類ノ配合ヲ決定スル手段ヲ有セサルヘカラサルコトハ敢テ疑ヲ容レサル所ナリ是ヲ以テ中央銀行ハ頗ル廣汎ナル範圍内ニ於テ其拂出ヲ爲スニ當リ自己ノ流通セシメントスル種類ノ貨幣ヲ以テスル勢力ヲ有スルモノナリ露帝國銀行ハ金貨本位施行ノ際數十年來紙幣ニ慣熟シタル社會ニ向ツテ漸次金貨ヲ充溢セシメントスルニ當リ大規模ニ流通貨幣ノ種類ヲ決定スル權能ヲ利用シタリ然レトモ公衆カ其慣熟シタル紙幣ヲ以テ新硬貨ニ勝レリトシタル頑固ナル抵抗ハ反テ銀行カ銀行券ニ引替ヘテ社會ヨリ金貨ヲ吸收セントスルニ當リテハ特別ノ苦勞ヲ要セサリシコトヲ推測セシムルニ足レリ其他露國新聞ハ極東戰爭カ當然硬貨ノ代リニ紙幣ノ需要ヲ——殊ニ銀行券輸送上ノ便利ナル爲メ——増進セシメサルヲ得サルコトヲ記載シタリ是ヲ以テ銀行ハ現役軍ノ部隊及ヒ金庫ニ供給スルニ金貨ヲ以テスルヨリモ紙幣ヲ以テスルノ適ニ單簡且ツ低廉ナルモノアルカ故ニ紙幣ノ好尚ニ抵抗スルノ理由毫モアラサルナリ(千九百四年七月九日「ペーテルスブルグ新聞」)

露國大藏大臣ノ最近ノ豫算報告書ハ本件ニ關スル露帝國銀行ノ處置ニ就キ次ノ辨明ヲ與ヘタリ曰ク流通手段ニ關シ戰時中帝國銀行營業ノ方針ハ受取人ノ希望

第二編

第二編

スル金貨ノ拂出ヲ毫モ妨クルコト無クシテ公衆ニハ流通手段ノ選擇ニ就キ完全ナル自由ヲ與ヘ而モ少額ノ紙幣ヲ希望スルモノアル限リハ其交付ヲ拒絕セサルニ在リタリト又他ノ箇所ニ曰ク財政委員會ノ同意ヲ經テ帝國銀行金庫ヨリ西比利亞及東部露西亞ニ少額ノ紙幣ヲ發行シタル所以ノモノハ大藏省カ帝國銀行ノ作業上金貨ノ拂出ヲ幾分減少セントスル趣旨ヲ有シタルカ爲メニシテ斯種ノ紙幣ノ發行ハ國內ノ取引ニ顯著ナル功用ヲ與ヘ且ツ其豫定ノ目的ヲ充分ニ達シタリ少額ナル紙幣ヲ發行スル禁令ノ非常事變ニ基ク廢止及帝國銀行ノ支拂上金貨ヲ交付スヘキ義務ノ解除ハ人民ノ希望ニ適合シタルモノニシテ人民ハ自己ニ寧ロ便宜ナル紙幣ヲ好ンテ受領シ加之ス之ヲ要求シタル有様ナリ斯ノ如キ公衆ノ態度ハ巨額ノ金準備ニ依テ保證セラレタル流通貨幣ノ鞏固ニ對スル確信ニ基キタルモノナリ事態夫レ斯ノ如クナルヲ以テ最モ人民ノ便利ニ適合シタル流通手段ハ之ヲ最良ノ流通手段ト認ムルコトヲ得ヘシト是ニ由テ之ヲ觀レハ嘗テ千九百四年十月ノ海軍月報ニ於テ述ヘタル推測ノ適中シタルヲ知ルヘシ露國大藏省ハ開戰前數年間ニ於テ數十年間紙幣ニ慣熟シタル人民ヲシテ硬貨ノ使用ニ慣レシメ且ツ社會ニ金貨ヲ充溢セシメントシタル處置ヲ取消シ以テ流通貨幣ノ動員

編 二 第

一八二

ヲ行ヒタリ少額ノ銀行券(一、二、五圓)發行ノ禁令ハ廢止セラレ且ツ銀行ノ金庫ハ拂出ノ際主トシテ金貨ヲ提供スヘキ規定ノ代ハリニ主トシテ銀行券ヲ以テ仕拂ヒ特別ノ要求アリタル時ニ限り金貨ヲ交付スヘキ規定ヲ以テシタリ但シ新聞紙ニ於テハ時々露帝國銀行力更ニ一步ヲ進メ時々絶對的ニ金貨ノ交付ヲ拒絕シタルコトヲ主張シタルモノアリ是レ或ル場合ニ於テ實際發生シタルコトアルヘシト雖モ之レ恰モ獨逸ニ於テ帝國銀行力其支店ニ於ケル銀行券兌換ハ其現金及貨幣需要ノ許ス限リ法律上義務アルト一般ナリ若シ夫レ銀行ニシテ眞ニ金貨ノ支拂ヲ拒絕シタリトセハ露國本位貨幣ノ價格ニ影響ヲ及ボサル道理アラサルナリ

銀行ノ同時ニ増加シタル金準備ヲ超過シ且ツ貨幣總流通額ノ増加ト認ムヘキ頗ル多額ナル銀行券ノ發行ハ主トシテ戰場ニ於ケル貨幣ノ需要ニ基因シタルモノナリ戰場ニ於テハ支拂方法トシテ專ラ紙幣ヲ輸送シタリ是レ運搬費節約ノ外滿洲ノ人民ハ支拂方法トシテノ金ヲ知ラス且ツ銀貨ハ滿洲ニ於テ其ノ額面價格ニ依ラスシテ銀ノ分量ニ依リ流通スルカ故ニ銀貨ノ使用ハ不利益ナリシカ爲メナリ滿洲人民ノ露國紙幣ニ對スル信用ヲ鞏固ナラシムルカ爲メ——大藏大臣ノ豫算

編 二 第

報告書ニ云ヘル如ク——現場ニ銀基金ヲ設置シ是ニ由テ紙幣ハ要求ニ依リ地方慣行ノ交換手段(一定ノ重量ヲ有スル銀塊、銀兩)ト兌換シタリ千九百四年末戰場及附近地域ニ於テ流通セシメタル紙幣ノ總額ハ豫算報告書ニ於テ一億留以上ト計上セラレタリ此ノ額ハ其後尙ホ著シク増加シタリシナルヘシ銀行ノ回收ハ固ヨリ徐々ニ行ハル、ナルヘシ

銀行券増發ノ如上ノ原因ニ就テハ毫モ疑ヲ容レスト雖モ露國大藏大臣カ其豫算報告書ニ於テ記載シタル紙幣増發ノ第二ノ原因即チ「通常秋期ニ於ケル商工業ノ振興」カ幾分顯著ナル影響ヲ及ボシタルヤ否ヤニ至テハ頗ル疑ハシト云フヘシ千九百四年秋期ニ於テ露帝國銀行ノ手形割引及擔保貸出業ニ於テ融通ノ格別ノ膨脹ヲ來タサス且ツ紙幣増發ハ例年資金需要増加ノ季節ヲ經過シタル後ト雖モ殆ント間斷ナク繼續シタル事實ニ徴シテ之ヲ見レハ果シテ然ラサルカ如シ

夫レ斯ノ如ク銀行ノ金庫及自由流通中ニ於ケル異動ハ趣味アリ且ツ一見——少クトモ千九百四年前半期ニ對シテハ——銀行ノ準備金増加ト銀行券發行額増加トノ充分ナル符合ニ依テ銀行券増發ノ事實ヲ説明スルニ足ルカ如シト雖モ此二者ノ異動ニ依テノミ銀行ノ戰時協力ヲ判斷スルコト能ハサルナリ之カ爲メニハ專ラ

銀行報告中ノ其他ノ項目就中銀行ノ對外金貨爲替及銀行ノ對外金貨貸方其外私人ニ對スル貸金ニ關スル異動ヲ參考セサル可カラス銀行ノ對外金貨爲替及金貨貸方ノ總額ハ千九百四年一月一日(十四日)ニ於テ一億六千九百十萬留ナリシニ五月十六日(二十九日)マテニ三千九百九十萬留ニ減シ七月一日(十四日)一億留十月一日(十四日)一億四千七百四十萬留ニ達シタリ又爾後ノ月モ著シキ異動ヲ呈シタリ然レトモ大體千九百四年十月以降ハ開戰後八箇月間ニ比シ本項目ノ數字ハ著シク増加シタリ千九百五年十月一日(十四日)ノ報告ハ對外貸方及對外爲替トシテ二億七千二百七十萬留ヲ計上シタリ是レ千九百四年一月一日(十四日)ノ報告ニ比シ一億三百六十萬留多額ナリ大體千九百四年ノ初ニ於テ銀行ノ有セシ金及金貨債權ハ九億二百萬留ナリシニ千九百五年十月一日(十四日)マテニ十一億六千六百萬留ニ増加シタリ即チ二億六千四百萬留ヲ増加シタル割合ナリ銀行ノ金及金貨債權ノ銀行券發行高ニ對スル超過ハ千九百四年ノ初ニ於テハ三億二千三百三十萬留ニシテ千九百五年十月一日(十四日)ニ於テハ七千五十萬留ニ減シ即チ二億五千二百八十萬留ノ減少ヲ來タシタリ斯ノ如ク銀行ノ資産狀況ニ異動ヲ來タシタル所以ハ銀行ノ多數ノ貸方項目ノ減少シタルニ徴シテ國庫預金ノ異動ニ基因スルモ

第二編

第二編

ノナルコトヲ知ルヘキナリ國庫預金ハ千九百四年ノ初開戰ノ危機ニ鑑ミテ三億八千三百二十萬留ナル巨額ニ達シタリシカ一時零以下ニ減シ且ツ千九百五年十月一日(十四日)ニ於テハ千二百九十萬留ナリシナリ(大藏省ト銀行トノ關係ニ就テ精密ナル想像ヲ爲サンニハ帝國國庫ノ銀行本店ニ對スル貸方ノ外銀行ノ支店ト地方支金庫トノ計算ノ狀況ヲ併セテ參考スルコトヲ要ス地方支金庫ノ銀行支店ニ於ケル貸方カ地方支金庫ニ對スル銀行支店ノ貸方ヲ超過スル時ハ其差額ハ帝國國庫ノ貸方ニ加算シ反對ノ場合ニ於テハ帝國國庫ノ貸方ヨリ控除スヘキモノトス)是ヲ以テ千九百四年ノ初ニ於ケル狀況ニ比シ三億七千萬留ヲ減少シタル次第ナリ無論國庫ノ銀行ニ對スル貸方ハ時々公債賣得金ノ交付ニ依テ再ヒ填補セラレタリシナリ

國家ハ其貸方ニ關スル如上ノ處分——之レカ爲メ貸方ハ一時全ク消耗セラレタルコトアリ——ニ依ルノ外千九百五年第二回内債ノ募集ニ際シ銀行ノ協力ヲ求メタリ銀行カ該公債總額二億留中五千萬留ヲ引受ケタルコトハ嘗テ之ヲ記述シタリ露國大藏省ハ十七箇月ノ戰期後初テ資金調達ノ目的ニ帝國銀行ヲ利用シタリシナリ然レトモ露國大藏省ハ財政困難ナル諸國ノ往々履踐スルカ如キ無準備借上

編 二 第

ノ方法ヲ執ラスシテ新ニ募集スヘキ公債ノ發行ニ關與セシムル方法ヲ執リタリ
銀行ハ元ヨリ其引受ケタル公債ヲ賣却スルノ自由アリ但シ金融市場ノ形勢カ久
シキ間公債引受額ヲ自己ノ囊中ニ貯藏スルノ已ムヲ得サルニ至ラシムルコトア
ルハ之ヲ承認セサルヲ得ス上述シタル財政的運用カ銀行ノ資産狀況ニ實際及ホ
シタル影響ハ次ノ如シ即チ八月八日(二十一日)ニ於ケル五千四百六十萬留ノ有價
證券所有高ハ八月十六日(二十九日)ニ於テ九千四百四十萬留ニ増加シ次ノ銀行報告
ニ據レハ即時ニ七千四百六十萬留ニ減少シタルコト此ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ
銀行ハ其引受ケタル公債ノ著シキ部分ヲ再ヒ賣却スルヲ得タリシコトヲ知ルヘ
シ兎ニ角國家カ上述シタル公債發行ニ對スル銀行ノ參加ニ依リ銀行ノ義務者タ
ルハ銀行カ其引受ケタル公債中未タ再ヒ讓渡サ、ル部分カ國庫ノ貸方ヲ超過ス
ル間ニ止マレリ而シテ斯ノ如キ場合ハ慥ニ一時ニ過キサルナリ以上ノ顛末ハ將
來尙ホ戰爭ノ繼續シタル場合ニハ帝國銀行ノ信用ニ依賴スルノ殆ント避ク可カ
ラサリシモノナルコトヲ示ス徵候トシテ重大ノ關係アリ然レトモ露國カ銀行ノ
債務者トナリタル事實ノ實際上ノ影響ハ非常ニ誇張セラレタリ抑、中央銀行ノ公
債應募ハ前代未聞ノ事柄ニアラサルナリ獨逸帝國銀行ノ如キモ往々帝國公債ノ

編 二 第

引受及發行ニ關スル組合ノ指導者トシテ現ハレタルコトアリ其外露帝國銀行ノ
引受ケタル公債額ハ銀行資産ノ他ノ項目ノ數字ニ比シ其タ僅少ニシテ銀行ノ全
體ノ位置ハ此運用ニ依テ格別ノ影響ヲ認メサルナリ又此點ニ就テモ獨逸帝國銀
行トノ比較ヲ試ミサルヲ得ス即チ獨逸帝國銀行ハ最近代ニ於テ多額ノ大藏省證
券ヲ引受ケ再三帝國ノ大債權者トナリ且ツ其ノ資産ハ帝國ニ對スル貸金ニ依リ
時トシテ甚シキ影響ヲ被リタルコトアリ而モ是レ平時ニ於ケル事件ナリシナリ
今夫レ公平ナル批判ヲ下サハ露帝國銀行ハ戰爭中極メテ良好ノ態度ヲ保チ十九
箇月間ノ戰期ヲ經過シ其間國內ノ騷擾アリタルニ拘ハラズ今尙ホ優越鞏固ノ位
置ヲ保チタルコトヲ承認セサル能ハス露帝國銀行ノ金及即時ニ換價シ得ヘキ金
債權ノ總額ハ戰爭ノ終ニ於テ(八月十六日—二十九日)ノ報告十一億三千五百萬留
即チ二十四億五千萬馬克ノ巨額ニ達シタリ此準備金ハ銀行券發行額(九億九千六
百萬留)ヲ超過スルコト尙ホ一億四千萬留ニシテ銀行ハ戰爭ノ終期ニ際シ法律上
ノ範圍内ニ於テ尙四億四千萬留(即チ九億五千萬馬克)ノ銀行券ヲ増發シ又ハ其準
備金中ヨリ同額ヲ支出スルコトヲ得タリシナリ又其銀行券ヲ法律上許サレタル
最高額マテ増發スルモ尙ホ現在ノ金在高ハ約八割ノ準備金ニ相當スルモノニシ

テ斯ノ如キ準備ノ割合ハ平時ニ於ケル歐洲多數ノ兌換券發行銀行ノ準備ニ比シ著シク優レルモノナリ譬ヘハ獨逸帝國銀行ニ於テ銀行券ニ對スル正貨準備(金銀補助貨帝國紙幣)ノ法定最低額ハ僅ニ三割三步三厘ニシテ獨逸帝國銀行ノ發行シタル銀行券ノ實際ノ金準備ハ千九百四年ノ平均僅ニ五割二步九厘ニ過キサリナリ其他露帝國銀行ノ金準備ノ外露國國庫ハ戰爭中ト雖モ常ニ金及金債權ノ巨額ヲ準備シタル事實ヲ參酌セサル可カラス此銀行ノ金準備ト無關係ナル金準備ハ千九百四年八月一日(十四日)ノ半官的報知ニ據レハ二億七千二百二十五萬留ナリ千九百四年九月十日(セントペートルスブルグ新聞)千九百四年末ニハ二億留ヲ超過スルコト更ニ一層多額ナリシナルヘシ

戰爭終決シ且ツ露國金貨本位ノ維持及ヒ露帝國銀行ノ銀行券發行額ト金準備トノ割合ニ徴シテ兌換力ノ安全ニ對スル一切ノ疑惑水解シタル今日ニ於テハ露國大藏省カ戰爭中銀行ノ金準備及銀行券發行權ニ於テ特ニ強固ナル後橋ヲ有シ之カ爲メ政府ハ軍資調達ニ際シ時々難關ヲ切抜クルコトヲ得タリシコトハ敢テ喋喋ヲ要セサルヘシ

此後橋ハ講和談判ノ際露國ノ鞏固ナル立場ニ於テ顯著ナル成績ヲ呈シタリ露國

第 二 編

第 二 編

銀行ハ講和締結ノ當時上述シタル如ク銀行法ノ成規内ニ於テ尙ホ約四億四千萬留ノ銀行券ヲ増發スルコトヲ得タリシナリ是ヲ以テ露國大藏省ハ戰時ニ際シテ他國ノ往々行ヒタル銀行法ノ停止ヲ行フコト無ク又本位貨幣ノ價格ヲ危殆ナラシムルコトナクシテ少ナクトモ五箇月ノ戰期ヲ支フルニ足ルヘキ上述ノ準備金ヲ使用スルコトヲ得タリシナリ露國ハ總テノ財源盡キ其最モ不利ナル場合ニ際リテハ銀行法ヲ廢止シ以テ銀行ノ準備金ヲ軍用ニ供スルコトヲ得ヘカリシナリ是レ固ヨリ從來多大ノ犧牲ヲ供シテ實行シタル金貨本位制ヲ拋棄セシムルモノナリト雖モ而モ露國ハ此犧牲ニ依リ外國貨幣市場ト關係ナクシテ滿一年間財政戰爭ヲ繼續スルコトヲ得タリシナリ露國カ斯ノ如キ犧牲ヲ供セサリシハ機宜ニ適シタルモノナリト雖モ露國カ尙ホ斯ノ如キ犧牲ヲ供スルコトヲ得且ツ其代償トシテ斯ノ如キ巨額ノ資金ヲ調達スルコトヲ得タル事實ハ戰爭ヲ繼續スルコトヲ得タルヤ否ヤノ問題ニ就テハ露國ノ重大ナル利益ニ歸シ且ツ之カ爲メ講和條件ノ如何ニ大影響ヲ及ホサ、ルヲ得サリシナリ

第八節 露國戰爭資金調達ノ概觀

以上ノ説明ハ吾人ヲシテ露國戰爭資金調達ノ概況ヲ窺知セシムルニ足レリ
吾人ハ戰爭ノ爲メ直接ニ租稅ノ増徴ヲ行フコトナク寧ロ或ル財源ノ増收入ハ之
ヲ以テ戰爭ノ結果タル公債經費ノ支辨ニ供スヘキモノナルコトヲ認メタリ是ヲ
以テ吾人ハ軍資調達項目中此名義ヲ認ムルコト能ハス

次ニ吾人ハ露國カ露帝國銀行ヲ戰爭ノ爲メ利用シタルハ一回ハ開戰當時頗ル多
額ナリシ銀行預金ヲ一時全部回收シ一回ハ千九百五年第二回内債募集ニ際シ銀
行ヲシテ五千萬留ヲ引受ケシメタルニ止マルコトヲ見タリ國家ハ第一ノ場合ニ
於テ銀行ヨリ借金ヲ爲シタルモノニアラスシテ唯自己ノ貸方ヲ處分シタルノミ
即チ戰爭ノ準備金タル帝國國庫ノ自由資金ヲ漸次消耗シタルニ止マレリ此貸方
ノ回收ハ銀行券ノ形式ヲ以テシタレトモ如上ノ關係ヲ抹殺スルニ足ラサルナリ
即チ銀行券ハ土耳其戰爭當時ノ如ク國家ニ對スル貸金トシテ交付セラレタルモ
ノニアラスシテ開戰當時ノ國家預金ノ拂出ニ過キサルナリ是ヲ以テ國家預金ノ
減少及同時ノ銀行券發行額ノ増加ハ單ニ帝國國庫ノ自由資金ノ支出ヲ爲シタル
モノニ過キサルナリ第二ノ場合ニ於テ——即チ千九百五年八月第二回内債募集ノ
參加——銀行ハ其引受ケタル公債ニ對シ國家ニ貨幣ヲ與ヘタレトモ此金額ハ公債

編 二 第

ノ轉賣ニ得タル代金ニ依リテ已ニ收納シタルモノナリ是ヲ以テ露帝國銀行ノ項
目中ニモ軍資金調達ノ一節ヲ設クルコト能ハス
是ニ由テ之ヲ觀レハ自由資金及公債收入ノ二點存スルニ過キサルナリ
第一自由資金ノ計算左ノ如シ

千九百四年始帝國國庫ノ自由資金	三八一
千九百四年經常部剩餘金	一〇七
千九百五年經常部剩餘金見込額	六一
合計	五四九

内

戰爭ト關係ナキ臨時歲出(千九百四年一億六千二百萬 留千九百五年七千九百萬留)ニシテ公債賣得金ヲ除ク	二三五
其他ノ臨時歲入(各年三百萬留)ヲ超過シタル金額	三二四
即チ戰爭ノ目的ニ供シ得ヘキ資金	一一〇
第二軍事公債賣得金	一五二四
戰爭ノ爲メ露國ノ醸出シ又ハ準備シタル資金總額	一九一

編 二 第

以上ノ金額中現時幾何ノ剩餘金アルヤハ世間ニ發表セラレサルナリ以上ノ計算ニ據レハ九月ニ於テ未タ支出セラレサル金額ハ最後ノ内債賣得金約一億九千萬留ヲ僅ニ超過スルニ止マルヘシ是ヲ以テ戰爭ノ費用ハ九月迄ニ約十三億三千万留ニ達シタリシナルヘシ是レ一箇月六千六百五十萬留ノ割合ナリ終局ノ整理就中軍隊送還ハ現時ノ剩餘ヲ悉ク消耗スヘキヲ以テ前述シタル如キ復舊工事ニハ尙ホ多額ノ資金ヲ要スヘシ

第二章 日本

第一節 日本ノ財政上ノ概況及戰時財政ノ

豫算上ニ於ケル取扱

千九百三年乃至四年ノ豫算經常及臨時豫算ハ歳入ヲ二億五千七百七十萬圓歳出ヲ二億四千八百八十萬圓ト見積リタリ該豫算實施ノ結果左ノ如シ

歳入	歳出	臨時部	歳入超過	歳出超過	總豫算剩餘
二二四・二	二二四・二	一〇・六	五三・三	四三・八	一〇・六
百方圓	百方圓	(+)	五三・三	四三・八	(+)
二二一・八	二二四・二	三・七	一七九・五	一六九・八	九・七
百方圓	百方圓	(+)	一七九・五	一六九・八	九・七
七・六	七・六	三・七	一六九・八	一六九・八	三・七
百方圓	百方圓	(+)	一六九・八	一六九・八	三・七

決算ト豫算トノ比較

第二編

歳入	歳出	臨時部	歳入超過	歳出超過	總豫算剩餘
一〇・六	四三・八	一〇・六	五三・三	四三・八	一〇・六
(+)	(-)	(+)	五三・三	四三・八	(+)
三・七	二・六	三・七	一七九・五	一六九・八	九・七
(+)	(-)	(+)	一七九・五	一六九・八	九・七
三・七	二・六	三・七	一六九・八	一六九・八	三・七
(+)	(-)	(+)	一六九・八	一六九・八	三・七

(歳出ノ減少ハ主トシテ國債費四千二百四十萬圓ノ豫算カ價運額減少ノ結果僅ニ三千六百五十萬圓ヲ支出シタルニ由レリ)

經常歳入ノ豫算ニ比シテ減少セルハ專ラ千九百三年ノ米ノ凶作ノ結果日本ノ歳計ニ重要ナル酒造税ニ於テ千三百七十萬圓ノ缺損ヲ生シ他ノ財源ノ増收入ニ依テ僅ニ一部分補充セラレタルニ由レリ經常歳出ノ豫算ニ對スル減少及臨時部ノ變更ハ既ニ戰爭ト關聯セルモノナリ

國債ハ千九百三年三月下旬五億五千九百六十萬圓ニ達シ千八百九十五年以來二億六千四百萬圓即チ約八割ヲ増加シタリ軍費ノ一部分ヲ支辨スルカ爲メ流用

第二編

シ得ヘキ一ニノ特別資金ノ外日本政府ハ露國國庫ノ自由資金ノ如キ準備資金ヲ有セサルナリ日本銀行ハ千九百四年公表シタル第一回ノ報告ニ據レハ一億千五百七十萬圓ノ金準備ヲ有シ之ニ對シテ二億千四百八十萬圓ノ銀行券ヲ發行シタリ銀行ニ於テ日々滿期トナル國庫ノ貸方ハ僅ニ千五百五十萬圓ニシテ銀行ノ國家ニ對スル貸金ハ五千四百三十萬圓ニ達セリ

多額ナル準備金ノ缺乏ト日本銀行ノ大ニ有力ナラサル資産トニ鑑ミテ政府ハ早クヨリ軍費支辨ノ爲メ準備ヲ爲サ、ルヲ得サリシナリ

露國トノ關係切迫シ殆ント最早ヤ平和ノ解決ヲ望ム可カラサル時ニ際テ政府ハ千九百三年乃至四年ノ豫算年度ノ豫算ヲ成規ニ從テ處理スルコト能ハサルニ至レリ既ニ數年來増加セル經常歳出ヲ支辨スルカ爲メ政府ノ必要ト認メタル増稅計畫ハ議會ニ於テ——軍備大擴張計畫ノ爲メ臨時歳出ヲ奮テ可決シタルニ拘ハラズ——有力ナル反對ニ遭遇シタリ該反對ハ特ニ地租ノ増徴ニ對スルモノニシテ議會解散後ニ至テ初メテ承諾セラレ而モ千八百九十九年乃至千九百三年ノ五箇年間ニ限ラレタリ政府カ地租増徴ヲ千九百十三年乃至十四年ノ豫算年度マテ繼續セントスル意嚮ハ再ヒ議會トノ衝突ヲ招キ千九百二年乃至三年度ノ豫算及ヒ千

第二編

九百三年乃至四年度ノ豫算ノ成立ヲ妨ケタリ日本ノ憲法ニ據レハ豫算成立セサル場合ニハ前年度ノ豫算ヲ施行シ唯タ歳入及歳出ニ於テ特別ノ法律又ハ特別ノ事情ニ依リ必要ナル變更ヲ加フルニ過キス豫算ハ斯法ニ據リ編成セラレタルカ後ニ追加豫算可決セラレタルヲ以テ兩年度ノ豫算ハ著シク變更セラレタリ縱令政府ハ千九百三年ニ於テ地租増徴ノ繼續ヲ拋棄シタルモ千九百四年乃至五年度ノ豫算ハ成規ノ議決ヲ經ルニ至ラスシテ議會ハ既ニ集會ノ即日解散セラレタリ即千九百四年乃至五年度ノ豫算モ再ヒ前年ノ豫算ニ據ラサルヲ得サリシナリ

然ルニ此等ノ事情ハ政治上ノ事變ニ依リ全ク抹殺セラレタリ戰爭ノ危險ハ切ニ大資金ノ準備ヲ緊急ナラシメタリ之カ爲メ皇帝ハ千九百三年十二月二十八日緊急勅令ヲ發シ政府ハ戰鬪準備ノ爲メ各種ノ特別資金ヲ繰替使用シ國庫債券ヲ發行シ公債ヲ募集スル許可ヲ得タリ

開戦後千九百四年三月臨時議會召集セラレ千九百三年十二月二十八日ノ勅令ニ基ケル處分ニ付キ事後承諾ヲ求メ且ツ戰爭ノ結果必要ヲ生シタル新豫算年度ノ歳出及之ヲ支辨スルニ足ル歳入ノ協賛ヲ求メタリ

露國ノ戰時財政ノ豫算上ノ取扱ト異ナリ日本ニテハ最初ハ千九百四年乃至五年

ノ豫算年度次ニハ千九百五年乃至六年ノ豫算年度ニ對スル經費及之ヲ支辨スル財源ヲ豫定シ且ツ議會ノ協賛ヲ經タル後戰爭ノ爲メ特別ノ豫算ヲ編成シタリ然レトモ日本及露國ノ措置ハ兩國共軍事費及其財源ヲ一般ノ歲計豫算ニ組入レサル點ニ於テ一致セリ露國ニ於テモ一般ノ豫算ヲ編成シ特別ノ軍事費豫算ヲ附録トナシタリ日本ノ措置ハ疑モ無ク立憲的政體ニ適合シ特別ノ軍事費豫算ニ依リ豫見セラレサル經費ノ支拂ヲ委任シタル露國ノ措置ハ專制政治ト相照應シタルモノナリ然レトモ後ニ説明スル如ク結局露國大臣ノ説明シタル「軍事費ハ豫メ數字的ニ豫定スルコト能ハサルモノナリ」トノ理ハ日本ニ對シテモ適中シ日本政府ハ戰爭ノ進行中承諾セラレタル豫算額及其支辨法ヲ固守スルコト能ハサルニ至リタリ

第二編

第二節 千九百四年乃至五年及千九百五年

乃至六年ノ通常豫算及軍事費豫算

千九百四年乃至五年ノ通常豫算ハ既ニ議會召集前ニ決定セラレタルモノナリシカ歳入及歳出ノ項目ニ於テ時局ノ爲メ前年度ニ比シ次ノ如キ削減ヲ蒙リタリ

第一歳入

一九〇〇・四

一九〇〇・三

差

第二編

甲 經常歳入

(百萬圓)

租 稅	一四三・九	一五八・五	(+)	一四・六
印 稅	一三・九	一三・五	(+)	〇・四
官 業 收 入	五二・五	五二・七	(-)	〇・二
特別會計 歳入及雜 收入	七・三	七・一	(+)	〇・二
合 計	二二七・六	二三一・八	(-)	一四・二
乙 臨時歳入	一一・三	一九・九	(-)	七・六
總 歳 入	二三九・九	二五一・七	(-)	二一・八
第二歳出				
甲 經 常	一七一・七	一七八・五	(-)	六・八
乙 臨 時	五二・五	六六・三	(-)	一四・八
總 歳 出	二二三・二	二四四・八	(-)	二一・六
歳 入 剩 餘	六・七	六・九	(-)	〇・二

租稅ノ豫算減額シタル所以ノモノハ第一次ニ千九百四年乃至五年ノ豫算年度ト共ニ再ヒ地租ノ稅率減少シタルニ在リ之カ爲メ約一千萬圓ノ減額ヲ見積リタリ

其他酒砂糖ノ收入豫算ノ減少ハ戦争ノ結果消費ノ節約ヲ豫期シタルカ爲メナリ
歳出ノ減少ハ特ニ土木事業ノ繰延ニ基キタリ

此ノ通常豫算ト共ニ特ニ編成シタル軍事費豫算ハ次ノ如シ

第一千九百三年十二月二十八日ノ緊急勅令ニ基キ千九百四年三月末日マテニ支
出シタル軍事費一億五千六百萬圓ハ事後承諾セラレ其内二千五百萬圓ハ特別會
計資金ヨリ流用セラレ一億圓ハ國庫債券ノ發行其外ノ三千百萬圓ハ其他ノ一時
ノ借入金ニ依リ調達セラレタリ

次ニ千九百四年乃至五年ノ豫算年度ノ軍事費トシテ三億八千萬圓ヲ計上シ最後
ニ豫見セサル且ツ豫算ス可カラサル經費四千萬圓ヲ外交上及ヒ其他ノ事務ナル
少ナク曖昧ノ名義ノ下ニ可決シタリ是ヲ以テ千九百五年三月末迄ノ軍事費ハ合
計五億七千六百萬圓ノ豫算ナリキ

該金額中千九百三年十二月二十八日ノ緊急勅令ニ基キ千九百四年三月下旬既ニ
一億三千百萬圓ハ借入ノ方法ニ依リ二千五百萬圓ハ特別會計資金ノ流用ニ依リ
之ヲ調達シタリ其他ノ四億二千萬圓ニ付テハ左ノ財源ヲ豫定シタリ

(一)前年度豫算ノ剩餘金(千九百四年乃至千九百五年
豫算ノ歳出削減ニ依リ増加ス)

四百
四八

編 二 第

- (二)特別會計資金ノ繰入
- (三)新稅増稅等ノ收入
- (四)公債賣得金

合計

三〇
六二
二八〇
四二〇

以上ノ協賛ハ千九百四年三月下旬迄ニ既ニ調達シタル資金ト合シテ軍事費支辨
ニ付キ左ノ狀況ヲ呈シタリ

- 新稅増稅等
- 剩餘金及經費節減
- 特別會計資金繰入
- 公債收入
- 其他ノ借入

合計

百
六二
四八
五五
三八〇
三一
五七六

千九百四年乃至五年ノ決算ハ未タ之レアラズ其他軍事費ハ戦争全期ヲ通シテ一
會計年度ト看做シ之ヲ特別ノ會計トナスヘキ旨ヲ規定セラレタリ是ヲ以テ吾人
ハ直ニ千九百五年乃至六年ノ會計年度ノ豫算ニ移ルヘシ該豫算モ前年ト同様ニ

編 二 第

編成セラレタリ但シ千九百五年乃至六年ノ豫算ト千九百四年乃至五年ノ豫算トノ對照ハ次ノ事情ノ爲メ甚タ困難トナレリ即チ千九百五年乃至六年ノ通常豫算ニ於テハ既ニ前年施行セラレタル戰時非常稅及煙草專賣ノ收入ヲ通算シ千九百五年乃至六年ノ軍事豫算中ニハ更ニ新ニ施行シ又ハ増加シタル租稅及食鹽專賣ノ收入則チ特ニ千九百五年乃至六年ノ爲メ新設シタル收入ノミヲ計算シタルコト此ナリ元ヨリ既ニ千九百四年乃至五年ニ施行セラレタル戰時非常稅ノ收入ハ如上ノ簿記法ニ依リ消滅シタルニアラスシテ唯軍事費豫算ニ於テハ他ノ形式ヲ以テ現ハレタルニ過キス換言スレハ之カ爲メ通常豫算ニ巨額ナル剩餘ヲ生スルニ至リタリ

斯ノ如ク簿記法變更セラレタルヲ以テ——其趣旨ハ頗ル不明瞭ナレトモ——千九百四年乃至五年及千九百五年乃至六年ノ豫算ノ比較ヲ便ナラシムル爲メ最近ノ日本財政及經濟年鑑(第五卷千九百五年)ニ於テハ千九百四年乃至五年豫算ニハ等ク非常稅及煙草專賣ノ收入豫算額ヲ追加シ其他諸豫算ニ事後加ヘタル經費節減及追加豫算ノ結果タル變更ヲ斟酌シタリ然レトモ臨時歲出中ニハ詳細ニ説明セラレサル軍事費ノ幾部分算入セラレタリ是ヲ以テ通常豫算ノ組立ハ左ノ如キ現象

編 二 第

ヲ呈シタリ但シ通常豫算ハ實際ニ於テハ前述シタル戰時收入ヲ包含シタルモノナリ

最初ノ豫算

修正豫算

千九百四年乃至五年

千九百五年乃至六年ノ豫算

經常歲入	二百四十四	二百七十六	二百四十四	二百七十九
臨時歲入	一一二	一一三	一一三	八七
合計	二二九八	二九三	二九三・五	三〇五・六
經常歲出	一七一七	一四九七	一四九・七	一七九・二
臨時歲出	五一五	一三七七	一三七・七	三三・八
合計	二二三二	二八七四	二二三・〇	二二二・〇
總豫算剩餘	六・六	六・一	六・一	九三・六

編 二 第

精密ナル對照ハ以上ノ表ニ據ルモ之ヲ得ルコト能ハス就中臨時歲出部ニ於テ爾リトス最モ比較シ得ヘキモノハ經常歲入ナリ年鑑ニ於テハ經常歲入ノ増加ハ經濟上ノ進歩國民富力ノ増進樟腦專賣及國有鐵道收入ノ増加及増稅及煙草專賣擴張ハ千九百四年ノ會計年度全部ヲ通シテ實施セラレタルモノニアラサル事實ニ

歸シタリ

二〇二

千九百五年乃至六年ノ通常豫算——之レ辛ウシテ通常ト稱スルコトヲ得ルモノナ
リ——ノ外軍事費豫算アリ
軍事費豫算ハ七億圓ノ本然ノ軍費ト八千萬圓ノ臨時豫備費トヲ包含スルモノナ
リ該豫備費ハ千九百四年乃至五年ノ軍事費豫算ノ臨時豫備費四千萬圓ト同シク
外交上及其他戰爭ト關係ヲ有スル政務ニ關スル經費ヲ支辨セントスルモノナリ
是ヲ以テ千九百五年乃至六年ノ軍事費ハ總計七億八千萬圓——千九百四年乃至五
年ノ五億七千六百萬圓ニ對シ——ノ豫算ナリ

以上ノ經費ハ左ノ收入ニ依リ支辨セラルヘキモノトス
一 通常豫算ノ剩餘金(九三・七百萬圓)ニ通常豫算ノ
陸海軍費(三二・二百萬圓)ヲ増加ス

- 二 特別會計資金ノ繰入 一三四・九
- 三 新稅増稅食鹽專賣ノ増收入 八・〇
- 四 献納金及雜收入 七四・一
- 五 公債及國庫債券ノ賣得金 二・〇

五七二・〇

第 二 編

合計

七八〇・〇

第一號金額ノ千九百五年乃至六年通常豫算ノ剩餘金中ニハ既ニ千九百四年乃至
五年度ニ施行セラレタル戰時非常稅及煙草專賣ノ收入ヲ包含スルモノナリ該收
入ハ七千六百五十萬圓ニシテ殘額四千八百四十萬圓ハ經費節減(通常豫算中ノ陸
海軍費ノ軍事費豫算移入ヲ包ム)ニ基クモノナリ是ヲ以テ精密ニ云ヘハ上述ノ表
中第一號及第三號ノ數字ハ之ヲ修正シテ第一號中ニハ剩餘金及四千八百四十萬
圓ノ經費節減第三號中ニハ之ニ反シテ増稅新稅及煙草食鹽專賣ノ收入一億五千
六十萬圓ヲ掲出スヘキモノナリ既ニ千九百四年乃至五年ニ調達シタル資金ト合
シテ千九百五年乃至六年ノ協賛セラレタル軍事費豫算ハ左ノ如キ軍資金調達ノ
概況ヲ呈スヘシ

- 一 千九百三年十二月二十八日ノ緊急勅令ニ基キ 一五六
- 二 千九百四年乃至五年ノ軍事費豫算ニ依リ本然ノ軍費 四二〇
- 三 千九百五年乃至六年ノ軍事費豫算ニ依リ本然ノ軍費 七八〇

軍事費豫算總計

一三五六

支辨ノ方法トシテ承諾セラレタルモノ左ノ如シ

二〇三

第 二 編

	千九百四年乃至五年	千九百五年乃至六年	合計
一 剩餘金、經費節減	四百四十八・〇	四百四十八・四	八百九十六・四
二 特別會計資金繰入	五五・〇	八・〇	六三・〇
三 新稅增稅煙草食鹽專賣益金	六二・〇	一五〇・六	二一二・六
四 獻納金雜收入	—	二・〇	二・〇
五 公債賣得金	三八〇・〇	五七一・〇	九五一・〇
六 其他ノ借入金	三一〇	—	三一〇

以下此等ノ豫算實施ノ狀況ヲ觀察セントス

第三節 歲入増加

露國ハ軍費支辨ノ爲メ大藏省ノ準備金流用、經費節減及公債募集ニ制限シ増稅ハ軍事公債ノ利子ヲ支辨スル程度ニ止メタリシカ日本ハ之ニ反シ—千八百九十六年以來軍備大擴張計畫實行ノ爲メ國民ノ納稅力ニ對シ多大ノ要求ヲ爲シタルニ拘ハラヌ—最初ヨリ戰費ノ成ル可ク大部分ヲ増稅ニ依リ調達センコトヲ努メタリ千九百四年乃至五年ノ軍事費豫算ニ計上シタル如上ノ財源ニ由ル歲入ハ次ノ

第二編

基礎ノ上ニ建テラレタリ

甲 政府ハ千九百四年乃至五年ノ通常豫算ニ於テ初メテ減額シタル地租ノ新ナル増徴、所得稅、營業稅、砂糖及酒ノ消費稅及或ル種ノ關稅及印稅ノ増徴、其他煙草專賣制度ノ擴張即チ從來業煙草ニ限リタル專賣ヲ刻煙草及卷煙草ニ及ホシ、最後ニ鹽、絹、石油及毛織物ノ新稅ヲ提議シタリ而シテ此等ノ提議ハ鹽及絹ノ新稅ヲ除ク外總テ承諾セラレ戰時稅ハ千九百四年四月一日ヨリ施行セラレ且ツ戰爭終結後一箇年間繼續セラル、モノトセリ擴張セラレタル煙草專賣ハ卷煙草ニ就テハ千九百四年七月以來刻煙草ニ就テハ千九百五年四月ヨリ實施セラレタリ

世人ハ増收入ヲ六千三百萬圓ト積算シタリシカ千九百四年乃至五年ノ通常豫算ニ於テハ租稅、印稅、煙草專賣收入ヲ合計一億七千四十萬圓ト計上シタリ即チ負擔ノ増加ハ約三割七步ナリ

以上ノ増稅ノ外千九百五年乃至六年ノ軍事費豫算ハ更ニ一層大規模ノ増稅ヲ豫見シタリ就中新ニ多額ニ増稅セラレタルモノハ地租、所得稅、營業稅、砂糖消費稅、鑛業稅、關稅ニシテ新ニ施行セラレタルモノハ鐵道、市街鐵道、汽船ノ切符稅、相續稅及前年否決セラレタル食鹽專賣制度ナリ其外前年絹織物ニ課シタル租稅ハ一切ノ

織物ニ擴張セラレ最後ニ印税ハ頗ル多額ノ増加ヲ受ケタリ上述シタル如ク千九百五年乃至六年ニ於テハ如上ノ新增税ニ依リ約七千四百萬圓ノ増收入及既ニ前年來施行セラレタル戦時税ヲ通算シテ新税ニ依リ約一億五千萬圓ノ増收入ヲ期待シタリ之レ千九百四年乃至五年ノ通常豫算ニ計上シタル租税印税及專賣收入ノ約九割ニ相當スルモノナリ

勿論以上ノ負擔増加ハ一切ノ租税ニ就テ均一ニ施行セラレタルモノニアラス警ヘハ酒税ノ如キ開戦前幾多ノ年度ニ於テ經常歳入ノ四分ノ一以上ヲ調達シタルモノナリシカ既ニ非常ノ重税ナリシヲ以テ更ニ顯著ナル増税ニ堪ヘサリシナリ特ニ非常ニ増徴セラレタルモノ左ノ如シ

地租 通常ノ税率ハ千八百七十七年以來地價ノ二歩五厘ナリキ千八百九十九年乃至千九百三年ノ軍備大擴張時代ニ地租ハ田地ニ付テハ地價ノ三歩三厘市街地ニ付テハ五歩ヲ徴シタリ千九百四年乃至五年ノ歳計豫算ヲ以テ更ニ之ヲ二歩五厘ニ減スル豫定ナリシモ千九百四年乃至五年ノ軍事費豫算ハ田地ニ付テハ地價ノ四歩四厘ニ宅地ニ付テハ八歩ニ地租ヲ増加シ千九百五年乃至六年ノ軍事費豫算ハ税率ヲ更ニ地價ノ五歩五厘及二割ニ増加シタリ地租増徴就中

市街地ハ縱令市街地ノ土地裏帳價格カ久シク實價ニ凌駕セラレタリシコトヲ參酌スルモ猶ホ非常ノ負擔ト謂ハサルヘカラス
營業税ハ千九百四年七割千九百五年更ニ八割合計十五割増加セラレタリ
開戦前ノ所得税ハ左ノ如シ

- (イ) 法人ノ所得二歩五厘
- (ロ) 國債又ハ社債利子二歩
- (ハ) (イ)(ロ)以外ノ所得三百圓以上ノ所得一步乃至十萬圓以上ノ所得五歩五厘マテ

累進税

千九百四年乃至五年ノ増税ハ(イ)(ロ)ニ付キ七割千九百五年乃至六年ノ増税ハ之ニ反シ所得高ノ如何ニ依リ(イ)ハ八割乃至四十割(ロ)ハ十割乃至二十七割ヲ増加シタリ是ヲ以テ現時ニ於テハ法人ノ所得ハ四歩五厘乃至一割二歩五厘個人ノ所得ハ二歩乃至二割六厘五毛ナリトス
砂糖消費税ハ種類ニ依リ二倍乃至三倍セラレタリ
取引所税ハ六割六歩三分ノ二乃至十割

鑛業税モ五割乃至二十割増加セラレタリ
 印税モ著シク増徴セラレタリ
 新關稅中最重要食料品タル米ノ輸入稅カ價格ノ一割五分ニ増加セラレタルハ注目ノ價アリ
 酒造稅及醬油稅ノ増加ハ比較的僅少ナリ
 千九百四年施行セラレタル石油稅ハ再ヒ廢止セラレタリ租稅負擔額及各財源ノ配合ハ左ノ表ニ依リ明白ナルヘシ

收入豫算(通常及軍事費豫算)

	千九百三年乃至四年 豫算實施ノ收入	千九百四年乃至五年	千九百五年乃至六年
地租	四百六十六	六百一十	八百二十三
所得稅	八二	一三四	一八四
營業稅	七〇	一二二	一八二
酒造稅	五二・八	六二・四	六三・一
醬油稅	三五	四五	五二
砂糖消費稅	六九	一四四	一六五

第二編

續物稅	一	一	二・二
鑛業稅	〇・八	〇・九	二・三
取引所稅	〇・八	一・四	一・九
關稅	一七・四	一八・七	二三・七
通行稅	一	一	三・二
相續稅	一	一	四・三
其他ノ稅	一・九	五・一	一・八
租稅合計	一四六・二	一九四・〇	二四三・〇
印稅	一四・二	一七・五	二九・五
煙草專賣益金	一四・九	二一・一	三三・〇
樟腦專賣收入	〇・三	一・二	一・一
食鹽專賣收入	一	一	一六・二
總計	一七五・六	二三三・八	三三一・八

日本大藏省年鑑ハ戰時非常稅ノ項目ニ續テ次ノ說明ヲ附記シタリ曰ク
 是ニ由テ之ヲ觀レハ戰時非常稅法ハ人民ニ重大ナル負擔ヲ課シタルカ如キ感ア

リト雖モ實際ニ於テ此負擔ハ左迄重ク感セラレサリシナリ蓋シ一方ニ於テハ從來往々國稅ト略同率ナル地方稅ヲ著シク減少シ他ノ一方ニ於テ地方廳ハ其經費ヲ成ルヘク節約シ總テ不急ノ工事ヲ繰延ヘ且ツ人民ハ其愛國ノ至誠上一般ニ非常ノ儉約ヲ加ヘ國民ノ大多數ヲ占ムル農民社會ハ前年非常ノ農作ニ遭遇シタレハナリ云々ト

若シ夫レ該年鑑カ租稅ハ平時ヨリ之ヲ容易ニ收納スルコトヲ得タリ且ツ人民ハ戰時稅ニ依テ毫モ壓迫ヲ感ゼサリシコトヲ附記スルニ至テハ之レ少ク愛國の樂天觀ノ加味シタルモノナルヲ免レサルカ如シ然レトモ之レ又日本ノ納稅力カ開戰前數年間ニ於テ軍備大擴張計畫實行ノ爲メ非常ニ伸張セラレタリシニ拘ハラス今回ノ戰爭ニ於テ實ニ驚嘆スヘキ彈力性ヲ示シタル事實ノ承認ヲ毫モ妨ケサルナリ唯千九百五年乃至六年ノ戰時稅收入豫算ハ千八百九十九年前ノ何レノ年度ニ於ケル經常總歲入ヨリモ多額ナルコトヲ考慮スヘキノミ日本ノ軍事的成功ノ基礎ヲ創造シタル軍備大擴張計畫ノ實行カ既ニ政治思想及國民的奉公心ニ訴ヘテ多大ノ要求ヲ爲シタルニ拘ハラス日本人民カ貧富ヲ問ハス殆ント強制公債ニ類似スル戰時稅ノ負擔ヲ甘諾シタル奉公心ニ至テハ贊辭ノ得テ盡ス所ニアラ

サルナリ

第四節 軍事公債

縱令納稅力ヲ非常ニ伸張スルモ猶ホ國家歲入ノ增加ハ僅ニ軍費ノ一部分ヲ支辨スルニ過キササルナリ蓋シ軍費ハ從來ノ經常歲入ヲ超過スルコト數倍ナレハナリ之レ戰時歲計豫算ニ於テ資金調達方法中公債募集カ最も廣ク行ハレタル所以ナリ千九百三年十二月二十八日ノ緊急勅令及千九百四年乃至五年軍事費豫算ニ於テハ三億八千萬圓ノ公債及三千百萬圓ノ短期借入金ヲ豫定シタリ短期借入金ハ日本銀行ニテ之ヲ調達シタルモノニシテ茲ニ之ヲ論スヘキモノニアラス戰期ノ第一年度ニ於テ協贊セラレタル總計三億八千萬圓ノ公債ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ調達シタルモノナリ

第一回内債

日本大藏省ハ千九百三年十二月二十八日ノ勅令ニ依リ與ヘラレタル權能ヲ行使シ開戰後直チニ一億圓ノ五歩利付國庫債券ヲ內國ノ市場ニ向テ發行シタリ發行價格ハ九十五ニシテ此募債ニ對シテハ四億五千二百萬圓以上ノ應募アリタリ世

ニ傳フル所ニ據レハ第一ノ應募者ハ皇帝自身ニシテ其額二千萬圓ニ達シ又奴婢
勞働者ニ至ルマテ皆申込ニ參加シタリト云フ

第一回外債

日本ハ此内債ニ次テ五月外債ヲ募集シタリ日本カ外國ニ於テ資金ヲ調達シタル
ハ同時ニ露國カ外債ヲ募集スルニ至リタルト類似ノ理由ニ由リ必要ナリシナリ
即チ内國金融市場ヲ顧慮スルト共ニ日本ハ戰爭ノ爲メ歐米ニ向テ其船舶及軍需
品ノ供給ニ對スル莫大ナル支拂ヲ爲サ、ル可カラサル事情アリ日本ノ甚タシキ
金貨流出ハ後段之ヲ説明スルカ如ク既ニ開戦以前ヨリ危殆ノ感想ヲ惹起セシメ
外債ノ募集ハ金貨流出ヲ抑止スル唯一ノ手段タリシナリ英米銀行家トノ協商ハ
遂ニ一千萬磅即チ一億圓ノ六歩利付債券ノ磅公債ヲ發行スルニ至ラシメタリ公
債ノ半額ハ倫敦ニ於テ香港上海銀行、橫濱正金銀行、パールの銀行ノ「シンジケート」
ニ依テ發行セラレ他ノ半數ハ「クーン、レオブ、エンド、コンパニー」ナシヨナル、シチー
バンク及ヒ「バンク、オフ、コンメルス」ノ米國「シンジケート」ニ依リ引受ケラレタリ
國庫債券ハ遅クトモ千九百十一年四月五日ニ償還スヘキモノトス但シ日本政府
ハ千九百七年四月五日後六箇月前ノ豫告後之ヲ償還スル權利ヲ留保シタリ是ニ

編 二 第

由テ之ヲ觀レハ日本ハ露國カ公債ノ方法ニ依リ資金ヲ調達スルニ方リ應用シタ
ルト同一ノ手段ヲ施用シタリシナリ即チ比較的高利ヲ以テ目前ノ形勢ニ適應セ
ル短期國庫債券ヲ發行シ而モ戰期以後多年間現在ノ利率ヲ國家ニ負擔セシムル
ナカラシムルコト此ナリ

此公債ニ就テハ日本ノ稅關收入ヲ以テ擔保ニ供シタリ

發行價格ハ九割三步半ニシテ日本政府ハ二歩ノ保證手数料ノ支拂ヲ負擔シタル
ヲ以テ公債ノ純收入ハ九割一步半ニ過キサリシナリ遅クトモ千九百十一年四月
五日ニ額面ニテ償還スルヲ以テ應募者ノ實際ノ利子ハ約七步四厘ニ相當シ若シ
千九百七年額面ニテ償還スルモノトセハ實際ノ利子ハ八步以上ニ上ルヘシ
公債カ英國ノ本位貨幣ヲ以テシ隨テ應募者ハ貨幣下落ノ危險ヲ免カレ且ツ利息
ニ比シテ頗ル著シキ日本ノ稅關收入ヲ以テ公債ノ特別擔保ニ供シタル事情ヲ參
酌スレハ是等ノ條件ハ非常ニ嚴酷ナリト謂ハサル可カラス

開戦前數箇月頃ニハ倫敦ニ於テ日本唯一ノ磅公債タル千八百九十九年ノ四歩利
付公債ハ約八十五ノ相場ナリキ是レ即チ實際ノ利子四步七厘ニ相當スルコトヲ
意味スルモノナリ然ルニ日本國ハ今日約八步ノ利子ヲ甘諾セサルヲ得サルナリ

編 二 第

就中露國カ同時代ニ巴里市場ニ於テ其公債ヲ募集シタル條件ト對照セハ日本ノ條件ハ頗ル嚴酷ナリ露國ハ五箇年間實際ノ利子六歩二厘ニテ六億四千八百萬馬克ヲ調達シタルニ日本ハ七箇年間實際ノ利子約八歩ニテ約二億馬克ヲ發行シタルニ過キス當時倫敦ノ市場及巴里ノ市場ニ於テハ資金潤澤ニシテ公債ノ發行ニ頗ル好都合ナリシニモ拘ハラス之レヨリ良好ナル結果ヲ收ムルコト能ハサリシナリ倫敦ノ金融市場ニ於ケル私人間ノ割引利子ハ千九百四年五月ノ平均二歩七毛ナルニ千九百三年五月ハ三歩四厘四毛千九百二年五月ハ二歩八厘ナリシナリ加之千九百四年五月十九日ノ割引利子ハ僅ニ一步十六分ノ五ニ過キサリシナリ斯ノ如ク貨幣市場ノ資金潤澤ナルヲ以テ日本公債ノ高利ハ投機心ヲ喚起セシメ五月十二日公債ノ申込ヲ開始シタル際ハ一海千里ノ勢ヲ以テ賣却セラレ申込ハ三十倍ニ達シタリ大口ノ應募者ハ總ニ應募額ノ六十分ノ一ヲ得タルニ過キスト云フ「エコノミスト」ニ據レハ倫敦取引所ニテハ往々日本カ公債ノ全部ヲ倫敦ノ市場ニ於テ發行セサリシコトヲ氣毒カリシモノアリト云フ蓋シ次回ノ日本公債發行カスノ如ク熱心ナル歡迎ヲ受クルコト恐ラクハ頗ル困難ナル可ケレハナリ

第二回内債

第二編

日本自身ニ於テハ倫敦及紐育ノ命令シタル嚴酷ナル條件ヲ以テシテモ寧ロ悅服シタルカ如シ然レトモ是等ノ條件ハ日本ノ大藏省ヲシテ成ル可ク國際的貨幣市場ノ再度ノ助力ヲ回避セントスルニ至ラシメタリ他ノ一方ニ於テ磅公債ハ軍費ヲ充分ニ支辨スルニ足ラサリシナリ磅公債發行後間モナク日本ハ再ヒ一億圓ノ内債ヲ募集スル計畫アリトノ通信ニ接シタリ果シテ六月東京ニ於テ一億圓ノ五歩利付國庫債券ヲ發行シ七箇年間ニ之ヲ償還スルモノトセリ發行價格ハ九十二ニシテ倫敦ノ六歩利付債券ノ發行價格ニ比シ左迄低キモノニアラサリシナリ磅公債ハ日本ノ貨幣本位ヲ以テシタル公債ニ伴フ貨幣下落ノ危險ヲ免カレ且ツ斯ク短期間ニ連發シタル二回公債ノ實際ノ利子斯ノ如ク著シク異ル等ノ事情ヲ參考セハ外國資本ハ到底六月公債ニ應セサルヘキ筈ナルニ六月ノ公債モ三倍以上ノ應募者アリタリ(應募成績三十二割二分)

第三回内債

千九百四年乃至五年度ニ於テ議會ノ協賛シタル軍事公債募集額三億八千萬圓中三億萬圓ハ既ニ之ヲ募集シタリ該公債ノ純賣得金ハ約二億七千五百萬圓ニ達シタリ日本銀行ヨリ借入レタル其他ノ借入金三千百萬圓及其他ノ資金一千九百四

年乃至五年度ノ上半期ニ對スル増率關稅ノ收入ヲ豫定額ノ半額ト積算シタルモノトヲ合セ日本ハ千九百四年九月下旬マテニ約四億四千萬圓ノ戰爭資金ヲ有シタリ縱令日本ノ軍費ヲ可ナリ少額ニ見積ルモ日本カ適當ナル時機ニ於テ其資金ヲ補充スルカ爲メ尙ホ千九百四年ニ於テ更ニ資金ノ調達ヲ行ハサル可カラサルハ毫モ疑ヲ容レサル所ナリ

實際日本ハ千九百四年十一月貨幣市場ニ向テ新公債ノ募集ニ著手シ先ツ八千萬圓ノ内國債ヲ發行シタリ今回ノ公債モ償還期限七箇年五歩利付國庫債券ノ形式ヲ以テ發行セラレタリ此公債ハ十一月初旬ニ—六月ノ第二回内債ト同シク—九十二ノ價格ニテ發行セラレ申込ハ二倍半ニ達シタリ

此公債ヲ以テ千九百四年乃至五年度ノ軍事費豫算ニ依テ協賛セラレタル公債募集額ハ悉皆募集シ終リタリ戰爭ノ資金ハ茲ニ至テ約五億一千万圓ニ達シ同時代ニ露國ノ準備シタル戰爭資金約六億三千五百萬圓ニ甚タシク讓ラサリシナリ

第二回外債

日本ハ上述シタル内債ヲ發行スルト同時ニ千九百四年五月第一回ノ外債發行ヲ引受ケタル英米銀行「シンジケート」ト更ニ外債ノ契約ヲ締結スルノ必要ヲ認めタ

第 二 編

リ今回ハ千二百萬磅即チ約一億二千萬圓ノ六歩利付國庫債券ニシテ遅クトモ千九百十一年十月五日額面ニテ償還スヘキモノトス然レトモ日本政府ハ既ニ千九百七年四月五日以後半年前ノ豫告期限ヲ以テ國庫債券ヲ償還スル權利ヲ留保シタリ是レ倫敦及紐育ニ於テ五月ニ發行シタル國庫債券ヲ償還スルコトヲ得ル時機ト同一ナリ新國庫債券ニ就テハ既ニ第一回外債ノ擔保ヲ供シタル稅關收入ヲ以テ第二次ノ擔保ニ供シタリ

五月ノ國庫債券ハ九割三步五厘ノ發行價格ナリシニ新國庫債券ノ發行價格ハ九割五厘ト決定セラレタリ是ヲ以テ保證手数料等ヲ精算シタル後日本政府ノ純賣得金ハ八割六步四分ノ三ニ過キササルナリ遅クトモ七箇年後ノ額面償還ヲ打算セハ新公債ハ應募者ニ實際八歩一厘ノ利子ヲ與フルモノニシテ日本ノ實際ノ利子ノ負擔ハ九步一厘ナリ若シ千九百七年ニ償還ヲ爲スモノトセハ實際ノ利子及利子ノ負擔ハ之ニ比例シテ更ニ多カルヘシ

公債ノ半額ハ倫敦ニテ他ノ半額ハ紐育ニテ募集セラレ應募高ハ倫敦ニテ八倍乃至十倍ニ達シタリト云フ五月ノ國庫債券ハ之レヨリ三步高相場ヲ以テ發行セラレタリシカ三十倍ノ應募高ヲ得タリ

倫敦及紐育ニ於ケル第一回國庫債券發行ノ際其嚴酷ナル條件ニ就キ一般ノ不平アリタルニ拘ハラヌ日本カ當時貨幣市場ノ比較的不利ナル時期ニ際シ更ニ一層重キ條件ヲ以テ第二回ノ外債ヲ募集シタル所以ノモノハ第一次ニ日本銀行ノ資金及日本本位貨幣價格ノ維持ヲ顧慮シタルニ在リ五月ノ外債ニ對スル最後ノ拂込ハ既ニ八月中旬ヲ以テ終リタリ此外債ニ依リ得タル貸方ノ漸次支出セラル、ニ際リテ日本カ上半期ニ於ケル如ク危険ナル程度マテ日本銀行及邦ノ金貨在高ニ依頼シ以テ日本本位貨幣ヲ危殆ナラシメサラント欲セハ勢ヒ新外債ヲ募集セサルヲ得サルナリ

第二編

千九百四年ノ外債ノ外尙ホ同年度ニ於テハ煙草專賣施行ノ爲メ六百六十八萬圓ノ五歩利付國庫債券ノ發行アリタリ
 千九百四年募集シタル公債ノ計算ニ關シ本日大藏省年鑑ノ記事ニ據レハ倫敦及紐育ニテ千九百四年十一月募集シタル公債及後ニ説明スル千九百五年三月募集ノ二回ノ公債ハ千九百五年乃至六年度ノ公債募集額ニ計算セラルヘキモノナリト云フ之ニ反シテ同年鑑ニ掲ケタル千九百五年三月三十一日ノ日本國債ノ一覽表ニハ内債ニ就テハ千九百四年三月及五月ノ二回ノ公債額ニ略々相當スル一億九

第二編

千八百四十萬圓外債ニ就テハ五月及十一月倫敦及紐育ニテ發行シタル公債額ニ相當スル二億千四百八十萬圓ヲ計上シタリ

兎ニ角千九百四年ノ年末マテニ實際募集シタル軍事公債ハ總計五億萬圓ニシテ其内二億八千萬圓ハ内國ニ於テ二億二千萬圓ハ外國ニ於テ募集シタルモノナリ實際ノ收入ハ四億六千萬乃至四億六千五百萬圓ナルヘシ其他ノ戰爭資金公債以外ノ借入金歲計剩餘金特別會計資金及九箇月間ノ戰時關稅等ノ收入ト合セテ日本政府カ千九百四年度末ニ戰爭ノ爲メ調達シタル資金ハ六億四千萬圓ニ達シタリシナルヘシ該金額中千九百四年ノ年末ニ殘レル金額幾何ナルヤハ明カナラスト雖モ日本ノ大藏次官阪谷氏ノ開示ニ據レハ最初十箇月間ノ戰費ハ四億三千万圓ヲ要シタリト云フヲ以テ是ニ由テ稍々正確ニ算出スルコトヲ得ヘシ阪谷氏ノ言ニ據レハ日本ノ一箇月平均ノ軍費ハ千九百四年ニ於テ約四千三百萬圓ナルカ故ニ千九百四年ノ軍費總額ハ約四億七千五百萬圓ニ達シタルナルヘシ是ヲ以テ日本ハ千九百四年ニ調達シタル資金中約一億六千五百萬圓ヲ千九百五年ニ繰越シタリシナルヘシ若シ夫レ日本モ滿洲軍ノ補充及増援並ニ波羅的艦隊ニ對スル艦隊ノ戰闘準備ノ爲メ漸次軍費ヲ膨脹セサルヘカラサル事情ヲ考量セハ日本モ露

編 二 第

國ノ如ク次回ノ資金調達ヲ新年以後甚ク延期スル能ハサルヤ明カナリ是ヲ以テ十一月公債募集後間モナク日本ノ外國ニ於ケル新財政的運用ニ關スル風説流布シタリ世人ハ新クニ施行シタル樟腦專賣ノ擔保ヲ基礎トスル外債募集ヲ云爲シ又ハ日本ノ石油坑ヲ擔保トセル「スタンダード・オイル・コンパニー」ノ前貸金ヲ喋々シタリ事實此等ノ基礎ノ上ニ協商行ハレタリシナルヘシ然レトモ日本カ千九百四年十一月ノ第二回外債募集ニ際シ甘諾セサル可カラサリシ苛酷ナル條件——即チ六歩利付七箇年後額面償還ノ義務ヲ負ヒタルニ拘ハラス僅ニ八割六歩四分ノ三ノ純賣得金ヲ得タルニ過キサル——斯ノ如キ重キ條件カ日本ヲシテ泰西ノ貨幣市場ニ對スル再度ノ依頼ヲ——漸次其偉大ナル軍事的成功ニ依テ歡迎ヲ強要スルニ至ルマテハ——成ルヘク遅延セシメタルハ元ヨリ當然ナリト謂フヘシ

第四回内債

假令旅順ノ陥落及聖彼斯堡勞働者ノ騷擾カ日本ノ終局ノ勝利及ヒ有利ナル講和條約ノ希望ヲ著シク増進セシメタリト雖モ——是レ倫敦市場ニ於ケル日本公債相場ノ騰貴ニ現ハレタリ——日本ニ於テハ尙ホ一回内國貨幣市場ニ依頼スルノ優レルニ若カサルコトヲ認メタリ千九百五年二月下旬第四回内債ノ成立シタル條件

編 二 第

ハ日本財政ノ當時ノ頗ル疲弊ニ近キタル情況及以前内國ニ於テ募集シタル軍事公債ノ判斷ニ關シ特ニ注目ノ値アリ

新債ハ總額一億圓ニシテ再ヒ國庫債券ノ形式ヲ以テシ其滿了期限ハ第二回及第三回ノ内債ノ如ク七箇年ナリシナリ然ルニ此國庫債券ハ從來ノ五歩ニ對シ六歩ノ利ヲ付シ而モ高利ニ拘ハラス九割ノ發行價格ヲ以テ満足セサルヲ得サリシナリ第二回第三回ノ五歩利付國庫債券ハ九割二歩ノ發行價格ヲ有シ千九百四年二月ノ五歩利付第一回國庫債券ハ九割五歩ノ價格ヲ得タリシナリ新公債ハ應募者ニ現實ノ利子八歩二厘五毛ヲ與ヘタルモ前二回ノ内債ハ僅ニ六歩六厘ヲ與ヘタルニ過キサルナリ而モ第二回及第三回内債募集ノ當時倫敦ニ於ケル四歩利付日本公債ノ相場ハ七割千九百四年五月及七割四歩千九百四年十一月ナリシニ千九百五年二月第四回内債募集ノ當時ニハ八割六歩以上ナリキ是ヲ以テ外國ニ於テハ日本公債ノ相場ハ以前ノ内債募集ノ時期ニ比シ一割二歩乃至一割六歩騰貴シタルニ内國ニ於テハ利率ノ一步高キニ拘ハラス低キ發行價格ヲ以テ満足セサル可カラサリシナリ

英米ノ貨幣市場カ外債ニ對シ頗ル嚴酷ナル條件ヲ付シタルニ拘ハラス日本政府

第二編

カ其最初三回ノ内債ヲ比較的有利ナル條件ヲ以テ募集スルコトヲ得タル所以ノモノハ恐ラクハ日本ノ資本家ノ愛國的热誠又恐ラクハ幾部分政府又ハ輿論ノ抑歴ニ依リテ之ヲ説明スルコトヲ得ヘシト雖モ千九百五年二月ニ成立シタル内債ノ不利ナル條件ニ至テハ當時日本國內ノ貨幣市場ノ資力最早其極度ニ達シタルヨリ以外ノ理由ヲ以テ説明スルコト能ハス此感想ハ新公債ノ申込開始前日本ヨリ新國庫債券ノ一部ヲ外國ニ於テ處分セントスル企畫アリタルニ徴シテ更ニ確認セラレタリ新公債ノ應募ハ東京ニ於テ三月二十五日ニ行ハレタリシナリ然ルニ既ニ三月ノ前半期ニ於テ倫敦及巴里ニテ新國庫債券ノ大規模ノ取引—九割三步半乃至九割四歩ノ相場ニテ—行ハレ又伯林埃太利及瑞西ニ於テモ倫敦ヨリ多額ノ債券輸入セラレタルカ如シ千九百五年三月一日及九日伯林「ビオルゼンクリール」千九百五年三月九日ノ「イエー、フライエー、ブレッツセ」千九百五年三月十六日「フランクフルタル、ツァイツング」當時「フランクフルタル、ツァイツング」ハ此内債ト戰爭中發行セラレタル日本外債トノ歐洲ノ買手ニ不利益ナル差違存スルコトヲ指摘シタリ即チ後者ハ英米ノ貨幣ヲ以テシタルニ前者ハ日本ノ貨幣本位ヲ以テシ從テ全然貨幣下落ノ危險ヲ帯ヒタルモノナルノミナラス從來發行セラレ

第二編

タル外債ニ對スル關稅擔保ノ如キ特別ノ保證アラサルナリ應募ノ成績ニ依レハ斯ノ如キ不利益アルニ拘ハラズ新公債ノ半額ハ外國商店ヨリ引受ケラレタルカ如シ即チ少クトモ此半額ハ外國ニ現在スルモノト認ムルコトヲ得ヘシ

四歩五厘付外債第一回分

一億圓ナル少額ノ内債ハ無論當時ノ日本國庫ノ狀況及戰爭ノ多大ナル要求ニ對シ僅ニ短期間ノ救濟手段タルニ過キサリシナリ内國ニ於テ多額ノ資金調達ノ困難及外國ニ於ケル多額ノ支拂ノ必要ハ日本ヲシテ再ヒ外國貨幣市場ニ依頼スルニ至ラシメタリ

其間外國ニ於テ露國ノ革命黨員及日本ノ兵士ハ日本大藏大臣ノ爲メ最良ノ準備工事ヲ施シタリ奉天會戰後國際的貨幣市場ハ日本ノ將來ニ就キ安心シタリ軍事上偉大ノ事業ハ日本ノ財政的堪能ヲ判斷スルニ當リテモ其功ヲ奏シタリ換言スレハ株式取引所ハ日本ヲ以テ財政上ノ強國トシテ承認シタリ日本銀行總裁高橋氏カ三月下旬倫敦ニ於テ新公債ニ關スル談判委員トシテ現ハレタル時ニ當テ高橋氏ハ有利ナル活動場裡ヲ發見シタリ高橋氏ハ會見ヲ求メタル多數ノ新聞記者ニ向テ日本ハ今ヤ將ニ歐洲貨幣市場ノ不信用ヲ回復シタルヲ以テ大外債ノ募集

ニ著手スヘキコトヲ宣告スルコトヲ得タリ但シ高橋氏カ新聞記者及銀行家ニ對シ新外債ハ日本ノ資金需要ヲ一箇年乃至一箇半年間填補スルナルヘシトノ意見ヲ陳述シタルモ此意見ハ後ニ至テ維持スルコトヲ得サリシナリ又「ロイテル」通信ノ報道シタル高橋氏ノ意見タル新外債ノ收入ハ外國ニ留マリ日本ノ金貨支拂ヲ維持シ且ツ日本ノ外國貿易ノ萬一不利ナル勘定ヲ決濟スルカ爲メニ使用セラレ戰爭直接ノ目的ニ就テハ内債——必要ノ度毎ニ之ニ依賴スルコトアルヘキ——ニ由テ充分ノ資金ヲ得ヘシトノ發表ハ最後ノ内債ノ募集法ニ鑑ミテ餘リ樂天觀ニ過キタルカ如シ

編 二 第

然レトモ此等ノ顧慮ハ格別ノ故障ヲ醸サ、リキ新公債ハ好意ヲ以テ歡迎セラレタリ從來軍事外債ヲ引受ケタル英米商店ノ外今回ハ獨逸銀行家モ協商ニ參加シタリ既ニ前回ノ外債中些少ナカラ幾部分ハ或ル漢堡銀行ノ媒介ニ依リ獨逸ニ移入セラレタリキ獨逸資本家社會カ日本有價證券ニ投資セントスル傾向增長スルニ際シ獨逸カ新公債ノ發行ニ參加スルハ全然當ヲ得タリシナリ又政治上ノ懸念モ獨逸カ兩交戰國ニ對スル局外中立ニ顧ミテ獨逸ノ市場カ新公債ニ參加スルコトヲ妨ケサリシナリ千九百五年三月十七日帝國宰相「ビュロー」侯ハ帝國議會ニ於

第

二

編

テ露國公債ノ許可ニ關シ攻撃セラレタルニ當リ此機會ヲ利用シテ獨逸ノ局外中立ノ財政上ノ範圍ニマテ及フコトヲ論シ帝國政府ハ新露國公債ヲ防止スル何等ノ理由ヲ有セサルト共ニ日本政府ノ獨逸ニ於ケル公債募集ヲ妨害セサルヘキコトヲ以テシタリ

然レトモ今回ハ未タ獨逸ノ參加ヲ見ルニ至ラザリキ英國側ノ首領タル香港上海銀行ハ公債ニ對スル優先權ヲ主張シ獨逸銀行ノ率キタル獨逸側ニハ僅ニ下請負ヲ許サントシタリ獨逸銀行家ハ其面目ニ適應セサルモノトシテ之ヲ拒絕シタリ免ニ角獨逸ノ競争ハ日本人ヲシテ新公債ノ條件ヲ一層有利ナルコトヲ得セシメタルコトニ就キ與ツテ力アリタルカ如シ

三月二十四日公債ノ成立報道セラレタリ今回ノ金額ハ三千萬磅ニシテ其半額ハ倫敦ニテ他ノ半額ハ紐育ニテ發行セラルヘキモノトス利率ハ四歩五厘ニシテ今回ノ形式ハ從來ノ内外軍事公債ノ如ク五箇年乃至七箇年ノ満了期限ヲ有スル國庫債券ニアラスシテ寧ロ日本政府ハ二十箇年後ニ於テ新公債ノ償還義務ヲ負擔シタルモ既ニ五箇年後額面償還ノ權利ヲ留保シタルモノナリ是ヲ以テ今回ノ公債ハ露國ノ第二回外債ノ如ク國庫債券ト長期公債トノ混合物ニシテ唯露國ハ償

第二編

還期限選擇ノ權利及利益ヲ公債ノ買主ニ與ヘタルニ反シ日本ハ此選擇權ヲ自己ニ留保シタル區別アルノミ之ニ反シ日本ハ今回ノ公債ニ就テモ特別ノ擔保ヲ承諾セサル可カラザリキ以前ノ二回ノ外債ニ對シテハ關稅ノ收入ヲ以テ擔保ト爲シタリシカ新外債ニ對シテハ煙草專賣ノ純益ヲ以テ特別ノ擔保ニ供シタリ煙草專賣ハ千九百三年乃至四年ノ擴張前既ニ一千五百萬圓ノ收益ヲ生シタリ新公債ノ利子ノ支拂ニハ一箇年千三百五十萬圓ヲ要スルノミ

發行價格ハ九割ニシテ引受價格ハ八割六步四分ノ一ニ決定セラレタリ是ヲ以テ應募者ノ實際ノ利益ハ二十箇年後ノ償還トセハ五步五厘六毛五箇年後ノ償還トセハ七步二厘ナリ日本帝國ノ實際ノ利子ノ負擔ハ二十箇年後ノ償還トセハ六步五箇年後ノ償還トセハ八步四厘ナリ此等ノ條件ハ前二回ノ外債ニ比シ著シク有利ナリ前二回ノ外債ニ於テ日本ハ六步ノ利子ヲ附シ且ツ七箇年後ノ償還義務ヲ負擔シテ僅ニ九三半又ハ九〇半ノ發行價格及九一半又ハ八六四分ノ三ノ引受價格ヲ得タルニ過キサザルナリ今回ノ外債ハ千九百五年二月發行シタル内債ノ條件即チ七箇年後額面償還六步利付價格九〇ニ比シ有利ナリシナリ然レトモ今回ノ外債モ一月發行ノ同率ノ露國外債ニ比シ發行價格ニ於テ五步劣リタリ

第五回内債

第二編

高橋ノ發表シタル千九百四年三月倫敦及紐育ニテ募集シタル三千萬磅ノ公債ヲ以テ一箇年乃至一箇年半ノ日本ノ資金需要ヲ満足セントスル趣旨ハ遂ニ達セラレザリキ約二億五千萬圓ノ實際ノ收入ハ千九百四年秋期以來ノ疑モナキ軍費膨脹之ヲ支辨スルニ就テハ前回ノ内債ノ外戰時稅ノ收入及特別會計資金ノ繰入ノ如キ他ノ財源ヲ併セテ使用シタレトモ——ニ對シテハ三箇月乃至四箇月以上ヲ支持スルニ足ラザリシナリ實際日本政府ハ三千萬磅公債ノ成立後僅ニ數週間ニシテ新(第五回)内募債集ニ著手スルノ已ムヲ得サルニ至リタリ(千九百五年四月二十日)フランクフルタルツアイツング)少クトモ新聞紙ハ利率償還期限及券面額ニ於テ第四回内債ト同一ナル新公債ノ發行ヲ報道シタリ然レトモ發行價格及申込ノ成績ニ就テハ何等ノ報道ナキヲ以テ觀レハ該公債ハ公ノ募集ナクシテ直接ニ——恐ラクハ主トシテ外國商店ニ——交付セラレタルモノナルヘシ

四步五厘付外債第一回分

外國貨幣市場モ講和談判開始前尙ホ一回日本ヨリ多額ノ依頼ヲ受ケタリ六月下旬協商開始シ今回ハ獨逸銀行ノ獨逸側モ最初ヨリ之ニ參加シタリ高橋氏ハ日本

政府ヨリ再ヒ倫敦ニ派遣セラレタリシカ新募債ノ理由トシテ目前ニ切迫セル講和談判ノ成否不確實及講和締結後必要トナルヘキ經費ニ鑑ミ日本ノ資金ヲ増加スル爲メナルコトヲ説明シタリ彼ハ日本カ資金ニ逼迫セルコトヲ斷然排斥シ日本政府ハ最後ノ外債中尙紐育ニ五千萬弗倫敦ニ八百萬磅合計一億八千萬圓即チ公債賣得金ノ約三分ノ二ヲ有スルコトヲ引用シタリ(千九百十五年七月四日「フランクフルテルツァイツング」)又日本銀行當時ノ資産ノ狀況ハ直接ノ資金需要ヲ認メシムルコト無ク千九百十五年以來日本ノ備ヘタル資金ノ計算ハ高橋ノ説明ヲ信用セシムルニ足レリ新年度ニ繰越シタル一億六千五百萬圓ノ現在高ニ四億三千萬圓ノ外債及二回ノ内債ノ賣得金竝ニ千九百十五年上半年ニ對スル戰時稅收入六千萬圓其外特別會計資金及歲計剩餘金繰入ノ加算スルアリテ資金ノ總額ハ六億八千萬圓ニ達シタリ縱令一箇月ノ軍費ヲ八千萬圓ト計算シ即チ千九百四年度ノ約二倍及千九百五年乃至六年度ノ軍事費豫算ニ於テ一箇年ノ軍費七億八千萬圓ト計上セラレタルヨリモ尙ホ一千五百萬圓多額ニ積算スルモ尙ホ千九百十五年上半年ニ於テハ準備資金六億八千萬圓ニ對シ軍費ハ僅ニ四億八千萬圓ニ過キサルヲ以テ千九百十五年下半年ノ始ニ於テハ尙二億圓ノ資金存シタリシモノナリ日本

第二編

第二編

大藏大臣カ講和談判ニ際シ成ルヘク其資金ヲ増加セントシタル企圖ハ全ク明瞭ナリ彼ノ敵手ハ其帝國銀行ノ準備金ニ於テ十億留以上ノ現金ヲ掌握シ戰爭ヲ續行スル財政上ノ可能ヲ證明スルコトヲ得タリシナリ日本ハ之ニ反シ國庫ノ未タ支出セサル現金ノ外其中中央銀行ニ於テハ僅ニ一億圓ヨリ少シク多額ノ現金ヲ有セシニ過キス是ヲ以テ講和談判ニ際シ日本カ露國ト財政上ノ關係ニ於テ略同等ノ優勢ナル位置ヲ占メントセハ更ニ即時ニ募集スルコトヲ得ヘキ大外債ニ依テ其資金ヲ増加スルコト唯一ノ手段タリシナリ

協商ハ迅速ニ成立シタリ新公債ハ再ヒ三千萬磅ノ金額ニシテ千九百五年三月募集ノ外債ノ第二回分トシテ發行セラレ之ト利率償還及解約權ニ就キ全ク同一ニ取扱ハレタリ此第二回分ニハ煙草專賣ノ收入ヲ以テ第二順位ノ擔保ニ供シタリ該專賣ノ收入ハ戰爭中ノ改正ニ依リ千九百五年乃至六年度ニ於テハ三千二百萬圓ノ豫算ナリシニ四歩五厘付外債ノ第一回及第二回分ノ利子ハ一箇年二千七百萬圓ヲ要スルヲ以テ利子ノ支拂ニ要スル金額ハ擔保ニ供シタル收入ノ豫算額ニ略接近シタリ然レトモ日本ノ國家信用其ノモノハ公債ヲ引受ケタル銀行家ノ見地ヨリスレハ日本ノ勝利及即時ノ講和殊ニ財政上ノ關係ニ於テモ日本ニ有利ナ

編 二 第

ル講和ノ成立スル希望確實ナルニ願ミ特別ノ擔保ヨリ寧ロ重要ナリシナルヘシ
 發行價格ハ第一回分ト同シク九十二ニシテ日本ノ純收入ハ八割五歩五厘ナリ是ヲ
 以テ應募者ノ實際ノ利益ハ三月公債ト同一ナリシナリ但シ日本ノ實際ノ利子ノ
 負擔ハ之レヨリ少シク多額ナリ公債ハ倫敦紐育及伯林ニ於テ同額ヲ發行シタル
 カ三國トモ著シク申込ノ超過アリタリ
 該公債カ實際逼迫セル資金需要ヲ満足セントスルモノニアラスシテ單ニ講和談
 判ノ際日本ノ位置ヲ鞏固ナラシムルカ爲メ資金ノ増加ヲ圖リタルニ過キサレコ
 トハ就中拂込期日ニ徴シテ明カナリ獨逸ニ於テ發行シタル公債ニ就テハ千九百
 五年八月一日及十月一日ニ毎回二割五歩十二月十日ニ殘額ヲ拂込ムモノト爲セ
 リ

日本軍事公債總觀

次ノ表ハ日本軍事公債ノ全體ノ一覽表ナリ

十二億八千萬圓ニ達スル公債ノ額面ハ兩交戰年度ニ對シ協贊セラレタル公債募
 集豫算額九億五千百萬圓ニ超過シタルコト約三億三千萬圓ナリ

甲 外 債

編 二 第

乙 内 債

發行年次	額 面	純賣得金	實際利子	一箇年ノ利子所要額
千九百四年五月發行	九七・六三〇	八九・三	七・四	五・八六
千九百四年四月發行	一一七・一五六	一〇一・六	八・一	七・〇三
千九百四年十一月發行	二九二・八九〇	二五二・六	七・二	一三・一八
千九百五年七月發行	二九二・八九〇	二五〇・四	七・二	一三・一八
千九百五年三月發行	八〇〇・〇〇	七三・六	六・六	四・〇〇
千九百五年四月發行	一〇〇・〇〇〇	九〇・〇	八・三	六・〇〇
千九百五年五月發行	一〇〇・〇〇〇	九〇・〇	八・三	六・〇〇
千九百五年六月發行	一〇〇・〇〇〇	九〇・〇	八・三	六・〇〇
計	八〇〇・五六六	一一三四・五	?	六五・二五

（前段數字ハ二十箇年後、後段數字ハ五箇年後ノ價ヲ還見込ミタルモノナリ）

是ニ由テ之ヲ觀レハ戰爭ハ五億六千萬圓ノ日本ノ國債ヲ十八億四千萬圓即チ開戰前ノ國債ノ三倍以上ニ増加セシメタリ開戰前ニハ國債中約二億乃至二億五千萬圓外國ノ手ニ在リタルノミ此額ハ八億萬圓ノ軍事公債ト最後ノ二回ノ内債ニ對シ外國ノ參加シタル額—額面ノ半額ト見積ルコトヲ得ヘキ—即チ一億圓トヲ増加シタルモノナリ外國ニ對スル負債ノ増加ハ即チ約十一億乃至十一億五千萬圓ナリ日本公債ノ一箇年ノ利子ハ開戰前ニ在テハ約二千六百萬圓ナリシカ軍事公債ノ利子ハ六千五百二十五萬圓ナリ是ヲ以テ國債ノ一箇年ノ利子ハ—償還ノ外—軍事公債ノ爲メ九千萬圓以上ニ達シタリ斯ノ如キ増加カ日本國ノ歲計豫算ニ取テ如何ナル關係ヲ有スヘキモノナルヤハ從來ノ經常歲入トノ比較ニ依テ之ヲ知ルヘキナリ開戰前最後ノ二年間即チ千九百二年乃至三年及千九百三年乃至四年ニ於テ經常歲入ハ二億二千二百二十萬圓及二億二千四百二十萬圓ナリシナリ即チ外債ノ利子ハ毫モ元本ノ償還ヲ算入スルコトナクシテ歲入ノ約四割ニ相當スヘシ從來國債ノ利子トシテ一箇年一千萬圓乃至一千二百萬圓ヲ仕拂ヒタル外國ニ對シ現在ノ狀況ニ於テハ約六千萬圓ヲ支拂ハサル可カラサルナリ是レ日本ノ外國貿易ノ輸入超過ニ鑑ミ輕々ニ看過スヘカラサル一點ナリ其他露國ト同様

ニ日本ニ對シテモ講和ハ新ナル任務ト共ニ更ニ公債募集ノ必要ヲ生セシメ從テ戰爭ノ結果タル財政上ノ負擔ヲ一層増加セシムルニ至ルヘシ斯ノ如キ觀察ヲ下サハ日本カ講和締結ニ際シ戰費賠償金ヲ受取ラサリシコトノ日本ニ取テ如何ナル事件ナリシヤヲ了解セシムルニ足ラン

第五節 日本銀行ノ戰時協力

日本カ其人民ニ戰時稅ヲ課シ其財政ニ更ニ負債ヲ生スルノ已ムヲ得サルニ至リタル難局其他日本カ少クモ戰爭ノ前半期ニ於テ外國公債ニ依リ資金ヲ調達スルニ際リ服從セサルヘカラサリシ嚴酷ナル條件及最後ニ內國貨幣市場ノ資力制限ハ最初ヨリ日本銀行ノ準備金及紙幣發行權ニ依賴セントスル誘惑ヲシテ特ニ熾烈ナラシメサルヲ得サリシナリ他ノ一方ニ於テ日本銀行ノ左迄富裕ナラサル資産ノ狀況及市中流通銀行券ノ金貨ニ對スル過多ハ日本大藏省ヲシテ銀行ニ對スル其態度上特別ノ注意ヲ要セシメタリ

戰爭中日本銀行ノ資産ノ狀況ニ起リタル變動ハ次ノ表ニ據リ明カナリ (百萬圓)

千九百四年

千九百五年

編 二 第

準 備 金	外 國 爲 替	金 及 外 國 爲 替	銀 行 券 發 行 高	公 及 外 國 爲 替 二 對 スル 銀 行 券 ノ 超 過 高	公 ノ 貸 方	國 家 貸 上 金	手 形 割 引	擔 保 貸 付	合 計
九日	二五七	二二七	二〇九〇	八〇六	一五五	四六〇	一九八	三三九	五三七
十一月	六四二	六三三	二〇一九	一三二	三三三	九六〇	一六一	五一九	六八〇
二月	八一五	七五	八九〇	一四二	二六九	八一〇	二六七	四〇三	六七〇
九月	一一六五	一一六	二八二	一八八	二九一	五五五	二八五	四三八	七三三
十一月	八二八	二二五	一〇三三	一八三	一五五	二六五	四八〇	四五一	九三一
十二月	七六二	二二五	二八六六	一六五〇	五五九	一一七五	三一六	五九一	九〇七
七月	二七五	一三〇	九七七	一〇一六	一〇一	七五五	一八四	四二九	六三三
二月	八七一	一四九	一〇一〇	一三三	四三七	六七〇	三三〇	六六三	九九三
四月	二二五〇	一六〇	一四一〇	一〇三	九〇七	四四五	四二二	八九六	一三二八
六月	一一八五	一三〇	一三一五	一〇五	二二八五	四四五	四三一	二三五	二七八五
十月	一〇九三	一七八	一三七一	一三六	二四六三	四三三	六八二	二五五	三三三九
八月	一〇九三	一七八	一三七一	一三六	二四六三	四三三	六八二	二五五	三三三九
十二月	一〇九三	一七八	一三七一	一三六	二四六三	四三三	六八二	二五五	三三三九
三月	一〇九三	一七八	一三七一	一三六	二四六三	四三三	六八二	二五五	三三三九

以上ノ表ニ依テ之ヲ觀レハ開戦後四五箇月間ニ於テ銀行ハ國家ノ經費ヲ支辨スルカ爲メ拮据カラス協力シタルコト明カナリ此事實ハ銀行ニ對スル國家ノ貸方ノ異動ニ顯ハレサリシモ——露帝國銀行ニ在テハ銀行ノ協力ハ國家貸方ノ項目ニ於テ顯ハル、モ——國家ニ對スル銀行ノ貸金ナル項目ニ顯ハレタリ銀行ニ對スル公

編 二 第

ノ貸方ハ千九百三年ノ平均千九百九十萬圓ナリシニ千九百四年ノ第一回報告(一月九日)ニ據レハ千五百五十萬圓ニ達シ爾後ノ數週間ハ開戦マテ些少ノ増加ヲ爲シタルニ過キス次テ四月十六日ニ至テ九百六十萬圓ニ減少シ更ニ五月初旬以來著シク増加シ六月十一日ニ至テハ三千四百三十萬圓ノ最高額ニ達シタリ八月十三日公ノ貸方ハ再ヒ千九百萬圓ニ減少シタリ兎ニ角五月以來貸方ノ増加ハ倫敦ノ募債ト關係ヲ有スルモノナリ爾後ノ月ハ千九百五年一月七日五千五百九十萬圓迄之ヲ増進セシメタリ前年中國家ノ貸方ハ三月二十五日二千六百五十萬圓以下ニ減少シタリシカ次テ五月下旬及六月初旬約九千萬圓迄ニ増加シ六月十日突然一躍シテ二億二千八百五十萬圓ニ達シ爾來略該位置ヲ保チタリ

斯ノ如キ飛躍ハ擔保貸付ノ項目ニ依リ説明セラレタリ即チ擔保貸付ハ千九百五年六月三日八千八百六十萬圓ヨリ六月十日二億三千五百四十萬圓ニ達シ國家ノ貸方ト同様ニ一躍シタルモノナリ是ヲ以テ日本政府ハ明カニ四月ノ公債賣得金ノ大部分ヲ以テ短期有價證券ヲ購入シ之ヲ以テ銀行ヨリ擔保借入ヲ爲シタルモノナリ而シテ該擔保品ハ恐ラク外國ニ在ルモノト推測スルコトヲ得ヘキナリ

銀行ノ國家ニ對スル貸方ハ二月ノ議會ニ於テ事後承諾シタル十二月二十八日ノ

勅令ニ於テ其増額ヲ豫定シタルモノナリ其他ノ一時借入金ニ依テ調達セラルヘキ三千百萬圓ハ最初ヨリ銀行ニ著目シタルモノナリ實際國家カ銀行ヨリ借入レタル金額ハ時々頗ル多額ニ達シタリ千九百三年ニ於ケル借入金ノ平均額ハ三千六百九十萬圓ナリシモ千九百四年ノ第一回ノ銀行報告ニ據レハ借入金ハ四千六萬圓ニ達シ次ノ週及月ハ殆ント間斷ナク増加シ六月四日ニ至テ九千六百萬圓ニ達シ爾後一時減少シタルモ再ヒ増加シテ七月初旬ニハ一億四百九十萬圓ニ達シタリ

六月龍動及紐育ニ於テ募集シタル公債ノ賣得金ハ銀行ニ對スル國家ノ債務ヲ減少シテ千九百四年十二月十日ニハ五千四百五十萬圓ニ下ラシメタリ然レトモ次ノ週間ニ於テ漸次國家ノ資金消耗セラルト共ニ更ニ銀行ニ對スル國家ノ借上金ハ著シク増加シ千九百五年一月七日一億千七百五十萬圓ナル戰爭中ノ最高額ニ達シタリ當時銀行ニ對スル國庫ノ債務ハ千九百三年ノ平均額ニ比シ八千萬圓多額ナリ之レ千九百三年日本銀行準備金平均額ノ約三分ノ二ニ相當スルモノナリ千九百五年ハ千九百四年十一月ノ外債募集及千九百五年三月及七月ノ外債募集ノ結果トシテ銀行ノ國家ニ對スル貸金ヲ著シク減少シタリ貸金ハ八月十二

第二編

第二編

日ニ於テ四千三百五十萬圓ナルヲ以テ千九百三年ノ平均額ヲ甚シク超過セサリシナリ千九百五年九月二十三日即チ本書完結ノ際ニ於ケル最後ノ銀行報告ニ據レハ國家ニ對スル貸金ハ再ヒ七千六百五十萬圓ニ増加シタリ

銀行ノ私人ニ對スル貸金内國手形割引及擔保貸付ノ異動ハ格別重キヲ措クニ足ラサルヲ以テ大藏省ト銀行トノ關係ハ明確ニ銀行ノ兌換券發行高及金準備高外國爲替ヲ包ムニ反照セサルヲ得ス

銀行カ國家ニ對シテ最モ多額ナル協力ヲ與ヘタル第一期ニ於テ銀行券流通高異動ハ次ノ如シ即チ千九百四年一月九日ニ於テ二億九百萬圓ノ銀行券發行セラレ漸次二月十三日ニ於テ二億二千八百六十萬圓ニ増加シ次テ五月中旬迄ニ一億八千九百四十萬圓ニ減シ六月十一日ニハ二億百八十萬圓ニ下リタリ是ニ由テ之ヲ觀レハ國家ニ對スル貸金ノ最モ多額ニ増加シタル時期ニ際リ銀行券發行高ハ増加シタルヨリモ寧ロ減少シタリシナリ是ヲ以テ國家ハ主トシテ現實ノ金貨又ハ外國爲替ヲ以テ貨幣ヲ調達シタルコト明白ナリ實際當時日本銀行ノ金在高ハ非常ニ薄弱ヲ告ケタリキ銀行ノ硬貨(金及銀)ハ一月九日ノ一億千九百九十萬圓ヨリ畧間斷ナク六月十一日ノ七千二百五十萬圓ニ減少シ金貨ノミニテモ一月第一週

ノ一億千五百七十萬圓ヨリ六月第二週ノ六千四百十萬圓ニ減シタリ同時ニ銀行ノ所有スル外國爲替ハ千二百七十萬圓ヨリ六百三十萬圓ニ減シ六月十一日ニハ金及外國爲替ノ總額ハ僅ニ七千四十萬圓トナルニ至レリ是ヲ以テ金及外國爲替ノ減少シタル總計ハ千九百四年初ノ一億二千八百四十萬圓ノ現在高ニ對シ六月初迄ニ五千八百萬圓ニシテ即チ約四割五歩ニ相當セリ年始ノ際五割四歩ニ相當セル銀行券ノ金準備ハ六月第二週ニ至テ三割三歩三厘トナレリ

六月龍動及紐育ニ於テ發行シタル外國公債ハ一時國家ニ對スル貸金ノ減少及國家貸方ノ増加ト共ニ準備金ノ著シク増加ヲ來タシメタリ千九百四年九月十日金準備ハ外國爲替ヲ併セテ再ヒ一億二千八百十萬圓ニ達シタリ然レトモ千九百四年ノ終期ニ於テ六月公債ノ賣得金漸減ト共ニ更ニ銀行ノ資産狀況ヲシテ薄弱ナラシメタリ千九百四年九月下旬迄ニ約一億九千萬圓及二億三千四百萬圓間ヲ往來セル銀行ノ兌換券發行高ハ年末ニ際シ二億八千六百六十萬圓ニ達シ金準備ハ一時一億圓以下ニ減少シ千九百四年末ニハ外國爲替ヲ合セテ一億三百三十萬圓ナリキ同一期間内ニ於テ國家ニ對スル貸金ハ一億千六百五十萬圓ニシテ國家ノ銀行ニ對スル貸方ハ僅ニ四千五百五十萬圓ニ過キサリシナリ

編 二 第

編 二 第

千九百四年日本貨幣制度ノ危機ハ該年度ニ於ケル外國貿易及特ニ金輸出入ノ成績ニ依リ特別ニ透明ヲ以テ寫出セラレタリ日本銀行金在高ノ時ニ著シキ減少ニ依リ銀行及日本貨幣制度ニ醸生スル危險ハ政府カ銀行ヨリ徵發シタル貨幣ハ主トシテ外國ニ對スル支拂ノ爲メニ要セシモノナルヲ以テ愈々重大ナリシナリ日本ハ千九百四年ノ貨物貿易ノミニテモ五千二百十萬圓ナル其國力ニ照シ掛カラサル借方勘定ヲ決濟セサルヘカラサリシナリ其貴金屬ノ貿易ニ關シテハ大藏省年鑑ハ僅ニ金銀ノ數字ヲ掲ケタルニ過キス是ニ由レハ千九百四年ニ於テ貴金屬ノ輸入三千三百九十萬圓輸出一億七百八十萬圓ニ達セリ而シテ他ノ資料ニ徵スルニ輸入ハ殆ント專ラ銀ニ係リ輸出ハ殆ント金ニ係レリ特ニ金ノ輸出入ニ就テハ次ノ如キ狀況ヲ呈シタリ

金 輸 入	五・四
金 輸 出	一〇六・〇
輸出超過	一〇〇・六

實際千九百四年最初ノ三箇月間ノミニテ四千三百八十萬圓ノ金ヲ合衆國ニ輸送シ其内約千九百萬圓ハ單ニ三月ノ一箇月間ニ之ヲ輸送シタルモノナリ銀行ノ金

在高ノ迅速ナル減少ニ鑑ミ既ニ二月ニ於テ金貨及金品ノ所有者ニ向ヒ之ヲ銀行ニ提出スヘキ勸告發セラレ帝室自ラ率先シテ好模範ヲ示シタルカ如シ(ラフアエル、ゼオルジレグキー論文参照)然レトモ銀行報告ノ數字ニ示ス如ク實際ノ效果ハ多大ナラサリキ當時佛國ニ向テ巴奈馬運河償却ノ爲メ多額ノ支拂ヲ爲サ、ル可カラサリシ阿米利加人カ桑港ニ到着シタル日本ノ金貨ヲ即時ニ巴里ニ轉送シ巴里ニテハ其一部ヲ以テ五月ノ露國公債拂込ニ流用シタルカ如キハ一種特別ナル運命ノ惡戯ト稱スヘキナリ又千九百四年ノ外國公債モ該年度ノ中葉以來少シク金ノ流出ヲ防止スルコトヲ得タリシモ未タ以テ流出シタル金ノ逆輸入ヲ來サシムルニ足ラサリキ

第二編

千九百四年日本貨幣制度ノ成績左ノ如シ
日本大藏省年鑑ハ國內ノ金貨ヲ計算シ千九百三年ハ一億百八十萬圓千九百四年ハ僅ニ三千七百六十萬圓トセリ其内日本銀行ノ金貨ハ千九百三年度八千三百三十萬圓ニシテ千九百四年度千七百三十萬圓ナリシカ千九百三年下旬ノ銀行報告ニ據レハ金準備ハ外國爲替ヲ除キ一億千七百萬圓千九百四年下旬ニハ七千九百九十萬圓アリシヲ以テ千九百四年ノ下旬ニ於ケル金準備ト金貨トノ著シキ差額ハ

或ハ金塊及外國金貨幣ナリシカ或ハ銀行カ外國ニ於ケル金貨方及金預金ヲ以テ其金準備中ニ算入シタルモノナラサルヘカラス宛ニ角千九百四年ノ末二億八千六百六十萬圓ノ銀行券發行高ニ對シ銀行ノ金庫ニ在ル日本ノ金貨ハ僅ニ千七百萬圓ニ過キサリシナリ

第二編

千九百五年ニ於テ大外債ノ收入ハ有利ナル影響ヲ及ホシタリ二月初旬以來銀行ノ金準備及國家ノ貸方ニ就キ十一月公債ノ賣得金ヲ認ムルニ至リタリ二月十八日金準備ハ外國爲替ヲ合セ一億四千五百圓ヲ以テ戰爭中最高ノ程度ニ達シタリ縱令四月中旬マテニ再ヒ多額ノ減少ヲ來シタルモ(約一億二百萬圓マテ)五月ハ三月ノ募債ト關聯シテ新ナル改善ヲ來タシタリ爾來數箇月間ニ於ケル左迄多大ナラサル異動ハ國家ニ對スル貸金ノ異動ト同シク國家カ三月公債ノ賣得金中ヨリ銀行ニ拂込ヲ爲シタルカ爲メナリ九月二十三日ノ報告ニ據レハ金準備ハ一億五百萬圓金貨爲替ハ千六百九十萬圓合計一億二千百九十圓ニ達シタリ當時ノ銀行券發行高ハ二億五千二百五十萬圓ナルヲ以テ銀行券ノ約半額ハ金ニ依テ準備セラレタリシナリ

千九百五年外國公債ニ依リ銀行ノ資産及貨幣市場ノ狀況ニ起生シタル改善ハ金

輸出入ノ有利ナル形勢ニ現ハレタリ千九百四年ニ於テハ前述シタル如ク一億萬ノ金流出シタリシニ千九百五年ノ上半期ニ於テハ外國貿易ノ借方勘定ノ著シク膨脹シタルニ拘ハラス千三百萬圓ノ金流入ヲ見タリ

戰爭ノ日本銀行及邦ノ貨幣流通ニ及ホシタル影響ヲ判斷スルニ當リ銀行ハ露帝國銀行ノ如クニハ戰地ニ於ケル貨幣應需ニ參加セサリシコトヲ參考セサル可カラス露帝國銀行ノ兌換券増發高中同時ニ銀行ノ金準備増加高ヲ超過シタル部分ハ主トシテ戰地ニ於テ留兌換券ヲ發行シタルカ爲メナルコトハ吾人ノ既ニ説明シタル所ナリ之ニ反シテ日本人ハ朝鮮及滿洲ニ於テ日本銀行券及現金ノ外ニ一種ノ軍票ヲ發行シタリ其流通額ハ千九百四年ノ下旬六千三百萬圓ト計算セラレタリ日本人モ亦露人ノ如ク價格ヲ維持スルカ爲メ銀資金ヲ準備シタリシナリ然ルニ日本側ニ在テハ所要ノ銀ヲ調達スル上ニ於テ大ニ緩慢ナリシカ爲メ運用圓滑ナラサリシカ如シ軍票ハ千九百四年ノ末營口ニ於テ一割ノ下落ヲ來タシタリ橫濱正金銀行ハ如何ナル相場ヲ以テスルモ絶對的ニ軍票ヲ受取ルコトヲ拒絕シ外國銀行ハ率不定ノ割引ヲ以テノミ之ヲ受取リタリト云フ(千九百四年十二月二十七日)フランクフルテルツアイツング然レトモ千九百年ニ於テ日本ノ資金調

第二編

達ノ形勢一層有利ニ赴キタルト共ニ此點ニ就テモ改善セラレタリシナルヘシ

第六節 日本ノ軍資調達概觀

日本ノ戰時財政處分ニ關スル説明ノ終尾トシテ軍資金全體ノ一覽表ヲ掲クヘシ露國ト異リ公債收入及戰爭資金ニ流用シタル特別資金ノ外戰時稅ノ收入ハ頗ル多額ナリ之ニ反シテ開戰當時ノ借入金三千百萬圓以外ニハ日本銀行ニ對スル要求ハ時々多額ナリシコトアルモ常ニ一時的ノモノニ過キサリキ

第一 特別會計資金繰入

千九百四年乃至五年ノ戰時豫算ニ繰入

百五十四
五五・〇

千九百五年乃至六年ノ戰時豫算ニ繰入

八・〇

小計

六三・〇

第二 剩餘金及經費節減

千九百四年乃至五年ノ戰時豫算

四八・〇

千九百五年乃至六年ノ戰時豫算

四八・四

小計

九六・四

第二編

第三 新稅增稅及專賣收入

千九百四年乃至五年ノ戰時豫算

六二〇

千九百五年乃至六年ノ通常豫算及戰時豫算ノ豫定額一億五千六十

萬圓中千九百五年九月下旬迄ニ半額ノ見積

七五・三

小計

一三七・三

第四 賦納金及雜收入

二〇

第五 公債

一一三四・五

第六 其他ノ借入金

三一〇

總 資 金

一四六四・二

以上ノ金額中現時尙ホ多額ノ資金アルコト敢テ疑ヲ容レス若シ夫レ曩ニ詳論シタル如ク千九百五年七月初旬日本ハ約二億圓ノ資金ヲ有シ且ツ該金額ハ其後七月募集ノ外國公債賣得金ニ依テ四億五千萬圓ニ増加シタルモノトスレハ九月下旬ノ資金ヲ三億圓ト計算スルモ過大ニ失セサルヘシ是ヲ以テ戰爭ハ九月下旬マテニ約十一億六千萬圓ノ現金ヲ消費セシメタルモノ、如シ是レ露國ノ六千六百五十萬留ニ對シテ一箇月ノ軍費平均約五千八百萬圓ニ相當スルモノナリ然レト

編 二 第

モ日本ニ於テモ戰爭ノ終局的整理及復舊工事ハ管ニ現在ノ資金ヲ消耗シ盡スノミナラス露國ヨリハ著シク少額ナルヘキモ新ナル公債募集ヲ必要ナラシムルコト明カナリ

第三編

第三編 戰爭ノ財政上及經濟上ノ反動作用

緒言

以上吾人ハ兩交戰國ノ財政的行動ヲ說明シタリ以下此說明ハ戰爭カ兩交戰國ノ財政上及經濟上ノ情況竝ニ國際間ノ貨幣及資本市場ノ形勢ニ及ホシタル反動作用ノ研究ニ依テ之ヲ補充スルコトヲ要ス前段ノ反動作用ハ財政的交戰ノ經過及講和談判ノ際兩交戰國ノ相對立セル勢力上ノ位置如何ニ直接ノ關係ヲ有セシモノナリ又其國際的貨幣及資本市場ニ及ホシタル影響ニ至テハ一般經濟學上多大ノ興味ヲ與フルモノナルカ特ニ本論ニ於テハ兩交戰國ノ財政的動作ト間接ノ關係ヲ有スルカ爲メ吾人ニ向テ最モ重要ナル題目タルモノナリ

第一章 露國

戰爭ノ兩交戰國ノ財政上及經濟上ノ事情ニ及ホス效果ヲ研究スルニ當リテハ一面國家財政及公的信用ニ對スル效果ト他ノ一面私的貨幣及信用取引竝ニ生産及貿易ノ情況ニ對スル效果トヲ區別スルコトヲ要ス

第一節 戰爭ノ公的信用ニ及ホス反動作用

戰爭ニ基因スル國家財政ノ負擔

戰爭ハ露國ノ財政力及國家信用ニ對シ頗ル著シキ要求ヲ提起シタルモノニシテ就中千九百四年最終三箇月以來日々莫大ナル金額ヲ吸收スルニ至リタリ陸戰ノ不幸ナル經過ハ露國ヲシテ多大ノ經費ヲ投シテ益々新ナル軍隊ヲ遠隔セル滿洲ノ戰場ニ派遣スルノ已ムヲ得サルニ至ラシメタリ波羅的艦隊ヲ派遣シ以テ日本人ノ海上權ヲ挫折セントスル企圖ハ無數ノ金額ヲ併呑シタリ國家財政ノ實際ノ重荷カ露國ノ國家信用ニ及ホシタル影響ハ旅順奉天及對馬ニ於ケル大敗ニ依テ人心ヲ沮喪セシメタルト内亂暴動ノ之ニ加ハルモノアリタルトニ依テ甚シク過重セラレタリ

露國カ戰爭ノ爲メ講和條約締結マテニ支出シタル現金ハ十三億三千萬留ト計算セラレタルコト上述シタル如シ其中最モ大部分ハ信用的作用ニ依リテ調達セラレタルモノナリ軍事公債ノ額面ハ一千九百四年八月ニ發行シタル國庫證券及千九百五年五月ニ發行シタル國庫手形ヲ合セテ十二億八千五百五十萬留ニシテ純

第三編

第三編

賣得金ハ十二億一千萬留ナリシナリ其外露國ハ日本ニ讓與シタル滿洲鐵道ノ資本金ヲ喪失シタリ況ンヤ船艦要塞及各種軍用品ノ破壊セラレタル金額ヲ積算スルニ於テヲヤ斯ノ如ク支出セラレ若クハ破壊セラレタル金額カ——而カモ之カ爲メ何等生産的新事業ノ創立セラレタルモノアルコトナクシテ——露國ノ歲計豫算ニ取リテ如何ナル關係ヲ有スルモノナルヤハ該金額ハ千八百八十七年以來開戰間際マテ露國財政整理ノ全期間ヲ通シテ收メ得タル經常豫算剩餘金ノ總計ト畧同一ナルコトニ徴シテ察スヘシ是ニ由テ之ヲ觀ルモ露國ノ財政力戰爭ニ依テ負擔シタル重荷ヲ再ヒ回復スルカ爲メニハ如何ニ秩序的作業如何ニ堅忍不拔ナル元氣ヲ要スルカヲ知ルヘキナリ

然レトモ是レ未來ノ心配ニシテ吾人ニ取ツテ現ニ興味アルハ如何ニ露國ノ國家信用カ此多大ナル重荷ヲ負擔シタルカノ問題ナリ吾人ハ本問ヲ露國公債相場ノ高低及本位貨幣ノ變動ニ徴シテ審査セントス

露國公債ノ相場

露國ノ公債ハ本論第一編ニ説明シタル如ク戰爭前二箇年間ニ非常ナル相場ノ騰貴ヲ經由シタルモノナリ千八百八十二年六割七分二厘ノ最低相場ヲ有シタリシ

第三編

四歩利付公債ハ爾後漸次騰貴シ遂ニ千八百九十七年以來大體額面及其以上ノ相場ヲ維持スルニ至リタリ戰爭前最後ノ三箇年間千九百一年乃至千九百三年ニ於テ露國四歩利付公債相場ノ變動ハ九割八歩及十割四歩五厘ノ間ヲ往來シタリ此三年間ニ於ケル最低相場ハ千九百三年ノ終ニアリテ之レ當時既ニ政治上ノ形勢危殆ナリシ影響ヲ被リタルモノナリ

戰爭間際ノ數週間ニ於ケル露國公債ノ相場ハ巴里伯林及聖彼得斯堡ニ於ケルト倫敦ニ於ケルト其間著シキ相違ヲ生シタリ第一ノ市場ニ於テハ開戰間際ノ最後ノ週ニ至ルマテ公債ノ相場ハ狹隘ナル範圍内ニ於テ變動シタルノミニシテ伯林ニ於テ千八百八十年ノ四歩利付整理公債ノ相場ハ千九百三年十二月十五日乃至千九百四年一月三日間ニ僅ニ九割九歩五厘乃至九割八歩間ヲ上下シタルニ過キス之ニ反シテ倫敦ニテハ世人カ形勢ノ危機ニ就キ一層精通シタルカ爲メ露國有價證券ハ既ニ激變ヲ示シタリ千八百八十九年ノ四歩利付露國公債ノ相場ハ千九百三年十二月十五日ニ於テ尙ホ一〇〇・五〇ナリシモノ千九百三年十二月三十一日マテニ九八ニ下落シ千九百四年一月ノ第一週間ニ於テ漸次下落ヲ繼續シ一月七日ニ至テ九三七五トナルニ至レリ尤モ倫敦市場ニ於テモ一時平穩ナル狀況ヲ

第三編

呈シ一月ノ後半期ニ於テ一時相場ハ再ヒ九八・五〇ニ騰貴スルニ至レリ加之尙ホ二月四日ニ於テモ倫敦ノ相場ハ九八ヲ示シタリ

開戰カ激烈ナル相場ノ下落ヲ來タシタルハ當然ナリ二月九日四歩利付露國公債ハ伯林ニ於テ九一ニ下落シ二月十一日倫敦ニ於テ八八・五七ノ最低價格ニ達シタリ是レ千九百三年十二月中旬ノ價格ニ對シ伯林ニ於テハ八歩五厘倫敦ニテハ一割一步七厘五毛ノ相場下落ナリ最初ノ恐慌經過後ハ再ヒ著シキ相場ノ騰貴ヲ來タシ殊ニ倫敦ニテハ伯林ヨリ一層多額ノ騰貴ヲ示シタリ千九百四年三月三十一日ニ於テ倫敦ノ價格ハ九五・二五伯林ノ價格ハ九三・四〇ナリシ此相場ノ向上ハ次ノ月ニ於テ漸次再ヒ緊縮セラレ鴨綠江ノ戰爭後(四月二十九日乃至五月一日)四歩利付露國公債ハ倫敦ニテハ八八・二五伯林ニテハ八七・五〇ニ下落シタリ殊ニ巴里ニ於ケル三億留ノ公債募集ノ豫告ハ一層相場ノ下落ヲ強メタリ然レトモ以上ノ相場ニテ戰爭ノ前半期ニ於ケル最低價格ニ達シタルモノナリ爾來八月十日ノ露國旅順艦隊脫出計畫ノ蹉跌九月初旬ノ遼陽大戰十月中旬ノ沙河會戰ニ於ケル敗戦ニ拘ハラス千九百四年五月ノ平均價格八九・三三ヨリ十一月ノ平均價格九二・九五龍動相場ニ騰貴シタリ十月十五日ノ「ハル」事件ハ一時國際的葛藤ノ危險ヲ誘起

第三編

セントシタルモノナルカ露國公債相場ニハ瞬時ノ影響ヲ及ホシタルニ過キサレ
ナリ四歩利付公債ノ倫敦相場ハ十月十三日ノ九三五〇ヨリ十月十七日ノ九一七
五ニ下落シタルニ止マリ十月二十一日ニハ再ヒ九三〇ノ相場ヲ回復スルニ至レリ
千九百五年ノ軍事上ノ事件及内部ノ騷擾ニ對シ露國公債ノ相場ハ其抵抗力ヲ減
シタリ千九百五年一月初旬ノ旅順陥落ハ相場ヲ九〇マテ下落セシメ加之ス聖彼
得斯堡ニ於ケル勞働者ノ騷擾ハ一月二十三日ニ於テ八七五〇マテ下落セシメタ
リ二月ニ至テ再ヒ九一二五ノ相場ヲ回復シタレトモ奉天戰爭ノ結果ハ再ヒ相場
ヲ八七マテ下落セシメタリ次ノ二箇月間ニ於テ相場ハ八七及八九ノ間ヲ保チタ
リ五月下旬對馬水道ニ於ケル露國艦隊ノ全滅ハ奇怪ニモ相場ニ微弱ナル影響ヲ
及ホシタルニ過キス即チ八九ノ相場ヲ有シタル露國公債ハ之レカ爲メ六月初旬
ニ數日間八七五〇ニ下落シタルモ此ノ下落ハ直ニ復舊シタルノミナラス六月十
四日迄ニ騰貴シテ九一二ニ達シタリ其斯クノ如クナリシ所以ノモノハ專ラ當時世
人一般ニ今回コソ露國ハ講和條約ヲ締結スルニ至ルヘシト信シタルニ由レリ然
レトモ此希望ノ實行セラレサルニ迫ンテ再ヒ相場ノ下落ヲ來タシ内部ノ騷擾ノ
爲メ更ニ一層下落ヲ強メクニエーズボテムキン艦ノ暴動後七月十二日ノ八六二

第三編

五ナル最低價格ニ至ラシメタリ講和談判開始後相場ハ講和ノ見込如何ニ依テ狹
隘ナル範圍内ニテ變動シタルニ過キス八月下旬露國ニ軍費賠償支辨ノ義務ナキ
基礎ノ上ニ兩國講和談判委員ノ合意成立シタル報道カ株式取引所ヲシテ意外ノ
想ヲ爲サシメタル時ニ當リ四歩利付露國公債ノ相場ハ八月二十九日ノ八八七五
ヨリ八月三十日ノ九四二五同三十一日ノ九四七五ニ騰貴スルニ至レリ是ニ由テ
公債相場ノ平準ハ再ヒ千九百四年ノ年始ノ相場ニ比シ僅ニ約四歩低キ程度マテ
ニ復活シタリ是レ露國ヲシテ十三億留ノ現金ヲ消費セシメタル十九箇月戰爭後
ノ狀況ナリ

戰爭及留ノ相場

吾人ハ國債相場ノ外本位貨幣ノ價格如何ヲ以テ公的信用ノ程度ヲ測量スル標準
トス

「クリミヤ」戰爭及土耳其戰爭ノ結果ハ紙幣ノ濫發及硬貨本位諸國ノ貨幣ニ比較シ
テ紙幣留相場ノ著シキ下落ニアリタリ之ニ反シテ露國大藏省ハ極東戰爭ニ於テ
軍費ヲ紙幣發行ニ依テ調達スルコトヲ嚴重ニ回避シタリ國家ハ大體自己ノ銀行
ニ對スル貸方ノ範圍内ニ於テノ中央銀行ノ協力ヲ求メ銀行法ニ依ル準備金ナ

クシテハ毫厘ノ紙幣ヲ發行シタルコトナク且ツ戰爭ノ終局ニ際シ露帝國銀行ハ
 尙ホ裕ニ其銀行券發行額ヲ超過シ且ツ銀行法ノ規定内ニ於テ更ニ尙ホ四位留以
 上ノ銀行券ヲ増發スルコトヲ得セシムル金貨及金貨債權ノ準備ヲ有シタリシナ
 リ是ヲ以テ銀行ハ戰爭中其銀行券兌換ヲ維持スルコトヲ得タリ然リ而シテ何人
 ト雖モ流通銀行券ニ對シ其之ヲ發行シタル銀行ニ於テ額面ノ金貨ヲ受クルコト
 ヲ得ル間ハ金貨本位制度ハ鞏固ニシテ僅ニ本位貨幣ノ金純分ニ依リ外國本位金
 貨トノ間ニ存スル比較標準點ヨリ金貨輸送費ニ依テ決定セラル、普通爲替相場
 變動ノ狹隘ナル範圍内ニ於テ差額ヲ生スルニ過キサレナリ銀行券ノ金貨兌換拒
 絶セラレタル瞬間ヨリ初メテ銀行券又ハ銀行券ニテ支拂ハルヘキ手形ハ金貨又
 ハ金貨ニテ支拂ハルヘキ外國手形ニ對シテ下落ヲ生スルモノト去レト斯ノ如
 キ瞬間ハ極東戰爭中ニ發生セサリシナリ由來露國ノ金貨本位制ハ戰爭前ニ在テ
 ハ僅ニ外觀ヲ裝ヒタル砂上ノ樓閣ニシテ一陣ノ風ニ瓦解スヘキモノト見做サレ
 タルモノナルカ實際ハ不幸且ツ多額ノ費用ヲ要シタル戰爭ノ暴風雨ニ堪フル程
 度ノ鞏固及不動性ヲ有セシモノナルコトヲ充分ニ證明シタリ
 露國ノ本位貨幣ハ金貨本位制維持セラレタルカ爲メ狹隘ナル範圍内ニ於テ戰爭

編 三 第

ノ影響ヲ受ケ左表ニ示シタル如キ變動ヲ呈シタリ(百留ニ對スル備貨)

最高相場 最低相場 平均相場

千九百三年中 千九百四年 二二六・四五 二二六 二二六・一五

編 三 第

年	月	最高相場	最低相場	平均相場
千九百三年中	一	二二六・一〇	二二六	二二六・〇三
千九百四年	二	二二六・五〇	二二六	二二六・〇七
	三	二二六・五〇	二二六・〇五	二二六・二一
	四	二二六・一五	二二六	二二六・〇六
	五	二二六・二〇	二二六	二二六・〇五
	六	二二六・一〇	二二六	二二六・〇二
	七	二二六・〇五	二二六	二二六・〇一
	八	二二六・三〇	二二六	二二六・一八
	九	二二六・二五	二二六・〇五	二二六・二一
	十	二二六・三〇	二二六	二二六・二三
	十一	二二六・三〇	二二六	二二六・二二

編 三 第

十二月	千九百四年	千九百五年	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
二一六・一五	二一六・五〇	二一六・五〇	二一六・〇五	二一六・〇五	二一六・一五	二一六・四〇	二一六・一〇	二一六・一〇	二一六・三〇	二一六・七〇	二一六・三〇	二一六・三五	二一六・三五
二一六	二一六	二一六	二一六	二一六	二一六	二一六	二一六	二一六	二一六	二一六	二一六	二一六	二一六
二一六・〇三	二一六・〇九	二一六・〇九	二一六・〇一	二一六・〇一	二一六・〇一	二一六・〇一	二一六・〇一	二一六・〇一	二一六・〇一	二一六・〇九	二一六・〇九	二一六・二八	二一六・一五

前表ハ決シテ留相場ノ異常ノ變動ヲ示スモノニアラスシテ如何ナル場合ニ於テモ百留ニ對シ二百十六馬克以下ノ割合ヲ呈シタルコトアラサルナリ大體本位貨

編 三 第

幣ノ價格ヲ維持スルニ就キ一般ノ形勢有利ナリシコト敢テ疑ヲ容レヌ露國ハ其外國公債ニ依リ對外債務及軍需品等購買ニ關スル支拂ヲ爲スニ充分ナル資金ヲ有シタリ其外露國ノ外國貿易ハ千九百四年ノ豐作及穀物ノ比較的高價ナル相場ノ爲メ非常ニ有利ナリシナリ該年度ノ外國貿易ハ前三箇年ト比較スレハ左ノ如キ狀況ヲ呈シタリ (百萬圓)

輸出	一九〇四	一九〇三	一九〇二	一九〇一
輸入	九五五	九五〇	八二五	七三〇
輸出超過	三五七	三四七	二九六	二九七

形勢夫レ斯クノ如クナルヲ以テ金ノ輸出ナク寧ロ千九百四年ノ露國金産出額ノ全部カ少許ノ輸入超過ヲ加ヘテ悉ク内國ニ留マリタルコトハ既ニ之ヲ述ヘタリ然ルニモ拘ハラヌ露國本位貨幣ノ運命ニ就テハ一時幾分疑懼ノ念存シ殊ニ戰爭最初ノ週間ニ於テ留ノ比較的的低キ相場ニ現ハレタリ戰爭ハ自然外國ニ對スル支拂手段ノ需要ヲ増加セシメサルヲ得サルナリ外國ニ對シ軍需品等ノ爲メ供給スヘキ支拂ノ外特ニ露國ニ就テハ戰爭ノ結果多大ナル相場下落ノ損失ヲ促ス虞ア

第三編

リタルカ爲メ其外國ニ賣出シタル有價證券ノ多額カ露國ニ逆輸入セラル、コトアルヘキコトヲ參考セサル可カラズ實際戰爭中露國有價證券ノ逆戻ハ一時拵ナカラス行ハレタリ其他斯ノ如キ時代ニハ外國資本家カ其債權ヲ成ルヘク迅速ニ實行セシコトヲ圖リ殊ニ短期貸出ヲナシタル資本ノ回收ヲ行フハ當然ノ事理ナリ縱令露國ハ千九百四年ニ於テ頗ル有利ナル外國貿易ノ趨勢竝ニ國庫及露帝國銀行ノ—金貨ノ輸出ナクシテ—貸方ニ依リ大概此非常ナル要求ニ應スルコトヲ得タリシト雖モ或ル切迫セル瞬間ニ際テハ露國貨幣市場ハ如何ニシテ此非常ナル資金ノ需要ニ應スルコトヲ得ヘキカニ就キ苦慮シタルカ如シ然レトモ國庫及帝國銀行ハ斯ノ如キ瞬間ニ於テ助力及慰藉ヲ忘ル、コトナク其對外貸方ニ基キ貨幣市場ニ多額ノ外國手形ヲ普通ノ相場ニテ供給シタリ加之露帝國銀行ハ更ニ一步ヲ進メタリ開戦後外國ニ對スル數箇月後拂ノ支拂手形(小切手及手形)ノ需要著シク増加シタルニ當リ—之レ外國ト取引スル實業界カ露國本位貨幣ノ或ル變動ニ對シ外國拂手形ノ定期賣買ニ依リ填補ノ方法ヲ講シタルカ爲メナリ—帝國銀行ハ外國本位貨幣ヲ以テスル定期賣買ニ應スルコトヲ承諾シタリ帝國銀行ハ千九百四年二月中旬ヨリ伯林宛小切手ヲ百馬克ニ就キ四十留三十哥ノ割合ニ

第三編

テ(百留ニ就キ二百五十馬克九十八片ニ相當ス)一箇月ニ就キ千分ノ一ヲ加算シテ賣却シタリ(千九百四年二月二十三日フランクフルテルツアイツング)此定期賣買ニ依リ帝國銀行ハ市場ヲ安心セシメ且ツ留相場ヲ維持スルコトヲ得タリ露國本位貨幣ノ運命ニ對スル一層ノ疑懼ハ戰爭繼續中僅ニ一回即チ奉天戰爭後佛國ニ於ケル新公債募集交渉ノ不調ニ終リタル時期ニ當テ生シタルニ過キス千九百五年三月十八日ニ於テ數多ノ商業新聞ハ—紙幣留ノ相場二百十六ナリシ間ニ於テ—聖彼得斯堡支拂手形就中數箇月後拂ノ手形ハ著シク低キ相場ヲ呈シ例之ハ即時拂手形ニ對スル伯林相場ハ二百十五、四分ノ一十月拂手形ハ二百十三、四分ノ一ナルコトヲ報道シタリ(千九百五年三月十八日、ベルリ—キル、ターゲ—ツラツト)聖彼得斯堡ニテハ外國本位貨幣ノ公定相場維持セラレタルモ該相場ニテハ僅ニ貸出部カ輸入商ニ對シ外國拂手形ヲ發給シタルニ止マリ市中ニテハ倫敦及伯林支拂ノ手形ニ就テハ一層ノ高相場ヲ以テ取引シタルカ如シ(千九百五年三月二十六日)フランクフルテルツアイツング)斯ノ如キ趨勢ヲ呈シタル理由ニ就テハ種々ノ說アリ或者ハ謂テ曰ク巴里及倫敦ヨリ伯林ノ市場ニ向ケ露國本位貨幣ヲ以テシタル白地爲替手形ノ發行アリタルカ爲メナリト他ノ者ハ解シテ曰ク之

レ露國本位貨幣ノ下落ヲ恐怖シテ臨機填補ノ途ヲ講シタル輸出商カ露國拂手形ノ賣拂ヲ爲シタルカ爲メナリト又一部ノ者ハ此形勢ヲ解シテ外國ヨリ露國資金ノ甚シキ逆輸入アリタルカ故ナリトセリ恐ラク總テ如上ノ事情綜合シテ斯ノ如キ結果ヲ生セシモノナルヘシ然レトモ之カ爲メ永續的效果ヲ發生セシメタルコトナク聖彼得斯堡拂手形ノ相場カ狹隘ナル範圍内ニ於テノミ下落シタルコトノ明確トナルニ及ンテ再ヒ平穩ナル狀況ヲ呈シタリ九月後半期ニ於テ伯林ノ留相場ハ露國穀物輸出ノ影響ヲ被リ一時二百十六馬克七十片ニ騰貴シタルモ千九百五年十月ニハ二百十六馬克三十五片及二百十六馬克ノ間ヲ上下シタリ

極東戰爭ノ燈火ニ照ラシタル露國財政

由來露國ノ財政及其指揮ニ關シ幾分良好ノ方面ヲ發見スルハ人氣ニ投スル所以ニアラサルナリ何人ト雖モ敢テ之ヲ試ムルモノハ嫌疑ヲ被リ且ツ個人的攻撃ヲ受ケサルモノナシ然レトモ吾人ノ眼底ニ映シタル露國財政ノ經過ヲ公平無私ニ觀察スルニ際テハ露國ノ國家信用カ極東戰爭及内部騷擾ノ難局ニ際シ敬重スルニ足ル程鞏固ナリシコトヲ認識セサルヲ得サルナリ是レ人ノ爭議シ得ヘキ判斷及其成否ハ未來ノ解決スヘキ豫言ノ如キモノニアラスシテ寧ロ吾人ノ目前ニ存

第三編

第三編

シテ縱令如何ニ盲目ナル頑迷者流ト雖モ之ヲ否認スルコト能ハサル事實ナリ露國ハ徹頭徹尾不幸ナル戰爭及重大ナル内部騷擾ノ際ニ當リ約十三億留ノ公債ヲ募集シ是ニ由テ以テ自己ノ債務ヲ約二割増加シタルモノナリ而モ露國ハ此多額ナル公債ヲ比較的容易ナル條件ヲ以テ募集スルコトヲ得タリシナリ例之ハ千八百七十年北獨逸聯邦カ其五歩利付軍事公債ニ就キ僅ニ八割八歩佛國カ講和條約後軍費賠償ノ爲メ募集セル五歩利付公債ニ就キ僅ニ約八割ノ相場ヲ收メ得タルニ反シ露國ハ何レノ五歩利付公債ニ就テモ九割六歩以下ノ發行價格ヲ以テ満足セサル可カラサルカ如キコト之アラサリキ縱令當時以來一般ニ利率ノ低落シタルコトヲ參考スルモ彼此ノ比較ハ露國ノ利益ニ歸スルコトヲ證明セリ其外露國四歩利付公債ノ相場ハ戰爭中最モ不利益ナル場合ニ於テスラ一割二歩乃至一割三歩即チ九割八歩乃至九割九歩ヨリ約八割六歩ニ下落シタルニ過キサレナリ今之ヲ以テ以前ノ戰役ニ於ケル公債相場ノ趨勢ト比較セハクリミヤ戰爭ハ五歩利付公債ノ相場ヲ十割二歩半ヨリ七割ニ暴落セシメ連戰連勝ノ露土戰爭モ五歩利付公債ヲ十割四歩ヨリ七割三歩八分ノ三ニ下落セシメタリ其外千八百八十年乃至千八百八十二年間ニ於ケル四歩利付露國公債ハ七割五歩及六割七歩二厘ノ間

第三編

ヲ往來シ而カモ益々下落ノ傾向ヲ呈シタリシニ反シ今回ハ不運ニシテ多額ノ費用ヲ要シタル戰爭終結後四歩利付露國公債ハ倫敦ニ於テ九割四歩及九割五歩ノ相場ヲ有スルコトヲ認識セサル可カラス尙ホ「クリミア」戰爭及露土戰爭ハ露國本位貨幣ノ著シキ下落ヲ來タシ加之ス富裕ナル佛國スラ千八百七十年ノ戰爭ニ於テハ中央銀行ノ多額ナル債務者トナリ中央銀行ノ發行シタル銀行券ノ兌換ヲ停止スルノ已ムヲ得サルニ至リタルニ反シ露國ノ本位貨幣ハ極東戰爭ニ於テ毫モ下落スルコトナク露帝國銀行ハ其銀行券發行額ニ超過セル巨額ノ金貨ヲ貯藏シタルコトヲ參考スルコトヲ要ス尤モ戰爭中露國公債相場力驚嘆スルニ足ルヘキ鞏固ノ力ヲ有シタルコトヲ以テ各種ノ人工的策路就中巧妙ナル買占ニ歸スルモノ掛ナカラス露國大藏省カ臨機直接若クハ間接ノ干涉ニヨリテ非常ナル相場ノ下落ヲ豫防シタルハ或ハ事實ナルヘシ然レトモ何レニモセヨ之レ時々比較的微弱ナル手段ヲ用キタルニ過キサレヘシ蓋シ若シ露國政府ニシテ新公債ヲ募集スル代リニ其資金ヲ以テ自國公債ノ大仕掛ナル買占ニ利用シタリトセハ露國政府ハ忽チ其資金ヲ消耗シ盡クシタルヘケレハナリ然レトモ露國政府カ少許ナル手段ヲ以テ斯ノ如キ困窮ノ時代ニ於テ斯ノ如ク其債務ヲ増加スルノ已ムヲ得サル

第三編

ニ至リタル時期ニ際リ其公債ノ相場ヲ維持シタル至大ノ效果ヲ收ムルコトヲ得タリトセハ之レ孰レノ大藏大臣ニ對シテモ世人ノ希望スル所ニシテ而モ人ノ知ル如ク屈指ノ大藏大臣ノミ有スル技倆ヲ示シタルモノト謂フヘキナリ但シ吾人ハ決シテ之ヲ以テ這般ノ小術策ニ重キヲ置ク可カラサルナリ蓋シ若シ露國大藏省カ開戰前二十箇年間ニ於テ完成シタル宏大ナル事蹟ト從來露國カ常ニ其支拂義務ヲ履行シタル確實トノ二者カ露國ノ國家的信用ノ基礎ヲ著シク鞏固ナラシメタルニアラスンハ斯ノ如キ小術策ハ必然失敗ニ終ラサル可カラサルモノナレハナリ若シ夫レ露國財政整理ノ事業ニシテ傲然平凡ナル見識ヲ抱懷セル多數管見者流ノ主張スルカ如キ空中ノ樓閣ニ過キサレモノナラシメハ露國カ最近二十箇月間ニ經過シタル如キ難局ノ時代ヲ措イテ果シテ何レノ時カ其真相ヲ暴露スルノ秋アラソ

露國ノ財政カ多額ノ經費ヲ要シタル不運ノ戰爭及同時ニ内部ノ騷擾ニ遭遇セルカ如キ烙鐵ニ對シ何人モ自己ノ祖國ニ向ヒ其危機ニ際シ斯クアルヘキヲ願望スル底ノ成功ヲ爲シタル事實ヲ認識スルモ之レ未タ露國國民經濟ニ關スル判斷又ハ露國ノ國家信用ノ未來ノ運命ニ關スル豫言ヲ包含スルモノニアラサルハ予輩

ノ特ニ明言スル所ナリ

何人ト雖モ自ラ底意ヲ懷クモノハ自己ノ考慮ト矛盾スル一切ノモノヲ以テ底意アルカ如ク思惟スルハ人情ノ常ナリ或ル觀察點ヨリシテ一切萬事ニ就キ排露主義ヲ抱懷スル者ハ海軍月報ニ登載シタル予輩ノ論文ヲ以テ予輩ノ毫モ想像セサル底意ニ出テタルカ如ク認メタリ參事官「マルチン」氏ハ千九百五年伯林ニテ發行セル露國及日本ノ未來ト題スル冊子ニ於テ將來露國公債カ獨逸ノ株式取引所ニ許容セラレトコトアルヘキコトニ對シ異議ヲ唱ヘ且ツ獨逸ノ資本家ニ向テ成ルヘク早ク其露國公債ヲ賣却スヘキコトヲ勸告シタルモ予輩自身ハ株式取引所ニ露國公債ヲ許容スヘキヤ否ヤノ問題ニ就キ反對若クハ贊成ノ意見ヲ述ヘ又ハ我々資本家ニ勸告ヲ爲ス資格アリト自信セサルナリ予輩ハ單ニ事實其物カ吾人ニ向テ關係ヲ有シ且ツ吾人自身ノ經營上ニ參考トナルヘキ事實ヲ説明セントスルニ過キサルナリ且ツ吾人ハ財政政策ニ關シテハ世人ノ蔑視シタル露國ヨリ學ブ所ナキニアラサルナリ予輩ハ何等ノ底意ヲ有セサルカ故ニ予輩ノ海軍月報ニ於ケル論文ニ就キ揣摩シタル如キ或ル事ヲ爲スノ意思毫モ之レアラサルナリ又予輩ハ露國ノ形勢ヲ徹頭徹尾光輝アルモノト賞揚シ又ハ露國ノ財政上及經濟上未來

編 三 第

編 三 第

ノ形勢ヲ豫言スルノ趣意ニアラサルナリ予輩ハ寧ロ最初ノ論文ニ於テ一國ノ財政上ノ狀態ハ其經濟上ノ情況ト併セテ觀察スルニアラサレハ根本的ニ判斷スル能ハサルコト及露國財政整理ノ時代ニ於テ屢々不都合ナル事情カ露國ノ國民經濟ヲ甚シク傷害シ且ツ財政系統ヲシテ危殆ナル狀態ニ陥ラシメタルコト及ヒ歲入ノ増加歲入剩餘ノ計畫カ露國ノ國民經濟ニ重大ナル犠牲ヲ負擔セシメ特ニ形勢不利ナル時代ニ際テ非常ナル苦痛ヲ感セシムルコトアルヘキヲ明言シタリ然レトモ予輩ハ正義及誠實カ次ノ事實ヲ認識スヘキコトヲ命スルモノナルコトヲ信スルモノナリ即チ上述シタル犠牲ハ露國國民經濟ノ發展ニ供セラレ而カモ今日既ニ其徵候ヲ呈シタルコト國家財政ノ整理及ヒ貨幣本位制度ノ改良カ露國國民經濟ノ發展ニ必要ナル資本ノ輸入ヲ大ニ容易ナラシメタルコト、主トシテ財政整理ニ依リテ行ハレタル鐵道敷設ノ大事業カ露國ノ國民經濟就中穀物ノ輸出及國內ニ於ケル穀物ノ分配ニ就キ多大ノ利益ヲ與ヘタルコト、最近二十箇年間ニ於ケル礦業及工業ノ進歩發達ノ狀態ヲ呈シタルコト即チ是レナリ他ノ一面ニ於テ予輩ハ露國ノ財政及國民經濟ノ前途ノ爲メ舊時ノ失政ニ基因スル農業狀態ノ恢復ヲ以テ重要案件トスルコトヲ明言シタリ予輩ハ毫モ是等ノ困難及危險ヲ否認セ

二六六
ントスルモノニアラス然レトモ何人ト雖モ是等ノ事情ヲ打算スレハ最近二十箇年間ノ露國財政政策ニ向テハ西歐ト比較シテ經濟上ノ狀態及ヒ民富ノ程度低キニ拘ハラス國家ノ財政ヲシテ東方戰爭ノ餘弊ヲ受ケタル混亂ノ狀態ヨリ重大ナル難局ニ堪フルコトヲ得タル鞏固ノ力ヲ得セシメタル手腕ヲ認識セサルヲ得サルヘシ此點ニ就テモ亦勢ヒ吾人自身ノ境遇ト對照セサル能ハス若シ夫レ最近二十箇年間ノ露國ニ就キ未タ曾テ斯ノ如ク民富ノ低キ邦ニシテ其公的信用ヲシテ斯ノ如キ程度及抵抗カヲ得セシメタルモノアラスト斷言スルコトヲ得セシメハ獨逸ニ至リテハ借哉其反對ヲ云ハサルヲ得サルナリ乃チ最近二十箇年間ニ於テ獨逸ノ示シタル如キ民福ノ増進及國民經濟ノ隆盛ヲ來タシタル邦ニシテ今日ノ獨逸帝國ノ如ク其公ノ財政上ニ遺憾甚ナカラサルモノハ恐ラク歷史上唯一ノ事實ナルヘキコト此ナリ

第二節 戰爭ノ私的信用取引及一般ノ經濟情況ニ及ホス反動作用

戰爭ノ費用ハ増稅等ニ依リ直接ニ露國國民經濟ニ負擔セシメラレタルニアラスシテ殆ント專ラ準備資金及公債ノ賣得金ニ依テ支辨セラレタリ軍費ハ露國國民

經濟直接ノ負擔トシテハ講和後ノ次年度ニ於テ初テ現ハルヘク即チ戰爭ニ依テ消耗シタル金額ヲ歲入ノ増加及歲出ノ非常ナル節約ニ依テ補充シ戰爭中消耗シタル準備金ハ之ヲ再ヒ填補シ軍事公債ノ利子及元金償却ノ歩合ヲ經常豫算ニ計上シ陸海軍ノ軍備復舊ニ必要ナル資金ヲ調達スルノ必要アルヘシ是ヲ以テ世人カ後年度ノ露國豫算ヲ以テ軍費ノ決算ヲ爲スモノナリト稱スルハ正鵠ヲ得タルモノナリ(ラファロウイツチ千九百五年出版「ルマルシエー、フキナンシエー」ウキツエウスキー)千九百五年度社會學雜誌第三冊中露國ノ財政的戰闘論)

露國ノ貨幣及資本市場

露國カ軍費ノ精算及其國家財政ノ整理ナル重要案件ヲ如何ナル程度マテ成功スヘキカノ問題ニ對シテハ戰爭ニ因リ露國ノ經濟的實力カ果シテ幾何ノ損害ヲ受ケタルカノ一事至大ノ關係ヲ有スルモノナリ

露國ノ經濟情況ニ及ホシタル戰爭直接ノ影響ハ戰爭カ露帝國ノ遠東ニ於ケル極端ニ於テ演セラレ且ツ上述シタル如ク戰爭ニ依テ生シタル負擔ヲ未來ニ延期シタルニ依テ限局セラレタリト雖モ而モ戰爭ハ貨幣及資本市場竝ニ生産及販賣ノ情況ニ妨害的影響ヲ及ホサルヲ得サリシナリ

編 三 第

二六八

抑貨幣及資本市場ノ形勢ハ一般實業社會ノ景況ト大ニ關聯スルモノナリ概シテ商況不振ノ時期ニ際テハ金融ハ緩漫ナルヲ常トシ商況活潑ニシテ生産事業ノ擴張セラル、時期ニ際テハ金融逼迫スルモノトス尙ホ或ル未決ノ遷過時代ニ際シ事業家カ其生産品停滯ノ爲メ金融ニ依リ營業ヲ繼續スル資金ヲ調達スルノ已ムヲ得サルカ如キ場合ニハ金融ノ逼迫ヲ見ルモノナリ之ニ加フルニ經濟上及政治上不穩ナル時期ニ際シテハ資本家ハ慎重ナル態度ヲ取リテ時々躊躇スルコトアリ是ヲ以テ信用ノ少シク發達シタル諸國ニ於テハ開戰ノ際貨幣市場ハ逼迫ノ狀況ヲ呈シ國民經濟最後ノ資源タル大ナル中央銀行ニ對スル資金ノ要求急劇ニシテ手形ノ割引又ハ有價證券及商品ノ擔保貸付ヲ以テスル資金ノ融通著シク増加スルコトヲ打算セサル可カラス而シテ爾後ノ經過ハ營業ノ縮少ト共ニ漸次金融ノ緩漫ヲ告ルニ至ルヘシ

是ヲ以テ開戰當初露國ニ於テ金融ノ困難及仕拂停止ニ關スル幾多ノ苦情起リシハ敢テ怪ムニ足ラサルナリ露帝國銀行ハ通常ノ狀態ナリセハ其貸出ヲ甚シク制限スヘキ時期ニ際シ貸出要求ノ増加ニ遭遇シ且ツ萬一ノ事變ニ備フル金準備ヲ保全スルカ爲ノミニテモ既ニ其利率ヲ高メ擔保貸付ニ幾分ノ制限貸出ノ範圍ノ

編 三 第

縮少ヲ加フルノ已ムヲ得サルニ至リタリ露帝國銀行ノ公定割引相場ハ千九百二年二月中旬以來絶エス四歩五厘乃至五歩五厘ナリシカ千九百四年二月十三日五歩五厘乃至六歩五厘ニ増加シ盡彼得斯堡市中ノ割引相場ハ千九百四年二月二十三日以來六歩乃至七歩五厘ニ達シ西比利亞及極東ニ向テハ猶豫狀ヲ發セサル可カラサルニ至リタリ其他露帝國銀行ハ其金準備ニ對スル急性的危險ニ打勝チタル後ハ困難ナル金融事情ニ顧ミテ非常ニ便宜ノ處置ヲ取ラサルヲ得サルニ至レリ私立銀行ハ若干ノ期間預金ノ取戻ニ依リ其資金ヲ縮少セラレタルヲ以テ之ニ充分ナル金融ノ便宜ヲ與フルカ爲メ露帝國銀行ハ相當ナル擔保ヲ條件トシテ是等私立銀行ニ與フル金融ノ範圍ヲ擴張シタリ其外露帝國銀行ハ一般ノ規程ニ反シ其支店ニ向テ割引ニ依リテ充分ナル流通資金ヲ得ルニ足ルヘキ豊富ナル短期手形ノ貯藏ナキ私立銀行ニ三箇月乃至六箇月拂手形ノ割引ヲ許可シタリ以上ノ處置ニ依リテ開戰ノ結果發生シタル金融ノ困難ニ打勝チ恐慌及災厄ヲ免カル、コトヲ得タリ

露帝國銀行ノ手形及擔保貸付ハ戰爭中次ノ如キ狀況ヲ呈シタリ

手形貸付高

擔保貸付高

合計

二六九

第 三 編

千九百三年平均	二百六十一	二百九十九	二七〇
千九百四年一月一日(十四日)	二四七・八	二二四・四	四七二・二
同 二月二十三日(三月七)	二六七・〇	二二七・三	四八四・三
同 七月一日(十四日)	一九五・七	一九四・四	三九〇・一
同 十月一日(十四日)	一八一・九	二一六・二	三九八・一
千九百五年一月一日(十四日)	一六九・二	二二一・一	四〇〇・三
同 七月一日(十四日)	一四七・七	二〇九・九	三五七・六
同 十月一日(十四日)	一五六・二	二二二・九	三九〇・一

此表ニ據レハ千九百四年ノ年始ニ際シ銀行ノ貸出ハ千九百三年ノ平均ヨリ著シク超過シタリ是レ一ハ例年穀物取引季節中貨幣市場ノ逼迫スルト一ハ疑モナク當時既ニ政治上ノ形勢不穩ナリシニ因レリ之ニ次テ三月中迄ニ已ニ前述シタル如ク露帝國銀行ノ貸出ハ漸次増加シタリ開戦ト同時ニ發生シタル信用ノ動搖鎮靜シタル以後九月迄ハ貸出ノ減少ヲ見ルニ至リタリ千九百四年ノ一月一日乃至九月一日間ノ貸出ノ減少ハ八千三百六十萬留ニシテ前二箇年ノ同季節ニハ八千五百萬留及ヒ一億二千二百萬留ナリキ手形及擔保貸付ニ投シタル資金額ハ千九

第 三 編

百四年九月一日ニハ三億八千八百六十萬留ニシテ前二箇年ノ同一期日ニ於ケル三億九千四百十萬留及三億九千七十萬留ニ比シ僅ニ百有餘萬留ヲ減少シタルニ過キサルナリ斯ノ如キ差額ノ僅少ナルハ如何ニモ奇怪ニシテ千九百四年最初ノ八箇月間ノ成績ニ徴シ戰爭ハ露帝國銀行ノ貸出ニ何等ノ著シキ影響ヲ與ヘサリシモノナルコトヲ斷言スルコトヲ得ヘシ

然ルニ千九百四年九月ヨリハ前年ノ狀況ニ比シテ差異ヲ呈シ通例九月ヨリ發生スル露帝國銀行貸出ノ擴張ハ千九百四年ニ於テ狹隘ナル範圍内ニ止マリタルコトヲ示シタリ千九百四年九月一日露帝國銀行ノ手形及擔保貸付額ハ三億八千八百六十萬留ナリシニ千九百五年一月一日迄ニ僅ニ四億三十萬留ニ増加シタルニ過キス是ヲ以テ該時期ニ於ケル貸付額カ千九百四年一月一日ニ比シ僅ニ七千二百萬留ヲ減少シタルニ過キス千九百五年四月一日ノ貸付額ハ前年ノ同一期日ニ比シ七千七百萬留ヲ減シタリ七月一日ニ於テ差額ハ尙ホ三千二百五十萬留ナリシモ十月一日ニ至テハ僅ニ八百萬留ニ過キサルニ至レリ

露帝國銀行ノ手形及擔保貸付額カ千九百四年九月以來比較的少額トナリシ事實ニ徴シ戰爭ノ影響ハ當時以降一般經濟ノ不振ニ現ハレタリトノ結論ヲ下スヘキ

第三編

ニ似タリ況ンヤ銀行自身ハ常ニ故意ニ貸出ノ制限ヲ行ヒタルコトヲ否認シタルニ於テヲヤ實際斯ノ如キ結論ヲ下シタルモノナキニアラス然レトモ露國大藏大臣ハ其千九百五年豫算報告書ニ於テ左ノ如キ説明ヲ以テ之ニ反對シタリ曰ク貨幣市場ノ眞實ナル情況ヲ明ニセントセハ帝國銀行ノ割引及貸出營業報告ヲ前年ノ報告ト對照スルヲ以テ足レリトセス斯種ノ報告ハ私立商業銀行ノ同様ノ報告ニ依テ之ヲ追完スルコトヲ要ス蓋シ商業上ノ金融ヲ圖ル總テノ重ナル銀行ノ割引及擔保貸付ノ總額ヲ以テスルニアラサレハ該年度中商業及工業ニ對スル金融上ノ救濟手段ニ關シテ正確ナル觀念ヲ與フルコト能ハサレハナリ是ヲ以テ斯ノ如キ總括的觀察ハ特ニ重要ナリ況ンヤ千九百四年ノ私立商業銀行ノ景況ハ前二箇年ニ比スレハ著シク異ナルモノアリシニ於テヲヤ即チ私立商業銀行ハ毫モ資金ノ缺乏ヲ感セサルノミナラス其資金ハ前二箇年ニ比シ著シク高度ノ平準ヲ示シ商工業資金ノ需要ハ私立銀行ノ割引及貸出ニ依テ充分ナル満足ヲ得タリシナリト

千九百四年帝國銀行並ニ商業銀行ノ貸方ニ於ケル動搖ハ前二箇年ト比較スレハ左ノ如シ

二七二

割引及擔保貸付業ニ關スル拂出

(百萬留)

	帝國銀行		商業銀行	
	一月一日	八月一日	一月一日	八月一日
千九百四年	四七三	三八一	四三四	一〇一一
千九百三年	四七九	三八一	四三四	八八八
千九百二年	五一一	三七六	四三三	七七五

是ニ由テ之ヲ觀レハ千九百四年秋ニ於ケル私立銀行ノ貸出ハ前二箇年ニ比シ著シキ多額ニ達シタリ千九百五年前半期ニ於テ如何ナル程度マテ露帝國銀行ノ貸出カ私立銀行ノ貸方營業ニ依リテ縮少セラレタルカハ私立銀行ノ貸方ニ關スル材料未タ提出セラレサルヲ以テ之ヲ知ルニ由ナシ

露帝國銀行ハ從來千九百四年二月五歩五厘乃至六歩五厘ニ増加シタル公定利率ヲ維持シタリ之ニ反シ聖彼得斯堡市中ノ割引ハ六歩乃至七歩五厘ヨリ千九百五年三月終頃五歩乃至六歩ニ減少シタリ

戰爭ハ本來ノ資本市場即チ利子ノ確定シタル有價證券及配當證券ノ市場ニ貨幣

二七三

第三編

第三編

市場ヨリモ一層周密ナル影響ヲ及ホシタリ戰爭ノ露國公債ニ及ホシタル影響ハ既ニ之ヲ概説シタリ露國公債ノ國際的市場ニ於ケル相場ノ變動ニ就キ與ヘタル說明ハ露國市場自身ニ於ケル相場ニ就テモ亦適當セリ戰爭ノ私的有價證券就中商工業及交通業ノ株式及債券ニ及ホス影響ハ大體如何ナル程度マテ各種ノ産業カ戰爭及ヒ後チニ内部ノ騷擾ノ爲メ損害ヲ被リタルカニ關係セリ開戦後間モナク殆ント總テ有價證券ノ相場ハ恐慌的ニ暴落シタリ然レトモ人心沈靜ニ歸スルト共ニ有價證券ノ相場ハ其種類ニ依テ頗ル異リ到底總括的概觀ヲ與フルコト能ハサルナリ

二七四

一般ノ經濟情況

吾人ハ露國ノ貨幣及資本市場ノ情況ヨリ翻テ各産業ノ情況ヲ觀察スルニ當リ先ツ農業ニ著目セサル可カラス戰爭ノ不利益ナル影響ニ對シテ露國ノ國民經濟ニ取テハ農民ノ多數ヲ占ムル結果千九百四年ノ豐作及穀物ノ世界市場ニ於ケル高相場ハ特ニ重大ナル便益ナリシナリ千九百五年大藏大臣ノ豫算報告ニ依レハ七十二縣及其他ノ地方ニ於ケル穀物ノ總收穫高ハ次ノ如シ

(百萬ブード)

一八九九年乃至一九〇三年平均

三・六四六

一九〇二年

四・一〇八

一九〇三年

三・九二三

一九〇四年

四・三七一

第三編

千九百四年ニ於ケル穀物輸出ノ價格ハ四億九千五百三十萬留ニシテ前二箇年ハ四億七千七百六十萬留及四億三千二百十萬留ナリシナリ斯ノ如キ増加ニ拘ハラズ輸出數量ハ千九百三年ニ比シ稍少カリキ(六億五千四百萬ブードニ對シ六億四千八百萬ブード)是ヲ以テ收穫ノ増加シタル部分ハ軍需及内國人民ノ爲ニ殘留シタリシナリ豐作ノ利益カ露國ノ生産者及露國ノ國民經濟ニ歸シタル程度ハ僅少ナリキ即チ毎年露國ニ於テ收穫期ニ起ル鐵道貨物ノ停滯ハ稀ナル豐作ト軍事輸送ノ爲メ貨車ノ缺乏ヲ告ケタルトニ因リテ非常ナル程度ニ達シタリ大藏大臣自ラ停滯シタル穀物ノ分量ヲ積算シテ車十萬輛以上ナリト云ヘリ是レ此點ニ就キ從來最モ不都合ナリシ千九百二年ノ停滯ニ二倍シタリシモノナリ

工業ノ狀態ハ國家ノ需要ノ爲メニ働カサルモノナル限リハ毫モ顯著ナル輸出工業ナキ露國ニ於テハ全ク内國市場ノ購買力如何ニ關係スルモノナリ而シテ豐作

二七五

編 三 第

ニ拘ハラス戰爭殊ニ後備兵召集ノ結果購買力制限セラレ且ツ人民中購買力ヲ有
スル部分モ非常ナル形勢ニ鑑ミテ躊躇ノ態度ヲ取り購買ヲ制限セントシタルハ
毫モ疑ヲ容レサル所ナリ形勢斯ノ如クナルヲ以テ「ワイヒゼル」流域ノ工業就中「ロ
ツヅ」ノ織物及紡績業「ワルシヤウ」ノ化粧品工業ハ損害ヲ被リタリ其他建築業及建
築材料(煉瓦セメント)製造業ハ戰爭ノ結果公私建築業ノ制限ニ依テ不利益ナル影
響ヲ受ケタリ又食料品(砂糖、麥酒、酒母)生産ノ工業モ衰頽シタルハ事實ナリ但シ他
ノ一方ニ於テ鐵及石炭ノ採掘及大仕掛ニ材木及鐵類ヲ以テ軍需品(車、武器等)ノ製
造ニ從事スル工業竝ニ軍用製革業ノ如キハ戰爭ノ結果甚カラス其生産額ヲ膨脹
シタリ又運送業モ戰爭ニ依リ殆ント悉ク満足ナル成績ヲ收メタリ
露國大藏大臣ノ豫算報告書ハ戰爭ノ初年ニ於ケル露國國民經濟ノ一般ノ形勢良
好ナル徵候トシテ貯蓄高ノ増加及外國貿易ノ發達ヲ摘示シタリ貯蓄高ハ千九百
四年中ニ在テモ徐々トシテ増加ヲ繼續シ又千九百四年ノ外國貿易ハ前年ニ比シ
輸出ニ於テ若干ノ増加(九億四千九百七十萬留ヨリ九億五千五百萬留ニ)及ヒ輸入
ニ於テ僅少ナル減少(六億二百七十萬留ヨリ五億八千三百六十萬留ニ)ヲ示シタリ
輸入ノ減少ハ專ラ製造品及工業ノ原料ニ關スルモノニシテ前者ノ輸入額ハ一億

編 三 第

七千八十萬留ヨリ一億五千六百七十萬留ニ後者ノ輸入額ハ三億四千二百八十萬
留ヨリ三億三千二百八十萬留ニ減少シタリ千九百四年ト異リ千九百五年最初ノ
七箇月間ニ於ケル外國貿易ノ結果ハ前年ノ同時期ニ比シ其差異頗ル著シキモノ
アリ今左ニ之ヲ示スヘシ

	輸入	輸出	輸出超過
一九〇二年	三〇二	四二二	一一〇
一九〇三年	三三八	五一一	一七三
一九〇四年	三五〇	四六六	一一六
一九〇五年	二八六	五六四	二七八

一月乃至七月

(百萬留)

露國輸出ノ形勢斯ノ如ク有利ナルニ拘ハラス輸入ノ著シキ減少ハ露國人民ノ購
買力衰弱シタル徵候ナリ
概シテ戰爭自身ハ資本的事業及生産力ニ何等顯著ナル破壞的結果ヲ生セサリシ
ナリ之ニ反シテ内部騷擾ノ結果ハ戰爭ノ結果ヨリ更ニ一層危殆ナルモノアリシ
ナリ同盟罷工及價值ノ創造力タル各種資本ノ破壞ニ依テ獨リ生産事業ノ現下ノ

利純ヲ削減シタルノミナラス邦ノ生産力ハ久シク傷害ヲ免カレサルナリ夫ノ高加索ニ於ケル騷擾カ露國ノ石油業及總テ之ニ關聯セル事業ニ及セル慘憺タル結果ヲ一考セハ思ヒ半バニ過クルモノアラン之ニ加フルニ該年度ノ收穫ニ關シ一部分頗ル悲觀的ナル報道ノ來ルアリ是等ノ事情ハ悉ク露國ノ國民經濟ヲシテ軍費ニ基因スル新ナル財政上ノ負擔ヲ容易ナラシメサルモノナラサルハナシ露國財政ノ將來ノ運命ハ主トシテ前途有望ナル經濟事業ノ發展及ヒ確ニ宏大ナル天然の富源ノ進歩的開發ヲ容易ナラシムル基礎ノ上ニ國內ノ平和ヲ回復スルコトヲ得ルヤ否ヤ及殊ニ農業上ノ範圍ニ於テ必要ナル經濟的改革ヲ斷行シ且ツ露國カ悠久ナル歲月ノ間其外交政策ヲ以テ新ナル重大ノ犧牲ヲ節約スルコトヲ得ルヤ否ヤニ依テ決スヘキナリ

何人ト雖モ總テ是等ノ主タル問題及ヒ時勢ノ推移ニ依リ豫期スヘカラサル重大關係ヲ惹起スルコトアルヘキ總テ多數ノ附屬問題ヲ今日既ニ解決シ得ヘシト信スルモノハ宜シク占卜者豫言者ノ伍伴ニスルヘシ未來ノ統計學及歷史學ナルモノハ未タ實ヲ創設セラレタルコトナキ學科ナリ

第二章 日本

第一節 戰爭ノ公的信用ニ及ホス反動作用

戰爭ニ由レル國家財政ノ負擔

日本ハ既ニ開戰前最近代ニ於テ其大規模ナル軍備擴張案ヲ實行スルカ爲メ其財政力ヲ伸張シタルコト甚クシク日本ノ國民經濟及財政ノ識者ハ如何ニシテ日本カ對露戰爭ノ莫大ナル財政上ノ要求ニ應スルコトヲ得ルヤニ就キ深厚ナル疑惑ヲ抱懷セサルヲ得サリシナリ千八百九十六年以來ノ増稅ハ更ニ幾分收入ヲ増加スルニ足ルヘキ再度ノ増稅ヲ許サ、ルニ似タリ而シテ國債ハ九十年代ノ中葉以來漸次増加シ千九百二年乃至三年ノ豫算年度ニ於テ國債費ハ——國家歲入ノ著シキ増加アリタルニ拘ハラヌ——經常歲入ノ二割ヲ吸收シ且ツ開戰前數年間ニ於テハ十年前ニ比シ公債ノ相場一割乃至一割二步ノ下落ヲ見ルニ至リタリ

實際日本ハ吾人ノ實驗シタル如ク戰爭ノ前半期ニ於テハ國際的貨幣市場ニ於テ非常ニ不利益ナル條件而モ甚ク多額ナラサル金額ヲ以テシテ軍費支辨ニ必要ナル公債ヲ募集スルコトヲ得タリシナリ然レトモ日本ノ連戰連勝ハ結局——略千九

第三編

百五年ノ始以來——日本ヲシテ財政的戰鬪ヲモ容易ナラシメタリ露國ニテハ千九百五年海陸戰ノ失敗ト内亂トハ國家信用ヲ危殆ナラシメ軍費ノ調達ヲ困難ナラシメタルニ反シ日本ニテハ陸海軍ノ赫々タル成功ハ非常ナル増稅及再三ノ内債募集ニ拘ハラズ國民ノ奉公心ヲ旺盛ナラシメタルノミナラス泰西ノ貨幣市場ニ於テモ日本ノ財政的運用ヲシテ圓滑ナラシメ之カ爲メ日本ハ千九百五年ニ於テ開戰初年ニ於ケルヨリモ一層有利ナル條件ヲ以テ資金ノ需要ヲ満足スルコトヲ得タリシナリ武裝的日本國民カ發揮シタル恰悞思慮元氣、彈力性、訓練及ヒ規律ハ日本ノ經濟上及ヒ財政上ノ前途ニ對スル信用ヲ未曾有ノ程度ニマテ喚起シ増進シ之カ爲メ今尙ホ發達ノ端緒ニ在ル日本ノ財政力ヲシテ戰爭ノ結果タル多大ノ障礙ヲ排除スルコトヲ得セシメタリ

然レトモ日本カ軍事上ノ成功ニ依リ戰爭ニ必要ナル資金ヲ調達スルコトヲ得タリトノ事實ハ未タ以テ戰爭カ日本ノ國家財政ニ加ヘタル重大ノ負擔ヲ度外視セシムルニ足ラサルナリ日本ハ千九百五年九月下旬マテニ約十四億六千五百萬圓ノ現金ヲ戰爭ノ爲メ準備シ其内千九百五年九月終ニハ約十一億六千萬圓ヲ支出シタリ日本ハ露國ト反對ニ成ル可ク軍費ノ大部分ヲ増稅ニ依テ填補センコトヲ

第三編

努メタリ然レトモ吾人ハ納稅力ノ勇敢ナル伸張ニ拘ハラズ此財源ヲ以テシテハ莫大ナル軍費ニ對シテ比較的僅少ナル額(千九百五年九月下旬マテニ約一億三千七百萬圓)ヲ收納シタルニ止マルコトヲ實見シタリ又日本ニ於テモ軍費調達ノ重點ハ信用ノ運用ニ在リキ日本ノ募集シタル軍事公債ノ額面ハ十二億八千萬圓ニシテ其純賣得金ハ十一億三千四百五十萬圓ナリ之ニ加フルニ日本銀行ヨリ借入レタル三千百萬圓アリ消耗セラレ破壊セラレタル軍需品ノ價格ハ縱令遙ニ露國側ノ金額ニ及ハサルモ之レ現金支出中ニ加算スヘキモノナリ縱令露國ハ其支出シタル金額及破壊セラレ若ハ喪失シタル有價物ニ對シ何等ノ補償物ヲ得サリシト雖モ之ニ反シ日本ハ戰爭ノ損益勘定ニ於テ莫大ナル支出ト共ニ又著シキ收入アリタルモノナリ戰爭ノ結果日本人ニ讓與セラレタル領土ノ獲得及ヒ朝鮮滿洲ニ於ケル霸權ノ外日本ニ讓與セラレタル滿洲鐵道ノ部分及日本人ノ掌裡ニ歸シタル各種ノ露國財産ノ價值ハ恐ラク數億圓ニ評價スヘキモノナラン日本ハ其他双方ノ捕虜收容費ノ精算ニ於テ甚ナカラサル現金ノ收入ヲ豫期スヘキナリ(千九百五年八月三十日ノ「フランクフルテル」ツァイツング)ハ日本ニ讓與セラレタル滿洲鐵道及旅順口其他ニテ日本人ノ差押ヘタル露國財産ノ價值ハ約八億馬克ニ

第三編

シテ日本ノ捕虜收容費トシテ受取ルヘキ補償金ハ二億馬克ト計算シタリ然レトモ斯ノ如キ精算ヲ行フモ日本ノ國家財政ハ巨額ナル負擔ヲ爲シ國債ハ戰爭ニ依テ三倍以上増加シ且ツ國債ノ純然タル利子ハ開戦前ノ會計年度ノ經常歳入ノ約四割ニ相當スル事實ヲ現ハシタリ吾人ハ以下日本ハ如何ニシテ將來此負擔ニ堪ヘ得ヘキカノ問題ニ重要關係ヲ有スル事實ヲ講究スルニ先チ日本ノ國家的信用ハ戰爭中如何ナル形勢ヲ示シタルカラ審査セント欲ス

日本公債ノ相場

年	月	日	最高	最低	平均	最高	最低	平均
一九〇三	一三	一五			一〇〇・五〇			八四・〇〇
同	同	二三			九九・〇〇			八〇・二五
同	同	三一			九八・〇〇			七七・五〇

歩利付公債ノ相場
一八八九年露國四
一八九九年日本四

第三編

年	月	日	最高	最低	平均	最高	最低	平均
一九〇四	一	一	九八・五〇	九三・七五	九七・二三	七八・七五	七三・〇〇	七六・〇五
同	二	一	九八・〇〇	八八・七五	九二・二五	七六・〇〇	六五・七五	六九・二一
同	三	一	九五・二五	九二・〇〇	九三・六〇	六五・七五	六二・〇〇	六四・五八
同	四	一	九五・〇〇	九一・七五	九二・〇九	六六・五〇	六二・三七	六五・〇三
同	五	一	九〇・七五	八八・二五	八九・三三	七四・〇〇	六七・七五	七〇・六六
同	六	一	九二・五〇	八九・〇〇	九〇・八九	七七・三七	七四・四五	七六・〇〇
同	七	一	九二・七五	九一・五〇	九二・〇三	七六・〇〇	七二・八七	七三・七二
同	八	一	九二・〇〇	九一・二五	九一・四一	七五・二五	七四・二五	七四・七〇
同	九	一	九二・七五	九一・五〇	九二・二〇	七五・六二	七〇・五〇	七三・一〇
同	一〇	一	九三・五〇	九一・七五	九二・五五	七五・五〇	七〇・七五	七二・九一
同	一一	一	九三・二五	九二・五〇	九二・九五	七五・〇〇	七三・三七	七四・二八
同	一二	一	九三・二五	九二・二五	九二・六七	七五・七五	七四・七五	七五・八四
同	平均	一	九八・五〇	八八・二五	九二・五三	七八・三七	六二・〇〇	七二・三三
一九〇五	一	一	九一・五〇	八七・五〇	八九・八四	八〇・二二	七六・五〇	七七・九二
同	二	一	九一・二五	八六・二五	九〇・四二	八六・七五	七九・七五	八二・五一

編 三 第

同 同 同 同 同 同 同

一〇 九 八 七 六 五 四 三

九〇〇〇	八九〇〇	八九〇〇	九一〇〇	八九〇〇	九四七五	九五五〇	九四五〇
八七〇〇	八七〇〇	八七五〇	八七五〇	八六二五	八八〇〇	九四二五	八九〇〇
八七三七	八七八二	八八二二	八九二二	八七三一	八九二二	九四八〇	九二八八
八七六二	八六〇〇	八七八七	八九七五	八九〇〇	八九七五	九一七五	九一八七
八五二五	八二七五	八二二七	八七二五	八七二五	八八三六	九〇二五	九〇五〇
八六四五	八四三三	八三三五	八八八七	八七九九	八七五〇	九一〇四	九一〇六

以上ノ表ハ露國公債相場ト日本公債相場トノ間ニ如何ナル懸隔ノ存スルカラ一
目瞭然タラシメタルモノナリ

日本ノ軍事上及財政上ノ實力ニ對スル西歐金融市場ノ信用ノ薄弱ハ開戦前一回
日本公債ノ著シキ低相場ニ現ハレタリ——日本ノ四歩利付公債ハ千九百三年間ニ
於テ略々八五ノ相場ヲ有シタルニ同一利率ノ露國公債ハ概テ額面ノ相場ヲ保チタ
リ——其他單ニ開戦ノ危險カ露國公債ノ相場ヲ壓倒シタルヨリモ更ニ一層甚クシ
ク日本公債ノ相場ヲ壓迫シタリ即チ日本ノ四歩利付公債ハ既ニ一月七日ニ七三

編 三 第

ニ下落シ一月十九日ニ至テ再ヒ七七四分ノ一ニ回復シタレトモ千九百三年十二
月十五日乃至千九百四年一月三十一日間ニ於テ八四ヨリ七四半ニ下落シタリ戰
争ノ破綻ハ日本公債ノ相場ニ——露國公債ノ相場ノ如クニ——大打撃ヲ與ヘタリ二
月九日ニ至リ日本公債ハ六六ニ下落シタリ是ヲ以テ日本公債ハ千九百三年十二
月十五日ニ比シ其相場ノ五分ノ一下落シ露國公債ハ旅順口ニ於ケル第一回衝突
ノ不幸ナル經過ヲ取リタルニ拘ハラズ同一期日ニ於テ柏林市場ニテハ僅ニ十二
分ノ一倫敦市場ニテハ約八分ノ一ヲ失ヒタルニ過キサレナリ最初ノ恐慌ニ打勝
チタル後ハ日露トモ少シク相場ヲ回復シタリ此回復ハ露國ニ在テハ四月中マテ
持續シタルモ日本ノ相場ハ既ニ二月中旬以來漸次再ヒ動搖シ始メ三月三十一日
ニハ僅ニ六二ノ相場ヲ有シタリ之ニ次テ相場ハ一轉シタリ即チ日本ノ武器ノ成
功ハ貨幣市場ニ於テ日本ニ有利ナル趨勢ヲ示スニ至リ隨テ五月倫敦ニ於ケル日
本公債募集ハ曩ニ説明シタル如キ光輝アル狀況ヲ呈シ且ツ著シキ相場ノ改良五
月下旬七四ヲ促シタリ之ニ反シ同一時期ニ於テ露國ノ公債募集ハ固ヨリ三倍モ
多額ナリシトハ云ヘ軍事動作ノ經過ト相俟テ一時甚クシク露國有價證券ノ相
場ヲ下落セシメタリ日本公債ハ爾後ノ月ニ於テ改良相場ヲ千九百四年六月中旬

編 三 第

七七八分ノ五マテ保チタルモ此平準ハ引續キ維持スルコト能ハサリシナリ遼陽及沙河ノ大勝利モ日本公債相場ニハ格別ノ影響ヲ及ホサ、リキ加之此二回ノ戰爭間ニ於テ日本四歩利付公債ノ相場ハ一千九百四年九月二日再ヒ七五八分ノ五マテ向上シタリシニ拘ハラヌ——一時七〇半マテ下落シタリ之ニ反シテ同一利率ノ露國公債ハ同一時期ニ於テ軍事上ノ失敗ニ拘ハラヌ九一半以下ニ下落シタルコトアラサルナリ當時日本公債ハ千九百三年中頃ノ相場ニ比シ七分ノ一以上ヲ減シ露國公債ハ僅ニ十分ノ一以上ヲ減シタルニ過キササルナリ

夫レ斯ノ如ク戰爭前半期ニ於ケル兩交戰國ノ國家信用ノ情況カ戰場ニ於ケル軍事上ノ經過ニ背反セル趨勢ヲ呈シタル所以ノモノハ一部分ハ日本陸海軍ノ從來ノ勝利ニ拘ハラヌ結局露國カ軍事上優勝ノ位置ヲ占ムルモノナリトノ確信カ博ク普及シタルニアリシナルヘシ然レトモ兎ニ角其主タル原因ハ露國ノ財政上ノ實力ニ關スル信用カ日本ノ財政力ニ對スル信用ヨリ一層深厚ナリシニ在リ露國財政ニ對スル各種ノ激烈ナル攻撃ニ拘ハラヌ世人ハ露國カ整頓シタル財政事情ヲ以テ戰爭ニ投シ千九百四年ノ後四半期ニ於テモ尙ホ多額ナル財政上ノ準備ヲ有シタリシニ反シ日本ハ既ニ戰爭準備ノ時代ニ於テ其財政力ヲ甚タシク伸張セ

編 三 第

サル可カラサリシコトヲ知リシナリ世人ハ露國カ最モ不利ナル場合ニ於テモ之カ爲メ財政上破滅スルコト無クシテ不幸ナル戰爭ニ堪フルコトヲ得ヘキモ日本ニ在テハ戰場ノ不幸ナル決著ハ財政上ノ滅亡ト同視スヘキモノナルコトヲ豫期シタリシナリ

旅順陥落ノ切迫ヲ確實ナリト認メシムヘキ報道ハ始メテ千九百四年十二月ニ至テ日本公債ノ永續的騰貴ヲ來タサシメタリ蓋シ世人ハ旅順要塞ノ陥落ニ依テ戰爭ノ終結ヲ豫期シタレハナリ然レトモ相場ノ改良ハ旅順要塞ノ陥落後大ナル進歩ヲ爲シタルコト無ク寧ろ露都ニ於ケル勞働者ノ紛擾及「セルジュース」太公ノ殺害ハ始メテ相場ノ向上ヲ促シタリ日本公債ノ相場ハ最初ノ事變後八〇及ヒ少シク八〇以上ニ騰貴シ次テ八六四分ノ三ニ暴騰シタリ是ニ由テ公債ノ相場ハ開戦ノ半年前即チ千九百三年ノ中頃ノ相場以上ノ程度ニ騰貴シタリ去レト奉天戰ハ更ニ僅少ノ騰貴ヲ來タサシメタルノミニシテ千九百五年三月十一日八七八分ノ五ニ達セシメタルニ過キス日露兩國四歩利付公債ノ倫敦相場ノ差違ハ——千九百四年十二月ノ平均ニテハ約一割四歩ニ達シタルモノナルカ——爾來僅ニ四分ノ一「プロセント」ニ過キササルニ至リタリ然レトモ日本公債ハ三月中旬ニ達シタル相場

ヲ持續スルコト能ハス奉天ニ於ケル露國ノ失敗モ亦激滅的ノモノニアラザリキ日本勝利ノ效力ハ過重視セラレ且ツ露國內部ノ事情モ世人ノ往々期待シタル如ク絶對的講和ノ必要ヲ生シタルニアラザリシナリ之ニ加フルニ波羅的艦隊及日本艦隊ノ衝突切迫シテ勝敗ノ數未タ俄ニ定ラサルモノアリ形勢斯ノ如クナルヲ以テ日本公債ノ相場ハ千九百五年三月十一日ノ八七八分ノ五ヨリ漸次再ヒ八三及ヒ五月ニハ八三以下ニ下落スルニ至リタリ對馬海戰ノ報道ハ日本ノ海上權ノ終局的確立ト講和ノ希望ノ確實ト共ニ六月ニ於テ八九七五マテノ騰貴ヲ來タサシメタリ六月ノ初旬初メテ日本ノ公債ハ露國公債ノ相場ニ達シ加之其後ノ週間ニ於テハ之ニ超過シタルコトアリ縱令日本ノ公債ハ其最高ノ相場ヲ持續スルコト能ハスシテ時々再ヒ八七二五マテ下落シタリト雖モ露國黑海艦隊暴動ノ影響ヲ受ケ日露兩國公債相場ノ差異ハ日本公債ノ優越ニ歸シ一時約一步五厘ニ達シタリ然レトモ八月中旬以來日本公債ノ相場ハ——比較的變動少ナカリシモ——講和ノ見込ノ爲メ騰貴シタル露國公債ノ相場ヨリ再ヒ凌駕セラレ且ツ八月三十日「ポーツマウス」ニテ講和談判委員ハ日本カ軍費賠償ヲ受クルコト無クシテ講和ニ決シタルコト發表セラレ、ニ迄シテ日本公債ハ再ヒ八九七五ニ下リ露國公債ハ之

第三編

ニ反シ九四七五ニ騰貴スルニ至リタリ

戰爭中ニ於ケル日本ノ貨幣相場

日本ノ貨幣ハ上述シタル如ク日清戰役後初メテ金貨本位ノ基礎ノ上ニ確立セラレタルモノナルカ左表ノ如ク戰爭ノ影響ヲ受ケタルモ著シキ鞏固ヲ示シタリ

橫濱ニ於ケル倫敦宛爲替相場(四箇月拂)ノ一週間平均

(二圓ニ付志片)

年 月 日	同	同	同	同	同	同	同	同
一九〇三、一二、二	同	同	同	同	同	同	同	同
一九〇三、一二、九	同	同	同	同	同	同	同	同
一九〇三、一二、一六	同	同	同	同	同	同	同	同
一九〇三、一二、二三	同	同	同	同	同	同	同	同
一九〇三、一二、三〇	同	同	同	同	同	同	同	同
一九〇四、一、六	同	同	同	同	同	同	同	同
一九〇四、一、一三	同	同	同	同	同	同	同	同
一九〇四、一、二〇	同	同	同	同	同	同	同	同
一九〇四、一、二七	同	同	同	同	同	同	同	同

第三編

編 三 第

同	二、三	二%
同	二、一〇乃至四、六	二%
同	四、二三	二%
同	四、二〇	二%
同	四、二七	二%
同	五、四	二%
同	一九〇四、五、一一乃至一九〇五、三、一五	二%
同	一九〇五、三、二二及其以後	二%

以上ノ表ニ由テ之ヲ觀レハ横濱ニ於ケル倫敦爲替相場ハ千九百三年十二月初旬ノ二志〇十六分ノ十一片ヨリ開戦後二箇月間ハ二志〇十六分ノ一片ノ比較的安相場ニ下落シ以テ四月以來少ク回復シ千九百四年五月中旬ヨリ千九百五年三月下旬マテ二志〇四分ノ一片ヲ維持シタリ固ヨリ日本ノ貨幣相場カ此割合ヲ保ツコトヲ得タリシ所以ノモノハ一部分ハ政府ノ外國支拂一部分ハ非常ニ不利ナル外國貿易ニ基因シタル巨額ノ金貨流出ノ犠牲ヲ供シタルカ爲メナリ千九百五年ニ於テ外國公債ノ募集ハ金ノ輸出入及ヒ貨幣相場ニ幾分ノ影響ヲ及ホシタリ日

編 三 第

本ノ爲替相場ハ漸次再ヒ少シク騰貴シ千九百五年三月下旬以來二志十六分ノ五片ヲ保チタリ然レトモ日本銀行ノ金準備ハ前述シタル如ク頗ル僅少ニシテ日本貨幣本位ノ維持ハ眞ニ危殆ノ狀況ニ陥リタルノ觀アリ日本銀行カ國內ノ取引ニ於テ銀行券兌換ノ爲メ金貨ヲ交付スルニ付キ何等カノ困難ニ遭遇シタルヤ否ヤハ明ナラサルモ兎ニ角外國爲替相場ニ於テ日本貨幣ノ下落セサリシ事實及ヒ巨額ナル金貨ノ流出ハ共ニ日本銀行カ一時準備金ノ甚シク縮少シタルニ拘ハラズ外國ニ輸送スルニ金貨ヲ故障ナク供給シタルコトヲ證明スルモノナリ

講和ノ際ニ於ケル日本ノ國家信用

日本ノ貨幣相場及ヒ公債相場ハ何レモ講和ノ時期ト開戦前ノ時期トヲ比較シテ戦争カ日本ノ公的信用ニ不利ナル影響ヲ及ホサ、リシコトヲ知ルニ足レリ日本ノ貨幣相場ハ大體鞏固ナリシナリ日本ノ公債ハ開戦ノ第一週間ニ於テ相場ノ下落ヲ來タシタル後今日ニ在テハ開戦前及ヒ開戦ノ切迫シタル當時ニ比シ六歩乃至七步騰貴シ而モ日本國家ノ負債ヲ三倍以上ナラシメタル戦争後及ヒ日本人カ其軍費ニ對シ何等直接ノ賠償金ヲ收メサリシ講和後ニ於テ尙ホ且ツ爾リシナリ

日本ハ軍事公債ノ利子ノミニテ年々開戦前ノ年度ニ於ケル經常歳入ノ四分ノ一ヲ支出セサル可カラサルナリ日本ハ講和ト共ニ負擔スヘキ軍事の經濟的緊急任務ニ就キ更ニ公債ヲ募集スルニアラサレハ到底之ニ堪フ可カラス且ツ既ニ日本ハ開戦前ニ於テ其軍備擴張ヲ實行シ其迅速ニ増加セル經常歳出ヲ支辨スルカ爲メ如何ニ其財政力ヲ伸長セサル可カラサリシカラ考量セハ日本公債ノ相場及ヒ其ノ國家信用ノ程度ヲ高メタル所以ノモノハ決シテ日本ノ事實的財政情況ノ佳良ナルニアラスシテ寧ロ戰爭ガ日本ノ國家ニ加ヘタル莫大ナル財政上ノ負擔ニ拘ハラス日本ノ公債カ泰西貨幣市場ニ於テ一層高價ノ評定ヲ得タルニ在リト斷言セサル可カラス斯ク云フモ日本公債ノ現在ノ評價カ正當ナリヤ否ヤノ斷案ヲ下シタルニアラサルナリ又財政上ノ事項ニ關シテモ「將來」ハ「現在」ニ先ンシ「動力」ハ「目前」ノ靜狀ニ先ンスルモノナリ泰西人民ハ日露戰爭中最初ハ躊躇シ後ニハ急速ナル步調ヲ以テ最極東ノ斯民カ發揮シタル巨大ナル活動力ヲ認識スルニ至リタリ斯ノ如キ日本國民ノ實力ノ新ナル評價ハ旭日國ノ財政上ノ堪能ニマテ及ヒタルモノナリ泰西ノ株式取引所カ今日三倍以上ノ負擔ニ拘ハラス日本ノ國家信用ヲ開戦以前ニ比シ更ニ一層高ク評價スルニ至リタル所以ノモノハ蓋シ之カ爲メナリ

日本カ如何ニシテ戰爭ニ依リ斯ノ如ク甚シク増加シタル財政上ノ負擔ニ堪フルコトヲ得ルヤノ問題ハ第一次ニ邦ノ經濟上ノ發達如何ニ依テ之ヲ決セサル可カラス是ヲ以テ—露國ニ於ケルト同シク—日本ニ就テモ戰爭カ邦ノ經濟上ノ情況及經濟上ノ堪能ニ及ホシタル影響ヲ確認スルコト頗ル重要ナリ吾人ハ先ツ經濟生活中戰爭ニ依テ最モ妨害ヲ被リ易キ範圍即チ私的信用ノ範圍ニ就キ論究スル所アラントス

第二節 戰爭ノ私的信用及ヒ一般ノ經濟情況ニ及ホシタル反動作用

戰爭ノ私的信用ニ及ホシタル影響

戰爭ノ貨幣市場ニ及ホシタル影響ニ就キ露國ヨリスラモ報道徹々タルニ過キサリシカ日本ニ至テハ更ニ一層甚タシカリシナリ日本ノ貨幣市場ニ於ケル景況ヲ判斷スルニ當テハ殆ント専ラ日本銀行ノ報告ニ依頼スルノ外無シ左表ハ日本銀行ノ内國手形及擔保貸付ノ異動ヲ明カニシタルモノナリ(百萬圓)

年月日

内國手形

擔保貸付

合

計

編 三 第

一九〇四、一、九	一九・八	三三・九	二九四
同 三、二六	一一・九	二七・〇	五三七
同 七、二	二六・七	四〇・三	三八・九
同 一一、三一	四八・〇	四五・一	六七・〇
一九〇五、一、七	三一・六	五九・一	九三・一
同 四、一	三四・六	五三・二	九〇・七
同 七、一	五九・七	二二〇・二	八七・八
同 九、二三	三六・九	二七七・六	二七九・九
			三二四・五

以上ノ數字ニ由テ之ヲ觀レハ日本銀行ノ貸出ハ戰爭最初ノ二箇月間ニ於テ著シク縮少シタリ次テ四月以來初テ貸出ハ増加ヲ來タシ多少異動アリタルモ年末マテ繼續シタリ千九百四年五月ニ於テ尙ホ日本銀行ノ内國手形及擔保貸付ハ前年度ニ比シ著シク少額ナリシナリ即チ前三箇年ノ五月七日ニハ七千六百二十萬圓、六千四百十萬圓、一億三百十萬圓ナリシニ千九百四年ノ同日ニハ四千五百七十萬圓ニ過キサリシナリ之ニ反シ千九百五年ノ始ニ於テ日本銀行ノ貸出ハ千九百四年ノ始ニ比シ六割八步増加シ千九百五年第一回半期ノ終ニ於テハ前年ノ同期ニ

編 三 第

比シ二倍以上多額ナリシナリ六月以來ハ到底比較ヲ爲スコト能ハス蓋シ六月以來ハ前述シタル如キ大藏省ノ運用ハ一舉シテ擔保貸付ヲ非常ニ膨脹セシメタレハナリ

日本銀行ノ手形及擔保貸付ノ異動ニ徴スレハ戰爭最初ノ一二箇月間ニ於テ幾分カ信用取引ノ緊縮ヲ生シタルコト明カナリ日本銀行ノ手形及擔保貸付ノ減少ハ日本公債相場ノ激烈ナル下落及外國ニ對スル多額ノ金貨流出ノ時期ト一致セリ如何ナル程度マテ日本銀行貸出ノ制限カ實業及ヒ信用取引ノ停滯ニ基因スルモノナリヤ如何ナル程度マテ銀行自ラ斯ノ如キ縮少ヲ促シタリヤハ現在ノ資料ニ由リ之ヲ推斷スルコトヲ得ス兎ニ角銀行ハ著シキ金貨流出ニ拘ハラヌ其公定割引ノ率ヲ比較的後期ニ高メタリ日本銀行ハ千九百二年三月中旬乃至千九百三年三月中旬マテニ其ノ利率ヲ八步四分ノ三ヨリ漸次五步八厘四毛ニ減シ此利率ヲ開戦後マテ繼續シ千九百四年六月下旬ニ至テ六步五厘ニ増加シタリ此割引ノ率ヲ増加シタル所以ノモノハ引續キ金貨ノ流出アリタルト國內ノ金融ノ需要増加シタルトニ在リ是レ商工業ノ充分ノ復活ヲ推斷セシムルニ足レリ千九百五年六月ノ割引率ノ増加即チ日本銀行利率ノ八步三毛ニ増加シタルコトモ亦同一ノ原

一般ノ經濟情況

日本ノ一般ノ經濟情況ハ私的貨幣及信用取引ト同様ニ戰爭ノ爲メ永續的損害ヲ被ラサリキ專口之ト反對ニ戰爭中ト雖モ或ル範圍ニ於テハ經濟事業ノ擴張及生産力ノ強壯ヲ來シタルカ如シ日本大藏省年鑑ハ「我邦ハ通常戰時發生スル有害ノ結果ヲ感シタルコト甚ナク專口反對ニ前年ノ經濟上ノ情況ハ何レノ關係ニ於テモ佳良ナリシコト」ヲ満足ヲ以テ明言スルコトヲ得ヘシト信シタリ其例證トシテ前年ノ外國貿易ノ類例ナキ隆盛及ヒ銀行預金郵便貯金ノ増加ヲ舉ケタリ年鑑ハ此等ノ事實ニ基キ重大ナル軍事負擔モ國民ノ經濟上ノ發達ヲ毫モ阻害セサリシコトヲ主張スル正當ノ理由アリト信シタリ

以上ノ辯明中ニハ恐ラク連戰連勝ノ樂天觀カ稍強ク反響シタリシカ如シ就中戰爭初年度ノ外國貿易ノ例證ハ之ヲ以テ何レノ關係ニ就テモ立證ノ效力アリト認ムルコト能ハス然レトモ前年ノ日本ノ經濟情況ハ今日マテニ知リ涉レル事實ニ徴シテ戰爭ノ妨害ヲ被リタルコト僅少ナリシヲ知ルヘシ其斯ノ如クナリシ所以ノモノハ戰爭カ最初ヨリ國外ノ他國領土ニ於テ行ハレ其他日本カ速ニ海上權ヲ

第三編

第三編

第三編

掌握シ且ツ千九百四年ハ非常ナル豐作ナリシコトニ在リ

第一點ハ特ニ之ヲ説明スルヲ要セス日本カ戰爭ノ直接ノ慘害的破壞的影響ヲ被ラスシテ僅ニ勞働力ヲ奪ハレタルカ爲メ苦痛ヲ感シタルニ過キサリシコトノ如何ニ要用ナルヤハ一目瞭然タリ況ンヤ日本ノ經濟上及社會上ノ狀態ニ於テ勞働力ノ充分ナル補充ハ左迄困難ナラサルニ於テヤ

第二點ハ島帝國ニ對スル外國貿易ノ關係上最重要ナリシナリ開戰當初旅順艦隊ニ對スル突撃ノ成功ニ拘ハラス海上交通ノ不安全ハ日本國民經濟ノ神經ヲ痛ク麻痺セシメタルヤノ感アリ捕獲ノ危險ト是ニ由テ著シク騰貴シタル運賃及保險料ハ日本ノ外國貿易ニ甚シキ妨害ヲ加ヘサルヲ得サリシナリ之ニ加フルニ日本商船ノ大部分徵發セラレタルカ爲メ船舶ノ缺乏ヲ來タセルアリキ然ルニ海上權ノ掌握ハ此等ノ困難ヲ排除シ運賃及保險率ヲ堪フルコトヲ得ヘキ程度ニマテ下落セシメ且ツ大ニ外國船舶ノ借入ヲ容易ナラシメタリ

最後ニ豐作ハ農民ノ多數ヲ占ムル邦ニ於テ特別ニ負擔ヲ輕減セサルヲ得サリシナリ米ノ收穫ハ前年四千六百五十萬石ナリシカ千九百四年ニ在テハ從來ノ最多額五千百五十萬石ニ達シタリ小麥裸麥大麥ノ收穫ハ千九百三年千三百五十萬石

編 三 第

ニシテ非常ニ少額ナリシモノ千九百四年ニ於テハ千九百六十萬石ニ増加シタリ
 其他多數ノ產物殊ニ鐵物及工業品ニ就テハ借哉千九百四年ノ生産統計アラサル
 ナリ然レトモ貿易統計ハ最重要品タル絹ニ就キ等シク顯著ナル生産増加ノ充分
 ナル證明ヲ與ヘタリ此點ニ關シテハ日本大藏省年鑑ノ所説ヲ以テ兎ニ角當ヲ得
 タリト云ハサルヲ得ス全體ノ輸出入額ハ以前ノ如何ナル年ヨリモ著シク多額ナ
 リシナリ而シテ増加ハ次表ノ示ス如ク輸入輸出ノ何レニモ及ヒタリ但シ輸出ニ
 就テハ少額ノ増加ヲ見ルノミ

千九百一年乃至千九百四年間ノ日本ノ外國貿易

輸 入	一九〇一	一九〇二	一九〇三	一九〇四
輸 出	二五五・八	二七二・七	三二七・一	三七一・四
輸入超過	三五	一三四	二七・六	五二・一

輸入及輸出ノ不平等ナル増加ニ依テ外國貿易ノ借方勘定ヲ著シク増加セシメ千
 九百四年ノ多額ナル金貨流出ハ大部分之ニ原因スルモノナルコトハ既ニ他ノ關
 係ニ就テ之ヲ詳論シタリ

編 三 第

千九百五年ノ前半期ニ於テ外國貿易ノ借方勘定ハ一層逆況ヲ示シタリ輸入ハ千
 九百四年前半期ニ於ケル一億八千二百六十萬圓ニ對シ二億八千六百四十萬圓輸
 出ハ前年ノ一億三千七百五十萬圓ニ對シ一億四千二百七十萬圓ニ達シタリ是ヲ
 以テ前半期ノ外國貿易借方勘定ハ四千五百十萬圓ヨリ一億四千三百七十萬圓ニ
 増加シタリ

貿易ノ増加自身カ戰爭中經濟上ノ發達ニ對スル效用如何ハ各種商品ニ就キ發生
 シタル異同ヲ調査シタル後初メテ之ヲ判斷スルコトヲ得ヘキナリ吾人ハ千九百
 三年ニ比シ千九百四年戰爭ノ爲メ需用ノ増加ヲ來タサトルヲ得サル商品ニ就キ
 多大ノ輸入増加ヲ認メタリ斯種ニ屬スルモノハ石炭千二十萬圓——之ト同時ニ輸
 出ハ四百四十萬圓ヲ減シタリ小蒸汽船(七百六十萬圓)毛布(六百二十萬圓)毛皮鞣革
 (三百五十萬圓)鐵塊及鐵竿(三百七十萬圓)綿布及帆布(二百萬圓)ノ輸入増加ナリ又棉
 花(三百九十萬圓)及ヒ毛毛絲(六百九十萬圓)ノ輸入増加モ戰爭ニ依リ増進シタル需
 用及ヒ是ニ由テ獎勵セラレタル織物業ノ發達ニ基因シタルモノナリ而シテ上述
 シタル如キ或ル木綿製造品及毛布ノ輸入増加ト共ニ千九百四年ニ於テ木綿工業
 ノ製造品輸出増加カ近年ノ非常ナル隆盛後初メテ停滯シ且ツ一二ノ製造品就中

棉絲カ退歩ヲ示シタルハ特ニ注目ノ値アリ米ノ輸入増加(七百八十萬圓)ハ小麥及小麥粉ノ輸入減少(三百九十萬圓)ノ一部分ヲ補充シタルモノナル可ケレト其他ハ等シク軍用ニ關係アルモノナリ砂糖及ヒ石油ノ如キ他ノ產物ニ就テハ關稅增加ノ施行前輸入増加ヲ來タシタリシモノナルヘシ

輸出増加額約三千萬圓中絹ハ一千四百三十萬圓羽二重ハ一千萬圓絹手巾ハ百八十萬圓ヲ占メタリ其原因ハ千九百四年ノ非常ナル絹ノ收穫及一部分ハ恐ラク此等ノ贅澤品ニ對スル國內需要ノ制限ニ存スヘシ絹及絹製造品ノ外多額ノ輸出増加ヲ來タシタルハ酒百六十萬圓—主トシテ滿韓軍隊ニ供給シタリ—燐寸百萬圓麥葉糞田百四十萬圓ナリ

是ニ由テ之ヲ觀レハ大藏省年鑑ノ摘示シタル前年ノ無類ナル外國貿易ノ盛況ハ輸入ニ就テハ軍需品又ハ戰爭ニ依テ培養セラレタル工業ノ需要ニ基因シ輸出ニ就テハ非常ナル絹ノ收穫ニアリ縱令此ノ如キ特殊ノ事情ヲ適宜考量スト雖尙ホ戰爭カ邦ノ迅速ナル經濟的進運ニ毫モ重大ナル打擊ヲ加ヘナリシテウ日本ノ爲メ慶賀スヘキ成績ヲ示シタルモノナリ是ヲ以テ日本ハ戰後依然旺盛ナル經濟的實力ヲ以テ頗ル増加セル負擔講和後ト雖必然益増大スヘキ負擔ニ接セントスル

モノナリ更ニ形勢ヲ案スルニ日本ハ朝鮮及南滿洲ニ於テ其經濟的活動場裡トシテ宏大且ツ貴重ナル地域ヲ占領シタルヲ以テ之ヲ經營セハ將來何時カ一度ハ日本ノ重大ナル財政的負擔ヲ輕減スルニ至ルヘキハ敢テ之ヲ豫見スルニ難カラス之ニ反シテ現在及近キ將來ニ於テ日本ハ此等ノ新領土ヲ經營スルカ爲メ多大ノ資本ヲ要シ數年ヲ經過スルニアラサレハ之ヲ回收スルコト能ハサルヘシ日本自身ハ自己ノ力ヲ以テ此多大ノ要求ニ應スル能ハサルヘキコトヲ豫想セリ國家ノ財務行政ノ外私的經濟事業モ戰爭及其結果ニ依リ從來ヨリハ一層大規模ニ西歐國民ノ資本ニ依頼スルノ己ムヲ得サルニ至リタリ是ヲ以テ日本ハ從來ノ外資輸入ノ制限就中外國人土地所有ノ禁令及會社法ノ制限ヲ廢止シ又ハ少クトモ寬大ニセントスル意向アルカ如シ(此點ニ關シ注目ノ價值アルモノハ千九百五年三月十一日ノ鐵道工場鑛業抵當法及信託會社法カ日本ニ於ケル外國資本輸入ノ便宜安全ヲ目的トシナカラ尙ホ外國人ニ土地所有權ヲ與ヘサル一事ナリ)日本カ外國ニ於テ其國家的經濟的事業ニ要スル資本ヲ求ムルコトヲ得ハ是ニ由テ現在及近キ將來ニ於テ其國家財政及支拂勘定ハ更ニ耐重試驗ヲ受クルモノト謂フヘシ而シテ日本ノ經濟的實力カ果シテ一部分ハ困窮ニ依リ一部分ハ任意ニ負擔シ又將

來負擔セントスル重荷ニ堪ヘ之ニ打勝ツコトヲ得ルヤ否ヤハ將來事物ノ趨向ニ之ヲ俟タサルヲ得サルナリ

三〇二

第三章 國際的貨幣及資本市場

第一節 局外中立國ノ國民經濟及貨幣市場

ニ對スル戰爭ノ影響總觀

日露戰爭ノ財政上ノ結果ハ直接關係國ニ限局セラレサリシナリ貨幣ハ凡テノ經濟的貨物中最モ流通的ノモノニシテ各國民經濟内ニ於テ個人間ノ交通ヲ媒介スルカ如ク國際間ノ經濟的關係ヲ總攬スルモノナリ是ヲ以テ貨幣及貨幣ノ取引ト直接ニ關聯セル總テノ事情ハ他ノ經濟範域ニ於ケル事變ニ依テ最モ容易ニ影響ヲ被ムルモノナリ本問ノ如キ場合ニ於テハ之ニ加フルニ西歐諸國ノ資本力數十億萬馬克ノ金額ヲ以テ交戰國ノ一方ノ運命ニ直接ノ利害關係ヲ有シ即チ主トシテ露國公債ノ所有及露國ノ經濟事業ニ對スル大規模ノ參加並ニ露國ニ對スル貸金ニ依リ利害關係ヲ有シタル事情アリ日本ノ公債ハ僅少ナル金額ユテ西歐羅巴殊ニ殆ント專ラ英國市場ニ存在シタルニ過キサレトモ戰爭力露國ノミナラス日

編 三 第

本ヲシテ更ニ西歐資本ノ莫大ナル融通ヲ求ムルノ已ムヲ得サルニ至ラシメタルコトハ最初ヨリ毫モ疑ヲ容レサリシ所ナリ

日露ノ戰爭ハ西歐諸國ノ貨幣及資本市場ノ比較的佳良ナル状態ニ際會シタリ光輝アル隆盛時代ニ續キ且ツ一部分ハ南阿戰爭及北清事件ノ如キ政治上ノ事件ニ依リ錯雜シタル千九百年恐慌ノ暴風雨ハ既ニ經過シ去リタルモノト見做スコトヲ得ヘカリシナリ千九百三年ハ何處ニ於テモ工業及商業ノ復活ノ徵候ヲ呈シ資本市場ハ更ニ一新生面ヲ開キ殊ニ工業的株券ノ相場ヲ擡ナカラス騰貴セシメタリ但シ之カ爲メ千八百九十九年及千九百年ノ不振時代ノ異例ナル高利ヨリ甚シク下落シタル利率ハ——千九百二年四月伯林ニ於テハ一時私人間ノ割引歩合ハ僅ニ一步五厘ナリシコトアリ——少シク騰貴シタリ千九百三年重ナル歐洲ノ貨幣市場ニ於ケル短期貸出ノ平均利率ハ千九百二年ヨリ少シク高ク又長期貸出ニ對スル利率ノ輕少ナル騰貴ハ重要公債相場ノ下落ニ現ハレタリ兎ニ角利子ノ騰貴ハ僅少ニシテ千九百四年ノ始ニ於ケル金融状態ハ全然好況ナリト稱スルコトヲ得ヘシ

戰爭繼續中西歐諸國ノ貨幣及資本市場ノ趨向ニ關シテハ戰爭カ無關係諸國ノ一

三〇三

般ノ經濟情況ニ對シ毫モ顯著ナル妨害ヲ加ヘサリシ事實ハ最モ重要ナリシナリ
 世界ノ貿易ハ開戰當時世人ノ期待シタルヨリモ微弱ナル影響ヲ被リタリシノミ
 露國ノ外國貿易ハ戰爭ニ依テ何等直接ノ妨害ヲ被ルコト無ク僅ニ戰爭カ露帝國
 内部ノ經濟情況ニ及ホシタル間接的影響——就中多額ニハアラサレトモ輸入ノ減
 少——ヲ受ケタルニ過キサリナリ極東トノ船舶ノ往來ハ開戰ノ初期ニ於テハ痛ク
 妨害セラレタルモ千九百四年ニ於ケル日本外國貿易ノ數字ハ商業取引ノ永續的
 縮少ヲ來タサ、リシコトヲ證明シタリ兩交戰國トノ貿易ニ利害關係ヲ有スル諸
 國ニ於テ或ル種ノ產業カ戰爭ニ依テ損害ヲ被リタルモノアリト雖モ他ノ一方ニ
 於テハ局外中立國ノ重要工業カ各種軍需品ノ莫大ナル注文ニ依テ得タル獎勵及
 利益ハ之ヲ看過スルコトヲ得サルナリ
 之ヲ要スルニ局外中立國ノ一般ノ經濟情況ハ戰爭ニ依リ其貨幣及金融市場ニ反
 動ヲ生シタルカ如キ影響ヲ被ラサリシナリ茲ニ於テカ國際間ノ貨幣及資本市場
 ニ對スル戰爭ノ直接影響ハ愈々明瞭ニ反射セサルヲ得サルナリ

第二節 歐洲ノ貨幣市場ニ對スル戰爭ノ影響

兩交戰國カ國際的市場ニ向テ莫大ナル金融——露國ハ約十三億七千萬馬克日本ハ
 約十四億五千萬馬克即チ兩國ヲ合シテ二十八億二千萬馬克ニ達セル——ヲ求メタ
 ル戰爭ハ直チニ之カ爲メ貨幣市場ノ甚シキ動搖流通資金ノ著シキ逼迫及ヒ利率
 ノ著シキ騰貴ヲ來スヲ期待セサルヲ得サルニ似タリ夫ノ南阿戰爭ノ如キ其財政
 上ノ需要カ世紀ノ回轉ニ際シ貨幣市場ノ甚シキ逼迫ニ與ツテ力アリシ記憶ハ如
 上ノ見解ヲ強ムルニ足ル然レトモ西歐ノ最モ重要ナル三箇所ノ金融市場ニ於ケ
 ル市中割引率ノ形勢ヲ示シタル次ノ一覽表ハ戰爭ノ爲メ何等ノ動搖又ハ何等ノ
 著シキ逼迫ヲ來タサスシテ寧ロ殆ント戰爭ノ全期間ヲ通シテ多額ノ資金潤澤及
 利率ノ甚タ低キ程度ヲ明確ニ證明セリ

一覽表ニ據レハ巴里及倫敦ニ於ケル千九百四年ノ平均市中割引ハ前年ニ比シテ
 低カリシナリ若シ夫レ如上ノ二箇所ニ就キ一層低キ一箇年ノ平均ヲ求メントセ
 ハ千八百九十八年マテ溯ラサルヲ得ス伯林ニ於テハ千九百四年ノ平均市中割引
 ハ千九百三年及千九百一年ヨリ少シク高ク千九百二年ノ割合ヨリ著シク高カリ
 シモ而カモ千八百九十八年乃至千九百年間ノ平均ニ比スレハ著シク低キナリ千
 九百五年ノ最初ノ八箇月間ハ伯林及巴里トモ——少許ナカラ倫敦ニ於テモ——更ニ

第三編

モ豫期シ難キニアラサルコトヲ宣言シタリ伯林ハ千九百四年ノ始ニ際テ其他ノ
 西歐市場ヨリ遙ニ低キ市中ノ割引率ヲ有シタリシカ其結果トシテ資金ハ獨逸ヨ
 リ此等ノ外國市場ニ輸送セラレタリ—是レ他ノ市場ニ於テ一層ノ高利ニ依リ利
 益ヲ收メシカ爲メナリ—帝國銀行ハ金貨ノ流出ヲ制止シ且ツ萬一ノ際所要ノ資
 金ヲ獨逸ノ市場ニ保存スルカ爲メ當時多額ニ引受ケタル帝國大藏省證券ノ大規
 模ナル再割引ニ依リ一般ノ市場ヲシテ其利率ノ引上ヲ強要シタリ伯林ト其他ノ
 貨幣市場トノ比例顛倒シ伯林カ三月以降久シキ間倫敦及ヒ殊ニ巴里ヨリ一層高
 キ市中ノ割引率ヲ有スルニ至リタルハ主トシテ如上ノ戰爭ニ關聯セル處置ニ基
 因シタルモノナリ又英蘭銀行カ四月中旬マテ其割引率ノ引下ヲ延期シタルハ疑
 モ無ク戰爭ヲ顧慮シタルニアリ

千九百四年第二ノ四半期ニ於テ戰爭ノ不利益ナル影響ニ對シテ合衆國及南阿等
 ヨリ歐洲就中佛國ニ向ケ多額ノ金貨輸送行ハレタリシカ一般經濟上ノ形勢ト相
 俟テ利率下落ノ傾向ヲ呈セシメタリ當時貨幣市場ノ形勢ハ五月及六月ニ實行セ
 ラレタル兩交戰國ノ大規模ナル財政計畫ニ依リ非常ニ趣味アル影響ヲ被リタリ
 即チ兩交戰國ノ資金需要ノ爲メ最初且ツ最強ノ依頼ヲ受ケタル巴里及倫敦ノ資

第三編

幣市場ハ利率ノ多大ナル下落ヲ呈シタルニ當時尙ホ暫ク戰時財政處分ノ影響ヲ
 被ラサリシ伯林市場ハ比較的逼迫ノ狀況ヲ呈シタルカ如キ意外且ツ一見矛盾ノ
 感アラシムル現象ヲ生セシコト此ナリ千九百四年五月ニ伯林ノ平均市中ノ割引
 率ハ三步一厘巴里ハ二步三厘五毛倫敦ハ二步七毛ナリキ六月平均伯林ノ割合ハ
 二步九厘八毛倫敦ハ二步九毛巴里ハ一步七厘三毛ニ過キサリシナリ千九百四年
 第二ノ四半期ヲ通シテ伯林ニテハ如何ナル日ニ於テモ市中ノ割引率カ二步八分
 ノ五以下ニ下落シタルコトアラサレトモ倫敦ニテハ一時一步十六分ノ五巴里ニ
 テハ一步四分ノ一ノ相場ヲ呈シタルコトアリ當時倫敦ノ市場ハ日本ノ公債巴里
 ノ市場ハ多額ノ露債ニ應シタルモノナリキ

斯ノ如ク一見矛盾ノ感アラシムル貨幣市場ノ狀態ヲ呈シタル所以ノモノハ一部
 分ハ交戰國カ最初資金ヲ依頼シタル兩國ニ於テハ軍債ノ應募ニ依ル高利ノ投資
 機會カ遊金ニ對シテ磁石ノ如キ功驗ヲ生シ平常惰眠ヲ貪レル巨額ノ資金カ表面
 ニ現ハル、ニ至リタルニ在リ他ノ一部分ハ倫敦ニ於ケル日本公債ノ募集及ヒ更
 ニ一層巴里ニ於ケル露國公債ノ募集ハ外國ヨリ此等ノ中心點ニ對スル多額ノ金
 貨輸入ヲ促カシタルニ在リ是レ第一次ニハ英佛ノ資本家カ軍債ニ應募スルカ爲

第三編

其外國ニ投シタル流動資金ヲ回收シ第二次ニハ外國ノ資本カ直接又ハ間接ニ公債ニ應募シタルニ因レリ巴里ニテハ尙ホ特別ノ事情存セリ第一流ノ實業家ニシテ近時死亡セル里昂銀行ノ頭取「ゼルメーン」氏ハ佛國カ新規ナル大工業ヲ興起シ若ハ現在ノ工業ヲ充分發達セシムルコトモナク寧ロ其莫大ナル貯蓄ハ之ヲ主トシテ有利ナル有價證券ニ投シ最近代ニ於テハ年々約十五億法ノ外國有價證券ヲ吸收シタリシニ開戦ノ前年(千九百三年)ニ於テハ佛國ニ輸送セラレタル外國有價證券ノ價格ハ僅ニ七億千三百萬法ニ過キサリシコトヲ算出シタリ(千九百五年一月一日ノ「ノイエー」フライエー「プレツセー」)是ニ由テ之ヲ觀レハ實際佛國ハ巨額ノ遊金ヲ戰爭ノ初年度ニ持越シタルモノト認メサルヲ得ス其他巴里ニ於ケル資金ノ潤澤ハ露國大藏省ノ或ル策略ニ依テ人工的ニ強メラレタルカ如シ世人ノ唱フル所ニ據レハ露國大藏省ハ西歐ノ金融市場ニ於テ波瀾ヲ起シ機熟シタル瞬間ニ於テ其對外預方ヲ回收シテ其資金中ヨリ貸出ヲ行ヒ以テ金融市場ヲシテ公債ノ吸收ニ便利ナラシムルコトニ熟練セリト云フ

然レトモ凡テ此等ノ事情ハ兩交戰國ノ財政的運用ノ爲メ歐洲ノ貨幣市場ヨリ實際軍事公債ニ相當スル巨額ノ現金ヲ吸收シ去リタルモノトセハ貨幣市場ノ一時

第三編

ノ潤澤ヲ促シタルニ過キササルヘシ否斯ノ如キ未タ必スシモ否定シ難キ事件ノ豫想スラモ軍事公債ノ觸接シタル貨幣市場ニ於テハ金融ノ緩漫ナル状態ヲ發生セシメサルニ足レリ兩交戰國ハ其募債事業成功ノ爲メ關係市場ノ金融緩漫一就キ至大ノ利害關係ヲ有スルヲ以テ公債募集ヲ發表スル際即時ニ争ウテ今回ノ財政的運用ニ依リ調達スル資金ハ貨幣市場ヨリ吸收シ去ル趣意ニアラサル旨ノ宣言シタリ兩交戰國カ斯ノ如キ宣言ヲ爲シ而モ其宣言ヲシテ信用スルニ足ルト認メシムルコトヲ得タル所以ノモノハ畢竟兩國ハ戰爭中外國ニ於ケル支拂ニ對スル資金ヲ調達スルカ爲メ外債ヲ募集シタリシモノニシテ國內及戰場ニ於ケル支出ニ對シテハ其準備金及ヒ内債募集一部分ハ中央銀行ノ兌換券發行ニ依リ資金ヲ調達シタルニ在リ實際戰爭中何等顯著ナル數量ノ金貨ヲ露國又ハ日本ニ輸送シタルコトアラサルナリ日本ハ之ト反對ニ開戦後最初ノ數箇月間ニ於テハ外國ニ對スル臨時ノ支拂ヲ決濟スルカ爲メ露國ノ如ク多額ノ在外預金ヲ有セサリシヲ以テ多額ノ金貨ヲ輸出セサル可カラサリシナリ此金貨ハ最初ハ主トシテ北米合衆國ニ輸送セラレ該地ヨリ一部分ハ會テ説明シタル徑路ヲ取リテ佛國ニ轉送セラレ以テ該國ノ資金ノ潤澤ヲ強メ露國募債事業ノ利益ヲ圖ル結果ヲ生シタリ

露國大藏省カ特ニ巧妙ナル技術ヲ以テ實行シタル内國及戰場ニ於ケル軍費ニ對スル資金ハ之ヲ内國ニ於テ調達シ外國ニ於ケル支拂ニ對スル資金ハ外債ノ募集ニ依リ之ヲ調達シ是ニ由テ貨幣ノ輸出ニ基ク國內取引ノ資金缺乏ヲ避クルコトヲ得セシメ其好評ヲ最モ必要トスル外國ノ貨幣市場ヲシテ多額ナル金貨ノ吸收ヲ危惧ヒシムルコトナカラシメタル方策ハ甚タ單純且ツ當然ノモノニシテ若シ以前ノ戰爭ニ於テ之ヲ採用シ今回始メテ之ヲ自覺的ニ且ツ秩序的ニ實行シタルモノニアラサル限リハ之ニ就キ一言ヲ費スノ必要ナカルヘシ此ノ如キ方策ヲ實行シタル方法ニ就テモ亦同シ露國及ヒ其例ニ倣ヒ日本モ國際的貨幣市場ニ於テ其信用ノ運用上最少限度ノ妨害ヲ加ヘタルニ止マリ兩國共其公債ノ拂込金ヲ一瞬時タリトモ固定セシメタルコトナク毎時自己ノ銀行家ノ手ヲ經由シテ支拂又ハ短期貸出ノ方法ニ依リ再ヒ貨幣市場ニ之ヲ返還シタリ又此ノ如キ手續モ當然ノ事理ナルカ如シト雖モ讀者ハ千八百七十年同七十一年ノ戰役ニ於テ獨逸カ佛國ノ戰費賠償金ヲ如何ニ處分シタリシカヲ講究スルコトヲ要ス當時獨逸ノ財政的運用ハ直接間接ノ關係諸國間ニ於ケル流通資金平準ヲ移轉セシメ國際的貨幣市場ニ多大ノ妨害ヲ與ヘタルノミナラス當時獨逸帝國ヲ左右シタル普國ノ大藏

省ハ其受領シタル幾億馬克ノ金額ヲ時々其金庫ニ固定セシメ銀行ノ媒介ニ依リ即時ニ社會ニ返付セサリシカ爲メ如上ノ妨害ヲシテ一層激甚ナラシメタリ露國大藏省ノ反對處分法カ巴里ノ貨幣市場ニ如何ナル影響ヲ及ホシタルヤニ就テハ千九百五年一月一日ノ「ノイエー、フライエー、プレツセー」ニ於テ「ゼルメン」氏左ノ如ク之ヲ論シタリ

千九百四年露國公債ノ賣得金八億法ハ佛國ニ留マリテ茲ニ利用ノ途ヲ求メタルコト尙ホ佛國ノ遊金ニ異ナラス其ノ結果ハ次ノ數字ニ現ハレタリ即チ銀行ノ資金ハ預金ノ増加ニ依リ千九百四年ノ初以來十億法以上増加シ從來未曾有ナル三十億法ニ達シタリ云々ト

此等ノ事情ハ軍債募集ノ當時著シキ利子ノ下落ヲ示シタル巴里及倫敦貨幣市場ノ一見矛盾ノ感アラシムル状態ヲ説明スルニ足レリ之ニ加フルニ英國及佛國ニテハ一般經濟上ノ状態尙ホ幾分不振ノ形況ヲ呈スルモ獨逸ニテハ更ニ工業ノ隆盛ヲ萌セル事情アルヲ以テ交戰國カ最初依頼セサリシ伯林貨幣市場カ千九百四年ノ初ニ於テ最低利率ヲ示シタルニ第二ノ四半期ニ至テ倫敦及巴里ヨリ高率ヲ示シタル所以ヲ理解スヘシ

宏大ナル財政的運用ノ巴里及倫敦ニ於テ實行セラレタル後千九百四年六月以降此等ノ市場ニ集合シタル資金ハ再ヒ各方面ニ分配セラル、ニ至リタリ就中該期節以來佛國ヨリ又第四ノ四半期ニ至テハ英國ヨリモ金貨流出シ殊ニ伯林ニ著シキ金貨ノ輸入アリキ次ノ表ハ此等ノ狀況ヲ明カニスルニ足レリ

千九百四年	第一四半期	第二四半期	第三四半期	第四四半期	合計
佛國 金ノ(輸入超過)	三六・九	四三八・三	四〇・六	九七・五	五三二・一
英國 金ノ(輸入超過)	一、二四五	一、五八〇	三、四六二	五、四四九	〇、八三八
獨國 金ノ(輸入超過)	一・一	一・七	一〇三・九	二七三・一	三九一・八

以上ノ表ヲ前ニ掲ケタル伯林巴里及倫敦ノ割引率一覽表ト比較セハ其關係頗ル明瞭トナルヘシ四月及五月ニ於テ巴里ノ利率ハ—伯林以下ナルモ—倫敦以上ナリシニ第三ノ四半期ニ至テ他ノ市場ヨリ著シク下落シ八月ニ於テ倫敦ノ利率ハ伯林ヨリ平均ニ於テ尙ホ稍高カリシニ十月以來伯林ノ平均市中割引率ハ商況ノ活潑ニ伴ヒ内國ノ資金需要増進シタルカ爲メ連月他ノ二箇所ニ比シ一步以上ノ高率ヲ示シタリ形勢斯ノ如クナルヲ以テ獨逸帝國銀行ハ十月ノ初其公定銀行率ヲ四歩ヨリ五歩ニ高ムルノ必要ヲ認メタルニ英佛ノ銀行ハ三歩ノ利率ヲ保チタ

第三編

第三編

リ千九百四年最後ノ四半期ニ至テ獨逸カ二億七千三百馬克ナル多額ノ金貨ヲ輸入シタル第一ノ原因ハ即チ獨逸ノ金利カ著シク高カリシニ在リ尙ホ露國預金ノ幾分カ巴里ヨリ伯林ニ移轉シタルコトモ幾分此ノ現象ヲ來サシメタル原因ナルヘシ蓋シ伯林カ次回ノ露國公債募集地ニ豫定セラレタル以上ハ露國政府ハ其財政的運用ニ對シ成ル可ク伯林市場ヲ準備スルノ必要アリタレハナリ伯林ノ銀行組合トノ協商ハ千九百四年ニ完結シタルモ露國大藏省ハ例年歲暮ノ金融逼迫經過シタル後新年ニ至テ始メテ伯林市場ノ募集ニ著手シタリ當時ノ附隨的及結果的現象ハ巴里募集ニ類似セリ伯林ニ集中シタル資金ハ經驗上該期節ニ起ル金融緩漫ヲ一層強メ且ツ迅速ナラシメ千九百五年一月ノ下旬ニ於テ伯林市中ノ割引率ハ倫敦及巴里ヨリ一步以上高カリシナリ帝國銀行ハ一月十日ニ其割引率ヲ五歩ヨリ四歩ニ引下ケタリ帝國銀行ハ其公定率ト之レヨリ一步四分ノ三以下ナル市中割引率トノ益増大セントスル懸隔ニ對シ—市中ノ割引率低キ爲メ金貨ノ移動ハ獨逸ノ不利益ニ歸セントスル虞アリタルヲ以テ—帝國大藏省證券ノ大規模ナル最割引ニ依テ之ヲ緊縮センコトヲ試ミタル後遂ニ二月十四日及二十五日ニ再ヒ

三步五厘及三步ニ引下ケタリ

五月獨逸ノ貨幣市場ニ於ケル一億五千萬留ノ籌國庫庫手形ノ割引及ヒ千九百五
 年三月及ヒ七月ノ二回ニ於ケル日本ノ大募債ニ拘ハラヌ—七月ノ募債ハ倫敦及
 紐育ノ外伯林ニテ之ニ應シタリ—歐洲ノ市場ニ於ケル金融緩漫ハ—場所ニ依テ
 一様ナラサレトモ—九月マテ持續シタリ伯林ノ私人間ノ割引ハ四月ニハ尙ホ倫
 敦及巴里ヨリ低カリシモ五月以來他ノ二箇所ニ比シ再ヒ高マレリ但シ前年ノ同
 月ニ比スレハ揚カラサル下落ヲ來タシタル割合ナリ最低利率ハ巴里ノ利率ニシ
 テ千九百五年第二四半期間ニ於ケル私人間ノ割引率ハ一時僅ニ一步八分ノ一ニ
 達シタリ伯林ニテハ一步四分ノ三倫敦ニテハ二步ヲ以テ最低相場ト爲シタリ斯
 ノ如キ變動ヲ來タシタル原因ノ一部ハ千九百五年最初ノ四箇月間ニ於テ伯林ノ
 利率低カリシ爲メ外國就中佛蘭西ノ預金カ伯林ヨリ回收セラレタルニ在リ此ノ
 趨勢ハ摩洛哥事件ニ依テ更ニ一層強メラレタリ其他獨逸ノ活潑ナル商況ハ漸次
 再ヒ獨逸ノ利率ノ向上ヲ免カレサリキ

此最後ノ事情ハ秋期ノ定例タル流通資金ノ需要發生シ始メタルカ爲メ一層ノ強
 度ヲ以テ效驗ヲ生セサルヲ得サリシナリ獨逸ニテハ工業及商業ノ資金需要ノ外

編 三 第

編 三 第

尙ホ株式取引所ノ著シキ需要アリタリ此ノ需要ハ九月中殊ニ九月最後ノ週間ニ
 於テ獨逸帝國銀行カ(九月三十日)十三億四千三百萬馬克ノ手形貸付十六億八千三
 百萬馬克ノ兌換券發行及ヒ僅ニ七億三千二百萬馬克ノ硬貨準備ヲ有シ其存立以
 來最大ノ逼迫ヲ來タシタルマテニ増進シタリ獨逸帝國銀行ハ更ニ一層ノ要求ヲ
 期待シテ既ニ九月十一日ニ其割引率ヲ三步ヨリ四步ニ又十月三日更ニ五步ニ十
 一月四日更ニ五步五厘ニ引上ケタリ英國銀行ハ三月其利率ヲ三步ヨリ二步五厘
 ニ引下ケタリシカ既ニ九月七日再ヒ三步ニ又九月二十八日更ニ四步ニ引上ケタ
 リ市中ノ割引ハ九月倫敦ニテハ三步八分ノ五伯林ニテハ三步五厘ニ騰貴シタリ
 シカ巴里ニテハ佛國銀行ハ其三步ノ公定利率ヲ維持シタリシモ私人間ノ割引ノ
 最高率ハ三步四分ノ一ナリシナリ千九百五年十月市中割引ノ最高率ハ伯林ニ於
 テ四步半倫敦ニテハ四步八厘ノ一巴里ニテハ三步ナリシナリ

九月以降ノ貨幣市場ノ狀況ニ就テハ毫モ戰爭ノ影響ヲ認ムヘキモノアラサルナ
 リ唯タ世人ハ其步調ヲ豫見シ難キモ漸次日露公債ノ少ナクトモ大部分ノ償還ヲ
 覺悟セサル可カラサル事實即チ此等ノ公債ハ全ク短期ノ投資ナリシ事實ノ效果
 ハ少ナクトモ九月中マテ繼續シ—殆ント戰爭全期間中ノ如ク—當時ニ在テモ尙

ホ日歩ハ時トシテ三箇月拂手形ノ市中割引率ノ平準以下ニ著シク下落シタリ其
他歐洲貨幣市場ノ状態ヲ殆ント専ラ左右シタルモノハ各國ノ一般經濟上ノ情況
ナリシナリ

之ヲ要スルニ國際間ノ貨幣市場ハ兩交戰國ノ非常ニ巧妙ニシテ自己ノ利益ノ爲
メ成ルヘク貨幣市場ヲ擁護シタル財政運用法ノ爲メ毫モ著シキ妨害及ヒ永續的
影響ヲ被ラサリシナリ其極資金需要ノ結果ハ利率ヲ向上セシムル傾向ヲ有ス
フ古來動カス可カラサル原則モ將ニ顛倒シタルカノ如キ觀アラシメタリ大規模
ナル財政的運用ノ方法就中戰爭中國際市場ニ於ケル露國ノ資金調達ノ方法ハ近
世財政史ノ最モ趣味アリ且ツ最モ教訓ニ富メル事件ニ屬セリ

第三編

第三節 歐洲ノ資本市場ニ對スル戰爭ノ影響

貨幣市場即チ短期ノ信用ニ對スル市場ヨリモ歐洲ノ資本市場即チ事業資本ニ對
スル市場ハ少ナクトモ開戰後最初ノ時期ニ於テハ一層烈シク且ツ外部ニ現ハレ
タル影響ヲ被リタリ戰爭ハ幾多ノ株券ノ持主ヲシテ多大ナル資本損失ヲ危惧ス
ル念ヲ懷カシメタリ是レ獨リ露國ノ公債及露國ノ工業株ノ持主ニ止マラス戰爭

第三編

ハ博ク政治上ノ危惧ヲ喚起シ總ユル葛藤ノ危惧ヲ發生セシメ爲メニ其安眠ヨリ
覺醒シタル公衆ノ眼中ニ於テ殆ント總テノ有價證券ニ疑惑ヲ懷カシメタリ既ニ
資本損失ノ恐怖心ノミニテモ恐怖シタル損失ヲ實際誘發スルニ足レリ恐怖心ヲ
懷ケル持主ハ前途豫測スヘカラサル損失ニ就キ戰々競々タルヨリモ寧ろ確定セ
ル損害ヲ以テ優レリトシ遂ニ其有價證券ヲ市場ニ捨賣スルニ至ルヘシ
日露戰爭ニ於テ大陸ノ株式取引所ハ開戰ヲ以テ意外ニ感シタルカ故ニ——之ニ反
シテ倫敦ニテハ事情ニ精通シ且準備スル所アリキ——如上ノ危險一層多大ナルモ
ノアリキ外交斷絶日本艦隊ノ旅順艦隊襲撃ノ報道ハ伯林維納及巴里ノ株式取引
所ニ非常ナル狼狽ヲ來タサシメタリ殆ント總テノ株券ノ相場ハ二月八日及九日
ノ第一回ノ警報ニ依テ多大ナル下落ヲ來タシタリ就中第一回ノ狂瀾ニ對シ獨逸
株式取引所ノ抵抗力ハ頗ル薄弱ナリシナリ而モ獨逸ノ株式取引所ハ開戰當時巴
里ノ市場ヨリ——巴里ノ市場ハ投機的取引就中西班牙有價證券ノ取引ニ依テ頗ル
重荷ヲ負ヒタリシナリ——一層健全ナル状態ニ在リシコト疑ヲ容レサルナリ獨逸
市場ノ抵抗力斯ノ如ク薄弱ナルハ往々株式取引所法ノ責任ニ歸納セラレタリ
一般ノ相場下落ハ或ハ潰亂トマテ變性スル虞レアリシカ二月ノ第二週間ニ至テ

第三編

ヲ來タシタリ日露戰爭ハ千九百四年第二ノ四半期ニ至テ既ニ資本市場ニ對スル
 恐慌力ヲ失ヒタリシカ實業ノ良好ナル進行ヲモ將タ極端ナル投機ヲモ防止スル
 コト能ハサリキ摩洛哥事件ノ雲行スラモ僅ニ一時獨逸株式取引所ニ於ケル總テ
 ノ有價證券ノ向上的趨勢ヲ抑制シタルニ過キサレナリ講和條約ノ締結及摩洛哥
 會議ニ關スル佛國トノ協議成立後初テ十月下旬露國ノ政治的同盟罷工運動突然
 蔓延シ之レカ爲メ露西亞帝國ノ存立及ヒ總テ露國ニ投シタル資本ノ安全危殆ナ
 ルニ際テ株式取引所ノ門前ニ鴻溝ヲ劃スルニ至リタリ最初打撃ヲ被リタル露國
 ノ有價證券ノ外歐洲株式取引所ノ殆ント總テノ有價證券ハ該事變ノ爲メ影響ヲ
 被リタリ露帝ノ憲法制定ノ告諭ハ即時ニ形勢ヲ一變スルノ觀アリタルモ(十月三
 十一日)ノ相場參照露國ニ於ケル騷擾ノ繼續ハ露國有價證券ノ相場ヲシテ永續的
 ノ改善ヲ妨ケシメ且ツ獨逸貨幣市場ノ逼迫ハ十一月ニ至テ再ヒ重ナル獨逸ノ配
 當株ノ下落ヲ促シタリ

千九百四年ノ始ニ比シ概シテ相場ノ騰貴ヲ認ムヘキ顯著ナル例外ハ獨逸ノ帝國
 及各國ノ公債ナリ元來一定ノ利子ヲ附シタル有價證券ハ營業ノ好況ニ依テ其收
 入ヲ増加スル配當株トハ相場ノ高低上別種ノ法則ニ服從スルモノナルコト明白

第三編

ナリ然レトモ佛國及ヒ英國ノ公債カ同一期節ニ於テ相場ノ向上ヲ示セルニ拘ハ
 ラス何カ故ニ今日獨逸ノ公債カ千九百四年ノ初ニ比シ低相場ヲ有スルカハ之ヲ
 熟考スルノ必要アリ三步利付獨逸帝國公債ハ日露開戰間際ノ九一七〇ヨリ千九
 百四年二月二十日ノ八九マテニ下落シ第二ノ四半期ニ於テハ一時九〇五〇マテ
 ニ回復シタルモ千九百四年最後ノ五箇月間ニ於テ八九乃至九〇ニ下落シタリ千
 九百五年ノ最高相場ハ二月ノ九一八〇ナリシモ間モナク下落ヲ來タシ千九百五
 年十月ニハ八九一〇ノ相場ヲ呈シタリ—之レヨリ少シク前露國恐慌ノ爲メ八八
 七〇ノ相場ヲ呈シタルコトアリ之ニ反シテ三步利付佛國公債ノ相場ハ開戰間際
 ノ九七五二ヨリ二月二十日ノ九三五五ニ—即チ獨逸ノ公債ヨリモ一層激シク—
 下落シタルニ拘ハラス既ニ千九百四年六月下旬ニ九八〇五ノ開戰前ヨリ一層ノ
 高値ヲ示シ千九百五年十月下旬ニハ九九八二即チ開戰前ヨリ二步三厘ノ騰貴ヲ
 示シタリ之ト同シク英國ノ二步五厘付コンソールノ相場モ千九百五年十月下旬
 ニハ開戰前ヨリ一歩四分ノ一ノ高値ヲ示シタリ之ニ反シテ三步利付獨逸帝國公
 債ハ同一期間ニ於テ二步六厘下落シタリ夫レ斯ノ如ク獨逸公債ノ歷然不利ナル
 相場ハ該期間ニ於テ商工業ノ好況ナリシ結果少クトモ概シテ英佛ニ比シ金利ノ

高カリシコトヲ以テ之ヲ説明スルコトヲ得ルヤ否ヤ又ハ寧ロ獨逸帝國ノ財政及
獨逸資本市場ノ組織ニ伏在セル事情ノ罪ナルヤノ問題ハ本論ノ範圍外ニ屬シ茲
ニ之ヲ論斷スル限リニアラサルナリ然レトモ本問タルヤ獨リ財政政策上ノ見地
ヨリノミナラス同時ニ我防衛力ノ如何ニ關シ最モ眞面目ナル注意ヲ要スル所ニ
シテ殷鑑遠カラス余輩ノ以上略述シタル日露戰爭ノ財政史ニ於テ吾人ノ輕々ニ
看過スヘカラサル訓戒アリ

結 論

余輩カ本書ニ編輯シタル論文ノ趣旨ハ資金ノ近世の大戰爭ニ於ケル役目及財政
的戰闘ノ技術ヲ吾人ノ目前ニ演シタル事件ニ就キ研究シ解釋セント欲スルニ在
リキ而シテ第一回論文ノ冒頭ニ於テ近世の軍備ニ關スル技術ノ進歩ニ伴ヒ國民
ノ經濟的及財政的實力ノ軍事的活動力ニ對スル效用如何ニ多大ナルモノアルヤ
ヲ指摘シタリ然レトモ之ト同時ニ純然タル技術的及財政的要素ヲ過重スルコト
ヲ戒メ且ツ今日ト雖モ尙ホ人間ナル材料ハ其員數其體力及其練習之ヲシテ活氣
アラシムル精神之ヲ總括スル組織及紀律之ヲ指導スル人格等ヲ綜合スレハ如何

第 三 編

ナル技術的裝置モ又如何ナル資力モ之ニ代用スル能ハサルコトヲ論シタリ
日露戰爭ノ經過ハ如上ノ制限ノ妥當ナルコトヲ證明シタリ戰爭ノ進行ハ兩國ノ
財政ニ依テ決定セラル、コトナク陸海軍ノ兵士及其指揮官ノ人格ニ依テ決定セ
ラレタリ然レトモ人若シ財政ヲ以テ戰爭ノ進行就中講和ノ時期及條件ニ何等ノ
影響ヲ及ホサ、リシモノト認ムルアラハ之レ極端ニ過クト謂ハサルヲ得ス戰爭
中資金カ僅ニ裏面的影響ヲ及ホシ表面ニ露ハレサリシ所以ノモノハ畢竟特殊ノ
事情存在セシカ爲ニシテ更ニ説明ヲ要スル所ナリ

抑露國ノ戰爭ニ對スル財政的準備カ之ヲ日本ニ比シ遙ニ勝レルモノアリシハ敢
テ疑ヲ容レス露國財政主義ノ反對者ハ露國財政ノ基礎ノ鞏固及其永續的實行ニ
必要ナル經濟的實力ノ存在ニ疑ヲ懷クナルヘシト雖モ之レ敢テ此處ニ之ヲ論ス
ルノ限ニアラサルナリ吾人ノ趣味ヲ感スルハ開戰前二十箇年ニ於テ露國ノ政治
家カ紊亂セル國家歲計豫算ヲシテ不足經濟ノ境遇ヲ脱セシメ國家ノ信用ヲ前代
無比ノ程度ニ鞏固ナラシメ紙幣本位ヲ金貨本位ニ變更シ貨幣本位ノ安固ヲ圖ル
カ爲メ且ツ最後ノ軍備金トシテ—國庫ノ多額ナル自由資金ノ外—中央銀行ニ巨
額ノ金貨ヲ蒐集スルコトヲ得タルハ的確ノ事實ナルコト乃チ是レナリ

第 三 編

第三編

日本ハ之ニ反シ既ニ開戦前十箇年間ニ於テ其財政力ヲ一部分ハ經濟的事業ノ爲メナレトモ殊ニ軍備擴張ノ爲メ極度マテ伸張シタリ千八百七十八年同七十九年乃至千八百九十三年同九十四年間即チ日本財政整理ノ時代ニ於テ國債ノ金額ハ殆ント不動ナリシカ前段ノ年度ニ於テハ二億五千萬圓後段ノ年度ニ於テハ二億六千六百八十萬圓爾來日露戰爭開始ニ至ル迄ノ間ニ二倍以上ニ増加シタリ(開戦ノ際約五億六千萬圓)國債ハ千八百九十六年以來著シキ増税ニ拘ハラヌ増加シ其日本ノ國家信用ニ及ホシタル影響ハ東京ニ於テ五歩利付公債カ千八百九十年ニ九八、二〇乃至一〇二、〇五千八百九十三年ニ一〇一、五〇乃至一〇七、〇ノ相場ヲ有シタリシニ千九百年即チ尙未タ開戦ノ危機切迫セサル時機ニ於テ八六、七五乃至九二、五〇ニ下落シタルニ徴シテ之ヲ知ルヘキナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ日本公債ノ相場ハ九十年代ノ始ニ比シ一割以上下落シタルニ露國ノ公ノ信用ハ同一期間ニ於テ大體顯著ナル増進ヲ爲シタリ之ニ加フルニ日本銀行ハ銀行券發行額ノ三分ノ一スラ準備スルニ足ラスシテ露帝國銀行ノ金貨貯藏高ノ八分ノ一乃至十分ノ一ニ相當スルニ過キサル少額ノ金貯藏高ヲ有シ本位貨幣制度ノ直接ノ危險ヲ醸生スルニアラサルヨリハ何等顯著ナル金額ヲ軍事上ノ目的ニ使用

第三編

スルコト能ハサル事情アリ最後ニ兩國歲計豫算ノ全體ノ容積ニ於テ非常ナル懸隔アリ露國ノ經常歲入ハ開戦前日本ヨリ多キコト八倍乃至九倍ニシテ縱令露國ニ在テハ歲入ニ對シ日本ヨリ一層巨額ナル官業經費ノ支出アリト雖モ而カモ尙ホ兩國ノ懸隔ハ遙ニ多大ナリ是ヲ以テ絶對的同額ノ軍費及軍債ハ露國ニ比シ日本ノ豫算ノ數倍重キ負擔ヲ意味スルモノナリ若シ夫レ戰爭ニシテ他ノ軍事の經過ヲ採リシナランニハ一種ノ實驗法トシテ財政的戰備ノ強弱ニ基因スル效驗如何ヲ觀察スル機會ヲ與ヘタリシナラム然レトモ凡ソ實驗ノ本體ハ同一ノ原因カ種々ノ條件ノ下ニ發動スルニアリ之レ一定ノ原因ノ效果如何ハ條件ノ變更ニ依リテノミ之ヲ孤立セシムルコトヲ得ルモノナレハナリ然ルニ極東戰爭ハ終始財政的強弱ノ區別ヲシテ專ラ同一條件ノ下ニ發動セシメタリ換言スレハ財政戰備上ノ優者タル露國ハ同時ニ戰鬪上ノ敗者ニシテ財政戰備上ノ弱者タル日本ハ同時ニ戰鬪上ノ優者タリシナリ是ヲ以テ今回ノ戰爭カ旅順陥落前若ハ奉天會戰又ハ對馬海戰ノ際武運ノ露人ニ歸シタル場合ヨリモ財政政策上ノ教訓ニ於テ遙ニ乏シキモノアルハ當然ナリ世人ハ事態ノ實際ノ經過ヲ觀察シテ或ハ日ハン軍事上無能ナル當事者ノ優等ナル財政的戰備果シ

テ如何ナル效ヲ奏シタルカ將タ亦大戦争ニ於テ連戦連勝セル國家ニ於テ財政上ノ無能果シテ如何ナル害ヲ及ホシタルカト而シテ何レノ場合ヲ問ハス全體ノ結果ヨリ其孰レノ部分カ財政ノ計算ニ歸シ孰レノ部分カ戦闘ノ計算ニ歸スヘキヤハ容易ニ之ヲ區別スルコト能ハサルナリ

然ラト雖モ事態ノ進行上與ヘラレタル如上ノ制限ヲ以テスルモ尙ホ且ツ救訓トナスニ足ルモノ搦ナカラス之レ唯表面ニ現出シタルモノ少ナキニ由レルノミ
第一開戦後最初ノ數週間ニ於テ日本公債ノ相場ハ其戦闘ノ端緒好況ナリシニ拘ハラス露債ニ比シ二倍以上ノ下落ヲ來タシ且ツ日本カ——殊ニ外國ニ於テ——相應ノ條件ヲ以テ絶對的必要ナル軍資ヲ調達スルニ付キ多大ノ困難ヲ感シタルハ世人ノ周知ナル所ナリ露國ハ其軍事上ノ不成功ニ拘ハラヌ著シキ困難ナクシテ開戦後十二箇月間ニ外國ニ於テ五億三千萬留ノ公債ヲ募集シ得タルニ日本ハ連戦連勝ニ拘ハラヌ同一期內ニ僅ニ二億二千萬圓ヲ一層不利ナル條件ニテ外國ニ於テ調達シ得タルニ過キス露國ハ旅順陥落後ト雖モ尙ホ獨逸及和蘭ニ於テ其四歩五厘付公債二億三千萬留ヲ日本カ遼陽及沙河戦争後其六歩利付國庫債券一億二千萬圓ヲ龍動及紐育ニ於テ募集シタルヨリ一層輕易ナル條件ヲ以テ調達スルコ

第三編

第三編

トヲ得タリ露國ハ其財政ニ於テ戦争ニ對スル後備ヲ有シ漸ク連戦連敗ノ末帝國内部ニ騷擾起リタルヲ以テ始メテ動搖ヲ來タシタルナリ日本ハ之ニ反シ連戦連勝及露國内部ノ騷擾ニ依リ軍事上ノ優勢愈確實トナルニ及ンテ始メテ軍資調達上露國ト略同一ノ地步ヲ占ムルコトヲ得タリシナリ露國カ重大ナル敗戦ヲ爲シタル後尙ホ且ツ執拗ナル對抗ヲ試ミ更ニ新ニ戦争ノ終局如何ヲ疑題タラシムルコトヲ得タリシ所以ノモノハ畢竟其財政ノ鞏固ナルニ在リ之レ波羅的艦隊東航ニ徴シテ明瞭ナリ該艦隊ハ悲惨ナル最後ヲ遂ケタリト雖モ之レ艦船及乗組員ノ罪ニシテ該艦隊ノ艦裝及派遣ニ要シタル資金ノ責ニアラサルナリ兎ニ角露國カ該艦隊ヲ派遣シ以テ假ニ勝利ヲ制シタリトセハ今回ノ敗戦ヲシテ勝戦ニ回轉セシメタルヘキ決戦ヲ挑ムコトヲ得タルハ專ラ其財政上優等ノ位置ヲ占メタルカ爲ニ外ナラス之ニ反シテ開戦當時ニ於ケル日本公債ノ暴落及爾後ノ相場高低ハ日本カ唯一回ノ大失敗ニ依テ如何ナル運命ニ遭遇スヘキヤヲ充分明瞭ニ推察セシムルニ足レリ夫ノ遼陽大勝利ノ後露國軍隊カ遼陽及沙河ノ中間ニ於テ若干ノ輕微ナル勝利ヲ博シタル時ニ方リ日本公債ノ著シキ相場下落ヲ來タシタル如キ以テ參考ニ供スヘシ而シテ一回ノ敗戦後財力ノ枯渴ハ恐ラク日本人ニ戦争ノ活

三三四

渡ナル續行ヲ許サ、リシナルヘシ日本人ハ滿洲軍ノ完全ナル活動力ヲ保全シ且ツ同時ニ其艦隊ヲシテ漸ク近接シ來リタル波羅的艦隊ニ對抗スルコトヲ得セシメ數箇月間ノ戦闘準備ヲ爲サシムルニ必要ナル巨額ノ資金ヲ調達スルコト能ハサリシナラン縱令斯ノ如キ事變發生スルコトナクシテ日本ノ財政ハ其武功ニ依テ補助セラレタリト雖モ而モ其財政上ノ薄弱ハ竟ニ其軍事の突撃力ヲ幾分制限スルニ至ラシメタリ今此處ニ最極端ノ例ヲ舉クレハ日本ハ露國海軍全滅後ト雖モ波羅的艦隊ノ東航ニ酬ユルニ東海訪問ノ答禮ヲ以テスルコト能ハス且ツ「クロンスタット」及露國ノ港灣附近ニ出沒シテ其敵手ニ對スル最後且ツ最強硬ノ壓迫ヲ加フルコト能ハサリシナリ斯ノ如キ企圖ニ對シテハ幾分技術上ノ懸念ナキニアラサリシナルヘシト雖モ之レ露國海軍全滅後實行シ得ヘキモノナルコトハ敢テ疑フ容レサル所ナリ畢竟斯ノ如キ考案カ最初ヨリ喚起セラレサリシ所以ノモノハ乃チ財政ノ點ニアリタルナリ

日本ノ財政上ノ劣勢ハ主トシテ講和ノ際ニ現ハレタリ戰爭カ軍事上ニ於テ未タ完結セサル時期ニ際シ——戰爭ノ完結ニハ少クトモ尙ホ浦鹽及哈爾濱ノ侵略ヲ要スヘシ——講和殊ニ露國ニ比較的有利ナル條件ヲ以テシタル講和ノ成立カ殆ント

世人一般ヲシテ意外ノ感アラシメタル所以ノモノハ畢竟公衆カ單ニ純然タル軍事の經過ニノミ著目シ戰爭ノ財政的方面ヲ觀察セサリシカ爲メナリキ今茲ニ財政的經過及講和當時ノ戰時財政狀況ヲ明白ニセンカ爲メ左ニ兩國ノ對照表ヲ掲クヘシ

	露 國	日 本
最後ノ平時豫算ノ經常歲入	四二七七 <small>(百萬)</small>	四六七 <small>(百萬)</small>
千九百五年八月末日迄ノ軍費	二八七三	二四二四
最後ノ平時豫算ノ經常歲入ニ對スル軍費ノ割合(百分比例)	六七	五一九
開戰當時ノ國債	一四三五〇	一七〇
戰爭中募集公債	二七六八	二六七六
開戰前ノ國債ニ對スル軍事公債ノ割合(百分比例)	一九	二二九
軍事公債ノ一箇年ノ利子	一二九	一三六
最後ノ平時豫算ノ經常歲入ニ對スル軍事公債一箇年ノ利子ノ割合(百分比例)	三	二九
千九百五年八月中央銀行ノ金在高	二四五〇	二六〇
國庫ノ資金(中央銀行ノ金在高ヲ合算ス)千九百五年八月中旬	二八五〇—三〇〇〇	九〇〇—一〇〇〇

以上ノ對照表ニ於テ兩國ノ比例ハ日本ノ不利益ニ誇張セラレタルノ感アルヘシ
蓋シ既ニ再三説明シタル如ク露國ノ經常歲入ハ日本ニ比シ遙ニ多額ナル官業及
專賣事業費ノ相對立スルモノアレハナリ然レトモ露國側ニ就キ以上ノ計算ニ依
リ歲計豫算ノ軍費及軍事公債利子ノ負擔ヲ二倍ニ増加スルモ尙ホ兩國ノ多大ナ
ル懸隔ハ甚ク驚クヘキモノアリ(千九百四年ノ修正豫算ニ於テ官業及專賣事業ニ
關スル經常歲出ノ重要項目中酒精專賣費一億七千萬留鐵道事業費四億二千五百
萬留合計五億九千五百萬留ニシテ經常歲入總額ハ十九億八千萬留ナリ)露國歲計
豫算ノ負擔ヲ二倍スルモ軍費ハ經常歲入ノ露國ニ在テハ一三倍日本ニ在テハ五
二倍ニ相當シ軍事公債ノ利子ハ露國ニ在テハ經常歲入ノ六分日本ニ在テハ五
歲入ノ二割九分ニ相當ス此外露國ハ講和談判當時銀行資金ヲ合算シテ約二十億
馬克ノ資金ヲ有シタルニ日本ハ之ニ反シテ僅ニ十億萬馬克ヲ準備シタルニ過キ
ス

以上ノ數字ニ徴スルモ日本カ浦鹽及哈爾濱攻略前講和ニ應シ且ツ講和條約ニ於
テ樺太ノ一半局外中立港ニ遷入セル軍艦引渡極東海面ニ於ケル露國海軍力制限
ヲ拋棄シ且ツ之ニ加フルニ軍費賠償金ヲ拋棄スルノ已ムヲ得サリシ所以ヲ了解

ニシテ日本ノ財政ハ戰爭ノ際前代未聞ノ彈力性ヲ示シタリ日本國民ノ獻身的愛
國心ハ莫大ナル戰時稅ヲ甘諾シ且ツ歐洲ノ貨幣市場ハ軍事的成功ノ感覺ニ依リ
開戰前又ハ開戰後初期ノ時代ニ期待セシヨリ遙キ一層ノ好意ヲ表シタリシナリ
然レトモ豫想外ナル彈力性アリト雖モ結局最極端ナキ能ハス最初二回ノ外債ハ
稅關收入ヲ其後二回ノ外債ハ還草專賣益金ヲ以テ抵當トナシタルヲ以テ將來更
ニ擔保ヲ供スルハ容易ノ業ニアラサルノミナラス軍事公債ニ由レル日本歲計豫
算ノ負擔ハ既ニ將來多額ナル軍事外債募集ノ見込ヲ少クトモ非常ニ疑ハシメ且
ツ內國貨幣市場ハ歴然其資力ヲ消費セシメタリ露國モ亦爾後ノ公債ヲ募集スル
ニ就キ困難ナル境遇ニ在リシハ確實ナリ然レトモ兩國カ其中央銀行ノ金貨貯藏
高ニ著手スル最後ノ手段ヲ使用シテマテ戰爭ノ繼續ヲ決心シタリトセハ露國ハ
此點ニ關シテモ數倍ノ優勢ヲ示スヘシ

此外露國ニ在テハ最近二十年間ノ財政政策ノ賜タル國有鐵道ノ一部分ノ買入若
ハ賣却ニ依テ更ニ資金ヲ調達スル餘裕アリ固ヨリ斯ノ如キ國有財產ノ蹂躪カ露
國公債ノ相場ヲ動搖セシムルコト恰カモ銀行ノ金貨流用ニ依リ露國本位貨幣ノ
相場ヲ動搖セシムルカ如キモノアリシナラン然レトモ苟モ露國ニシテ斯ノ如キ

第三編

三三八

愚念ヲ顧慮セサル決心ヲ爲ス限リハ露國ハ巨額ノ資金ヲ得ルニ難カラサルナリ
 戰勝國ノ司令官及政治家カ敵國ヲ征服シ及軍事上當然終局ノ目的ヲ達スル以前
 ニ戰爭ヲ中止スルカ如キハ決シテ容易ノ業ニアラサルナリ戰勝國カ切齒扼腕シ
 テ他ノ威力ニ屈從セサルヘカラサリシ實例ハ蓋シ稀ナラス露國カ東方戰爭ノ際
 戰陣準備セル英國艦隊ヲ顧慮シテ土京ニ屈從シタルカ如キ乃チ其一ナリ更ニ戰
 勝軍隊カ最後ノ成功前偉大ナル政治家ノ遠謀深慮ノ爲メ抑制セラレタル實例ア
 ヲ千八百六十六年ウキーンニ於ケル普國軍隊ノ如キ乃チ其一ナリ日露講和ハ日本
 政治家ノ自認スル如ク財政上ノ考慮之ヲ決シタリシナリ
 戰費賠償ヲ得ルカ爲メ其要求額ト同一ノ費用ヲ以テ戰爭ヲ繼續セサルハ當然ノ
 事理ナリ又浦鹽及哈爾濱ヲ攻略スルモ露國ニ戰費賠償ヲ強制スルコト能ハサル
 ヘシトノ日本政治家ノ注意ハ適切ナリ然レトモ日本ハ是ニ由テ少クトモ軍事上
 其目的ヲ達シ露國ヲ全然太平洋ヨリ遮斷スルコトヲ得タリシナルヘシ而シテ其
 之ヲ拋棄スルコトヲ決心シタル所以ソモノハ斯ノ如キ目的ヲ以テ戰爭ヲ續行ス
 ルニハ更ニ日本ノ殆ント堪フルコト能ハサル巨額ノ軍費ヲ要スヘク且ツ日本ノ
 政治家ハ講和ト共ニ發生スル軍事上及經濟上ノ任務ヲ迅速且ツ完全ニ遂行スル

第三編

三三九

ニハ日本カ戰爭ノ爲メ其財力ヲ極端マテ消費セサルコトヲ要スル事理ヲ解シタ
 ルニ在リ
 如上ノ説明ハ爾來露國財政ノ形勢ニ如何ナル變化ヲ呈シタリトスルモ猶ホ且ツ
 正鵠ヲ得タルモノナリ蓋シ露國ニ於ケル紛亂騷擾ノ繼續ハ露國ノ財政及國家信
 用ニ有害ナル影響ヲ及ホスコト必然ナリト雖之レ露國カ戰爭ノ終結ニ際シテ尙
 ホ其敵手ニ對シ財政上優者タル地步ヲ占メ且ツ其財政上ノ優勢カ戰爭ノ進行及
 講和ノ締結ニ前述シタル如キ效果ヲ及ホシタリテフ他ノ事實——之レ本論ニ於テ
 吾人ノ趣味ヲ有スル唯一ノ要點ナリ——ヲ動スニ足ラサルナリ
 吾人ハ以上説明シタル如キ吾人ノ觀察及考慮ニヨリ次ノ結論ニ歸著シタリ
 戰爭ノ經過及勝敗ヲ決シタルモノハ金ニアラスシテ劍ナリ日本ハ優勢ナル露國
 ト決戰ノ避クヘカラサルコトヲ看取シ其納稅力及國家信用ヲ極端マテ伸張シ是
 ニ由テ以テ自己ノ國民的存亡及世界的地位ノ爲メ義務履行ノ誠意及若干成功ノ
 希望ヲ以テ戰爭ヲ開始スルコトヲ得セシメタル軍備ヲ創造シタリシナリ
 夫ト斯ノ如ク財政上強弱ノ關係ハ未タ以テ勝敗ヲ決スルノ效力アラサリシト雖
 露ニ其戰爭ノ經過及勝敗ニ及ホシタル影響ヲ至テハ頗ル顯著ナルモノアリキ露

三四〇
國ニ在テハ其財政的強者ノ地位ハ純然タル軍事的交戦ノ重要ナル後楯ナリシナ
リ日本ニ在テハ財政的弱慮ハ戦争ノ充全ナル實行ヲ不可能ナラシメタリ—唯日
本ニ在テハ最後ニ至ルマテ存在シタル危険即チ露國ニ於テハ財政的後楯ノ爲メ
辛ウシテ忍耐スルコトヲ得タリシカ如キ重大ナル軍事上ノ失敗カ其國家信用ニ
及ス反動ノ結果トシテ到底挽回スルコトヲ得サル回轉ヲ戦争ニ與フル不幸ヲ免
レタリシナリ

財政的強弱ノ懸隔ハ講和談判ニ際シ最モ明白ナル效驗ヲ示シタリ日本人ハ其軍
事的成功ニ依リ有力ノ掩護ヲ有スル希望ニ遙ニ及ハサル條件ヲ以テ満足セサル
ヘカラサリシニ露人ハ其財政上ノ優勢ニ依リ承諾シ易キ名譽ノ講和條約ヲ獲タ
リ
露國ノ大藏大臣及講和委員タル「フオンウキョウ」ト「ハ」ボーツマウス「談判終了後未
タ會テ今回ノ如ク劍ニ對スル筆ノ優勢ヲ感シタルコトアラスト放言シタリト云
フ露國ノ講和談判ニ於ケル成功ノ純分カ外交ノ巧妙ナル筆ニ歸スルハ夫レ或ハ
爾ラン然レトモ財政的後楯ナクンハ筆モ恐ラク劍ト對抗スルコト能ハサリシナ
ラン「ダキョウ」氏ハ理財家トシテハ謙遜ニ失シ外交家トシテハ高慢ニ過キタリ

シナリ然ラサレハ彼ハ恐ラク「今回モ金ハ銀ヨリ重カリシ」ト稱シタルヘケレハナ
リ

日露之戰資(日露戰爭ノ財政的方面) 終

Vertical text on the right side of the page, possibly a title or page number, appearing as a vertical column of characters.

Vertical text located in the upper right quadrant of the page.

Vertical text running down the center-right side of the page, possibly a date or publication information.

明治三十九年五月二十九日印刷

明治三十九年五月三十一日發行

臺北廳經解八甲庄九十三番戶

印發 刷行 人兼 酒 井 邦 之 輔

臺北廳臺北城內西門街四十七番戶

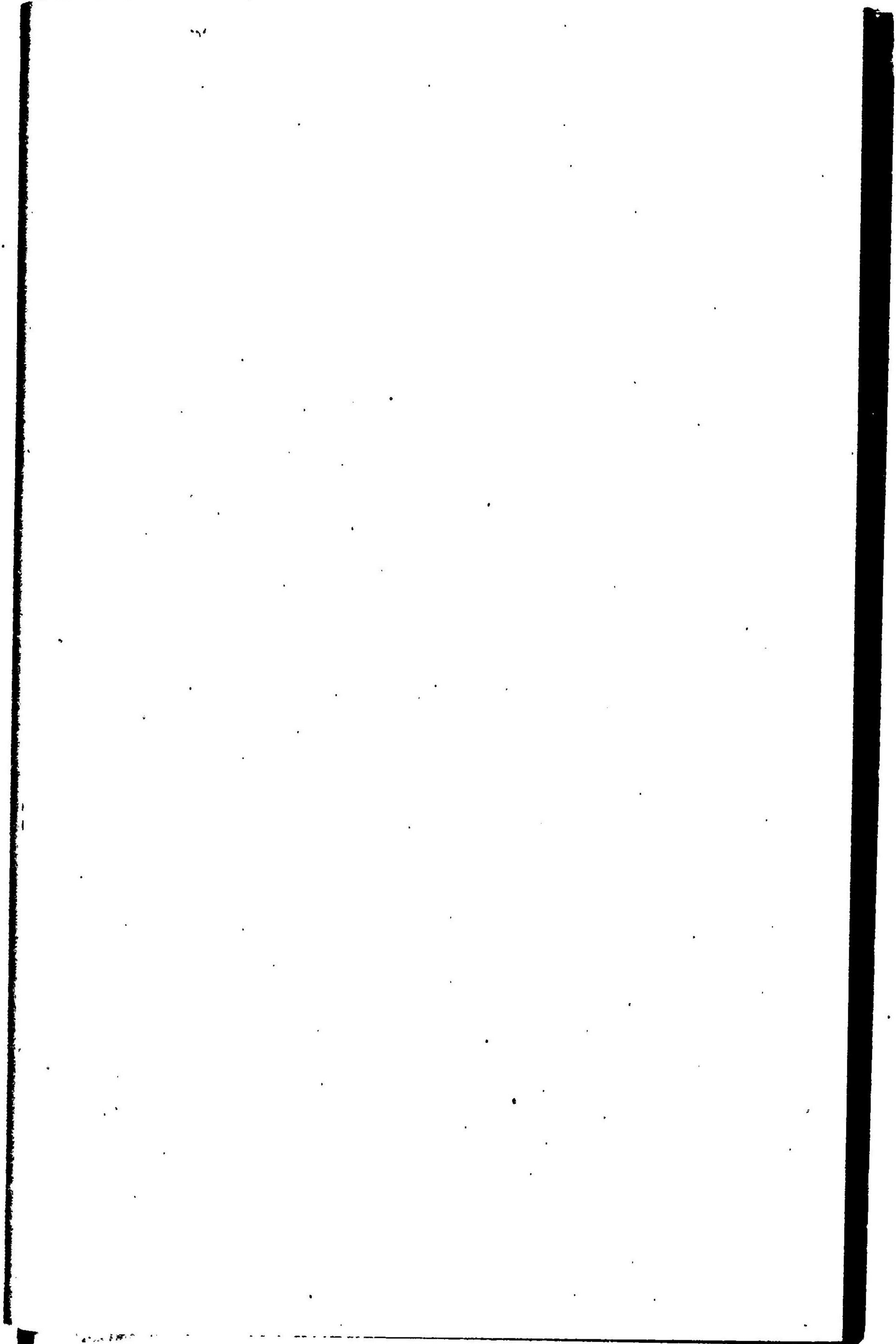
印發 刷行 所及 株式會社 臺灣日日新報社

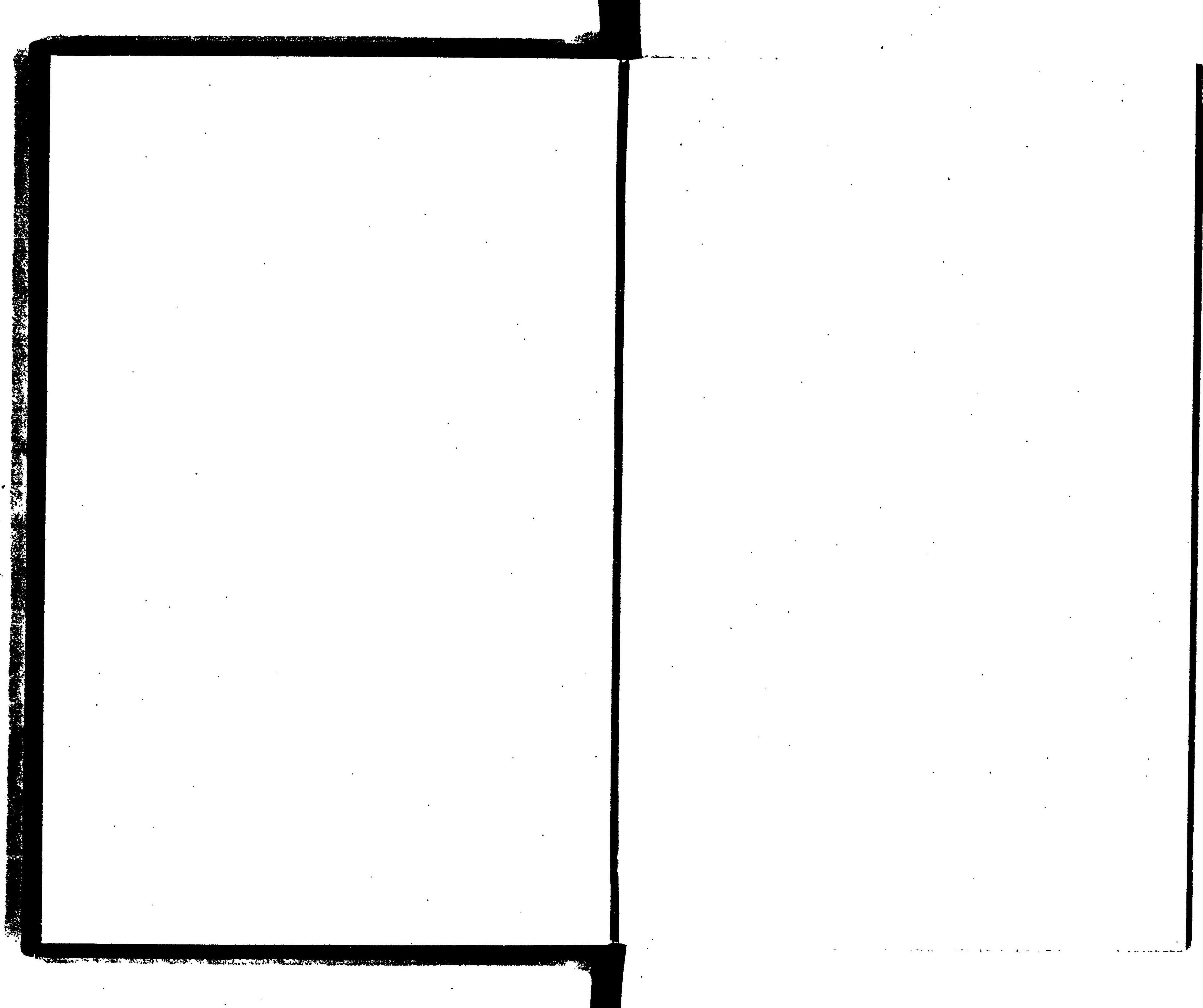
池 A-11

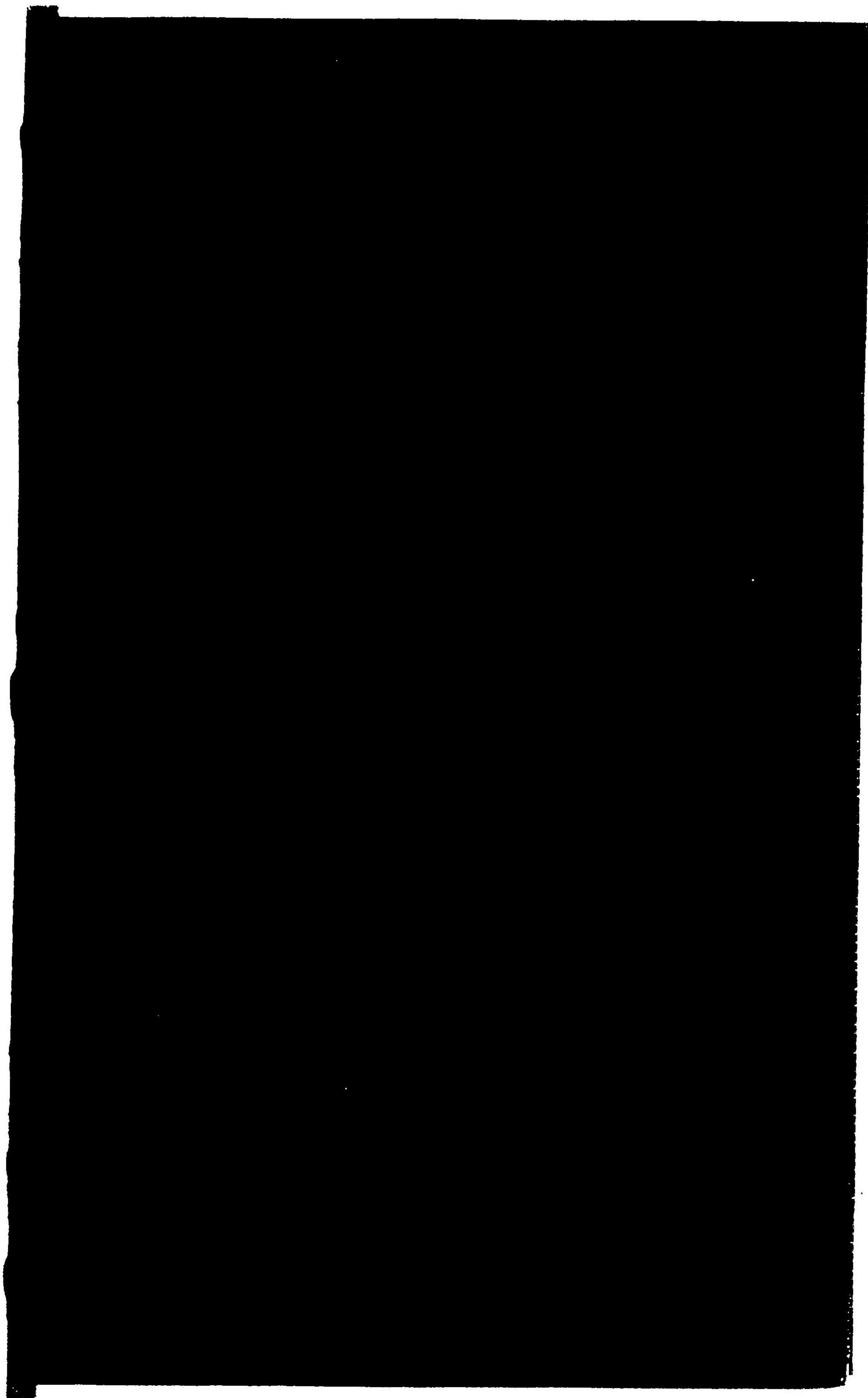
臺灣日日新報社營業品目

●臺灣日日新報社營業品目●

- 一 臺灣日日新報(和文)漢文臺灣日日新報(日刊)發行
- 一 和洋紙インキ其他活版石版用諸材料一式
- 一 活版石版寫真銅版類製版及印刷
- 一 活字鑄造其他活版諸機械及附屬品販賣
- 一 和洋式諸帳簿製造一式
- 一 時事に緊切なる各種書籍出版發行







040806-000-2

DG 12-4

日露之戦資

カル・ヘルフェリッヒ / 著

M39

BDE-056.1



